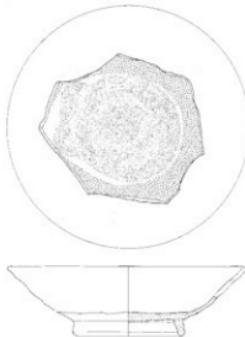


元総社蒼海遺跡群 (41)

元総社蒼海遺跡群 (42)

元総社蒼海遺跡群 (43)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海遺跡群 (41) H-34号住居
跡出土の金の付着した灰釉陶器

2 0 1 3 . 3

前橋市教育委員会



1 棚名山と元總社蒼海遺跡群(40)と(41)

巻頭図版 2



2 元總社蒼海遺跡群(41)の全景

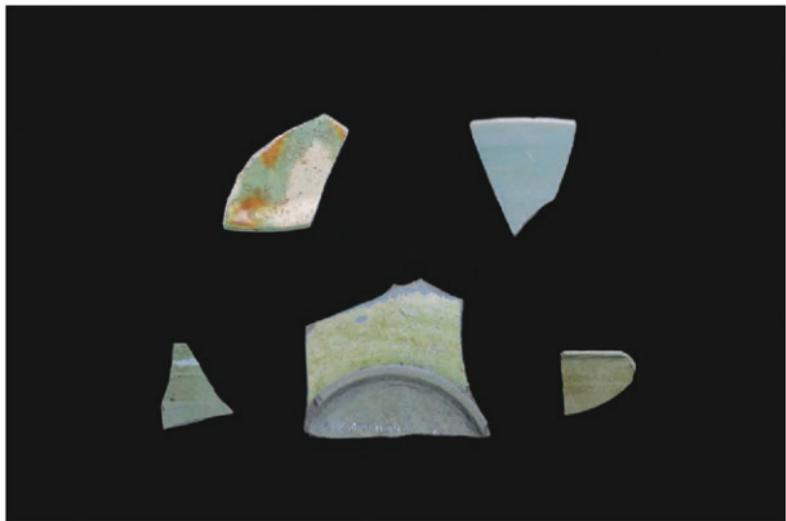


3 元總社蒼海遺跡群(41) H-56号住居跡

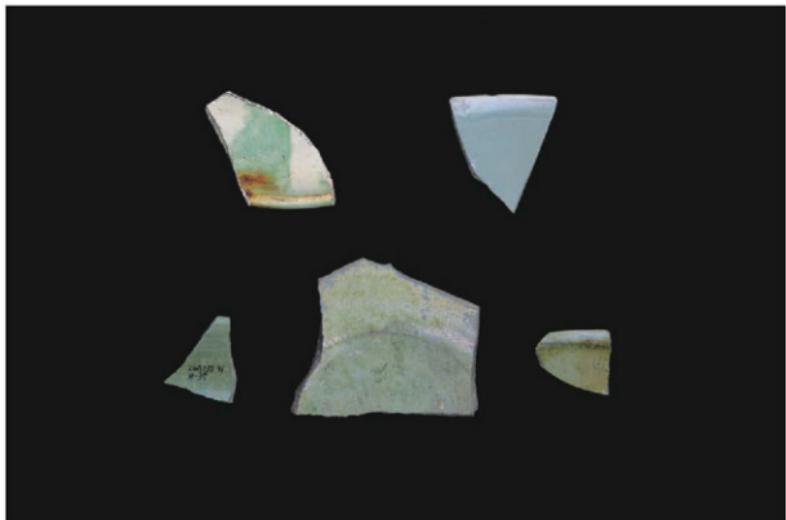


4 元總社蒼海遺跡群(41) H-56号住居跡

巻頭図版 4



5 元總社蒼海遺跡群(41)出土の奈良三彩、綠釉陶器、青磁(外面)



6 元總社蒼海遺跡群(41)出土の奈良三彩、綠釉陶器、青磁(内面)



7 元總社蒼海遺跡群(41) H-34号住居跡出土の金の付着した灰釉陶器



8 元總社蒼海遺跡群(41) J-2号住居跡出土の浅鉢形土器

巻頭図版 6



9 元總社蒼海遺跡群(41)出土の墨書き器、刻書き器



10 元總社蒼海遺跡群(43)H-1号住居跡

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国を中心として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、國府など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけざった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる鶴橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群(41)、(42)、(43)は古代上野国の中核地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、國府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳～平安時代の竪穴住居跡が密集した状態で検出されました。住居跡からはたいへん貴重な奈良三彩や金が付着した灰釉陶器が発見されました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、國府や國府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のまでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、極暑の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成25年3月

前橋市教育委員会
教育長 佐藤博之

例　　言

- 1 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（41）、（42）、（43）発掘調査報告書である。
- 2 調査主体は、前橋市教育委員会である。
- 3 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所	群馬県前橋市元総社町1608番地ほか
発　　掘　　調　　査　　期　　間	平成24年5月10日～平成24年12月21日
整理・報告書作成期間	平成24年12月25日～平成25年3月15日
発　　掘　　・　　整　　理　　担　　当　　者	小峰 篤・瀧澤重雄（埋蔵文化財係）
- 4 本書の原稿執筆・編集は小峰・瀧澤が行った。
- 5 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

青木あつ子・青木麻耶・小畠憲治・佐藤 修・下田真弓・瀧上政信・田辺 昇・町田妙子・町田敏彦・峰岸 あや子・湯浅たま江・湯浅道子・石倉稔夫・下平勇樹・高澤京子・多田啓子・奈良啓子・橋本ちづる・星野 和子・山田哲也
- 6 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

- 1 挿図中に使用した北は、座標北である。
- 2 插図に国土交通省国土地理院発行の1：200,000地形図（宇都宮、長野）、1：25,000地形図（前橋）、1：6,000前橋市現形図を使用した。
- 3 遺跡の略称は、24A130-41、24A130-42、24A130-43である。
- 4 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡	J…縄文時代の住居跡	T…竪穴状遺構	I…井戸跡
O…風倒木跡	B…掘立柱建物跡	W…溝跡	A…道路状遺構
P…ピット・貯蔵穴			J D…縄文土坑
- 5 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構	全体図…1/200、住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60、竈・炉断面図…1/30
遺物	土器…1/3、1/4、石器・石製品・土製品…2/3、1/3、鉄器・鉄製品…1/2、瓦…1/6
- 6 計測値については、（　　）は現存値、〔　　〕は復元値を表す。
- 7 セクション注記と遺物観察表の色調について新版標準土色帳（小山・竹原 1967）を基準とした。
- 8 遺構平面図の-----は推定線を表す。
- 9 スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図	焼　土…	粘土…	
遺構断面図	構築面…		
遺物実測図	須恵器断面…	灰釉陶器断面…	灰釉陶器表面…
	緑釉陶器断面…	内黒…	粘土、たたき…
	いぶし焼成…	煤、炭化物付着…	石；煤、被熱痕…
- 10 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B	（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP	（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6世紀中葉）
Hr-FA	（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、6世紀初頭）
As-C	（浅間C軽石：供給火山・浅間山、4世紀前半）

目 次

は じ め に

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査方針と経過	
1 調査方針	7
2 調査経過	7
IV 基本層序	15
V 遺構と遺物	16
VI まとめ	43
VII 付 編（金付着灰釉陶器分析）	106

図 版

口絵 1 標名山と元總社蒼海遺跡群 (40) と (41)	PL. 11 元總社蒼海遺跡群 (41) H—56・58・59号住居跡、出土遺物
2 元總社蒼海遺跡群 (41) の全景	12 元總社蒼海遺跡群 (41) H—60・61号住居跡、出土遺物
3 元總社蒼海遺跡群 (41) H—56号住居跡	13 元總社蒼海遺跡群 (41) H—69・70号住居跡、T—1～3号竪穴状遺構、B—1号掘立柱建物跡、出土遺物
4 元總社蒼海遺跡群 (41) H—56号住居跡	14 元總社蒼海遺跡群 (41) J—1・2号住居跡、JD—1号土坑、出土遺物
5 元總社蒼海遺跡群 (41) 出土の奈良三彩、綠釉陶器、青磁 (外側)	15 元總社蒼海遺跡群 (43) H—1～4号住居跡
6 元總社蒼海遺跡群 (41) 出土の奈良三彩、綠釉陶器、青磁 (内側)	16 元總社蒼海遺跡群 (41) 出土繩文土器
7 元總社蒼海遺跡群 (41) H—34号住居跡出土の金の付着した灰釉陶器	17 元總社蒼海遺跡群 (41) H—1～4・7・9～11・13・14号住居跡出土遺物
8 元總社蒼海遺跡群 (41) J—2号住居跡出土の浅鉢形土器	18 元總社蒼海遺跡群 (41) H—14・15・18～23・26号住居跡出土遺物
9 元總社蒼海遺跡群 (41) 出土の墨書き土器、刻書き土器	19 元總社蒼海遺跡群 (41) H—22・26・28・29・32～38号住居跡出土遺物
10 元總社蒼海遺跡群 (43) H—1号住居跡	20 元總社蒼海遺跡群 (41) H—36～40・43～45号住居跡出土遺物
PL. 1 元總社蒼海遺跡群 (41) 全景、H—1～4号住居跡	21 元總社蒼海遺跡群 (41) H—45・47～56号住居跡出土遺物
2 元總社蒼海遺跡群 (41) H—5～11号住居跡	22 元總社蒼海遺跡群 (41) H—52・56・58～60・63・67・69号住居跡出土遺物
3 元總社蒼海遺跡群 (41) H—12～18・20号住居跡	23 元總社蒼海遺跡群 (41) H—69・71号住居跡出土遺物、T—3号竪穴状遺構出土遺物、O—1出土遺物、グリッド出土遺物
4 元總社蒼海遺跡群 (41) H—19・21・23・24・26・28号住居跡、出土遺物	24 墨書き土器・刻書き土器
5 元總社蒼海遺跡群 (41) H—22号住居跡	25 石鏃・石製品
6 元總社蒼海遺跡群 (41) H—29～33号住居跡、出土遺物	26 打製石斧・石匙・石鍤
7 元總社蒼海遺跡群 (41) H—34～39号住居跡、出土遺物	27 元總社蒼海遺跡群 (41) H—54鍛冶工房跡出土遺物、鉄器・鉄製品
8 元總社蒼海遺跡群 (41) H—40～45・47・48号住居跡、出土遺物	28 瓦
9 元總社蒼海遺跡群 (41) H—46・49・50・53・71号住居跡、H—54号鍛冶工房跡、出土遺物	
10 元總社蒼海遺跡群 (41) H—52・55・57号住居跡、出土遺物	

挿 図

Fig. 1 元總社蒼海遺跡群位置図	Fig. 5 元總社蒼海遺跡群 (43) 調査区全体図
2 周辺遺跡図	6 基本層序
3 グリッド設定図	7 (41) J—1・2号住居跡、JD—1号土坑
4 元總社蒼海遺跡群 (41) 調査区全体図	8 (41) H—1・2・8号住居跡

Fig. 9 (41) H-3・4・7号住居跡	49	Fig. 40 (41) A-1号道路状遺構	89
10 (41) H-5・6・9号住居跡	50	41 (43) H-2・3号住居跡	81
11 (41) H-10~12号住居跡	51	42 (43) H-1号住居跡	82
12 (41) H-13・14・17~19号住居跡	52	43 (43) H-1号住居跡	83
13 (41) H-13・17~19号住居跡	53	44 (43) H-1号住居跡	84
14 (41) H-15・16・20・21号住居跡	54	45 (43) H-4号住居跡、W-1号溝跡	85
15 (41) H-22・23号住居跡	55	46 (41) J-1号住居跡出土遺物	86
16 (41) H-24・26号住居跡	56	47 (41) J-2号住居跡出土遺物	87
17 (41) H-28・29号住居跡	57	48 (41) J-2号住居跡、グリッド等出土遺物	88
18 (41) H-30~32号住居跡	58	49 (41) H-1~4・7・9~11号住居跡 出土遺物	89
19 (41) H-33・34号住居跡	59	50 (41) H-13~15・18~22号住居出土遺物	90
20 (41) H-35・36・38・39号住居跡	60	51 (41) H-22~24・26・28~30・32号住居跡 出土遺物	91
21 (41) H-35・37~39号住居跡	61	52 (41) H-33~35号住居跡出土遺物	92
22 (41) H-40~44号住居跡	62	53 (41) H-36~39号住居跡出土遺物	93
23 (41) H-45・46号住居跡	63	54 (41) H-39~41・43~45号住居跡 出土遺物	94
24 (41) H-42・47・48号住居跡	64	55 (41) H-45・47~55号住居跡出土遺物	95
25 (41) H-43号住居跡	65	56 (41) H-52・56・58・59号住居跡出土遺物	96
26 (41) H-49~51号住居跡	66	57 (41) H-56・58~61・63号住居跡出土遺物	97
27 (41) H-52号住居跡	67	58 (41) H-67・69~71号住居跡、T-3号竪穴 状遺構、O-1号風倒木跡、グリッド等出土 遺物	98
28 (41) H-54号鍛冶工房跡、H-71号住居跡	68	59 (43) H-1号住居跡出土遺物	99
29 (41) H-53・57・58号住居跡	69	60 (43) H-1~4号住居跡、W-1号溝跡出土 遺物	100
30 (41) H-56号住居跡	70	61 (41) 土製品、石製品	101
31 (41) H-56号住居跡	71	62 (41) (43) 石製品	102
32 (41) H-59~61号住居跡	72	63 (41) 鉄製品	103
33 (41) H-63号住居跡	73	64 (41) 瓦	104
34 (41) H-55・64・65号住居跡	74	65 (41) 瓦	105
35 (41) H-66~68号住居跡	75		
36 (41) H-69・70・72号住居跡	76		
37 (41) B-1号掘立柱建物跡	77		
38 (41) T-1・2号竪穴状遺構	78		
39 (41) T-3号竪穴状遺構 I-1号井戸跡、 O-1号風倒木跡、W-1号溝跡	79		

表

Tab. 1 元總社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表	5	Tab. 6 元總社蒼海遺跡群 (43) 出土土器觀察表	39
2 住居跡等一覧表	31	7 石器・石製品觀察表	40
3 溝跡計測表	34	8 鉄器・鉄製品觀察表	41
4 繩文土器觀察表	34	9 土製品觀察表	42
5 元總社蒼海遺跡群 (41) 出土土器觀察表	35	10 瓦觀察表	42

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、14年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成24年5月7日付けで、前橋市長 山本 龍より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会では実施について協議を行い、これを受諾し、平成24年5月8日付けで、調査依頼者である前橋市長 山本 龍に対し前橋市教育委員会による発掘調査を実施する旨の回答を行った。これを受け、平成24年5月10日から現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（41）」（遺跡コード：24A130-41）、「元総社蒼海遺跡群（42）」（遺跡コード：24A130-42）、「元総社蒼海遺跡群（43）」（遺跡コード：24A130-43）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「（41）（42）（43）」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起きた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かつて流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。總社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畠を主とした畠地として利用してきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国總社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、県道足門・前橋線が東西に走り、東側には主要地方道前橋・安中・富岡線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畠が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる總社古墳群と山王庵寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連続と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

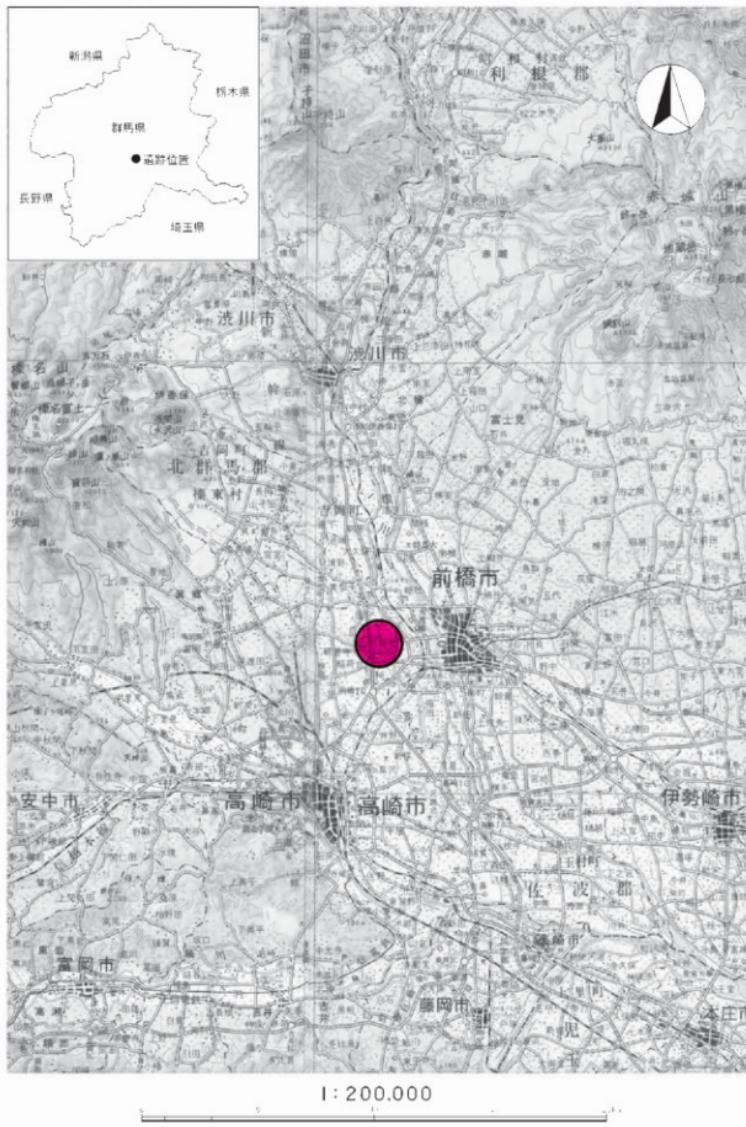


Fig. 1 元總社蒼海道跡群位置図

域が筆頭に挙げられ、綱文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王庵寺跡(放光寺)がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鶴鳥、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から5ヵ年計画で「山王庵寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。平成21年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的な中心地としての様相を呈てくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「國」「邑厨」等と書かれた墨書き土器や人形が出土した元総社寺道遺跡などがある。また、国府城の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された闊泉橋遺跡や元総社蒼海遺跡群(7)(9)(10)と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府城の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面鏡、巡方(腰帶具)、縁袖陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、礎等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査團で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町(現高崎市)の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN-64°-E方向の東山道(国府ルート)があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

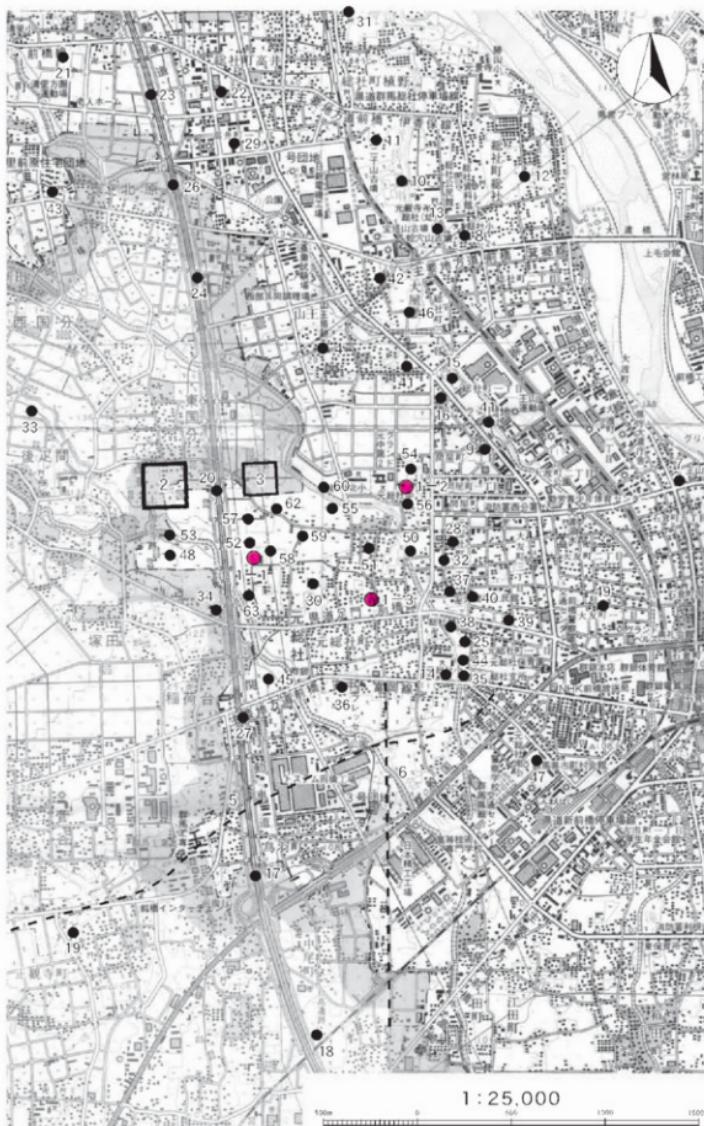


Fig. 2 周辺道路図

Tab. 1 元経社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代・主な遺構・出土遺物
1-1	元経社蒼海遺跡群(41)	2012	本遺跡
1-2	元経社蒼海遺跡群(42)	2012	本遺跡
1-3	元経社蒼海遺跡群(43)	2012	本遺跡
2	上野国分寺跡(県教委)	1980~88	奈良:金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良:西南隅・東南隅築垣
4	山王廣寺跡	(1974)	吉墳:塔心體・根巻石
5	東山道(推定)		
6	日高道(推定)		
7	王山古墳	1972	吉墳:前方後円墳(6C中)
8	蛇穴山古墳	1975	吉墳:方墳(8C初)
9	福荷山古墳	1988	吉墳:円墳(6C後半)
10	愛宕山古墳	1996	吉墳:円墳(7C初)
11	總社二子山古墳	未調査	吉墳:前方後円墳(6C末~7C初)
12	遠見山古墳	未調査	吉墳:前方後円墳(5C後半)
13	宝塔山古墳	未調査	吉墳:方墳(7C末)
14	元経社小学校校庭遺跡	1962	平安:掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	調文:住居跡
16	産業道路西遺跡		調文:住居跡
17	中尾遺跡(事業団)	1976	奈良・平安:住居跡
18	日高遺跡(事業団)	1977	弥生:水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具・平安:条里制水田跡
19	正観寺遺跡I~IV(高崎市)	1979~81	弥生:住居跡・古墳;住居跡・奈良・平安:住居跡・中世:溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域(事業団)	1980~83	調文:住居跡・配石遺構・弥生:住居跡・方形周溝墓・古墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・中世:掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・田	1980	調文:ビット・奈良・平安:住居跡・溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安:住居跡
23	下東西遺跡(事業団)	1980~84	調文:屋外理器・弥生:住居跡・古墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡・棚列・中世:住居跡・溝跡
24	国分境遺跡(事業団)	1990	吉墳:住居跡・奈良・平安:住居跡
	国分境II遺跡	1991	吉墳:住居跡・奈良・平安:住居跡
	国分境III遺跡(群馬町)	1991	吉墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・墓跡・中世:土壤基
25	元経社明神遺跡I~XIII	1982~96	吉墳:住居跡・水田跡・棚跡・奈良・平安:住居跡・溝跡・大形人形・中世:住居跡・溝跡・木目塗
26	北原遺跡(群馬町)	1982	調文:土坑・集石遺構・古墳:水田跡・奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡(事業団)	1978~83	古墳:住居跡・鍛冶場跡・奈良・平安:住居跡・掘立柱建物跡(神殿跡)
28	閉泉横遺跡	1983	奈良・平安:溝跡(上幅6.5~7m、下幅3.24m、深さ2m)
29	柳木遺跡・II遺跡	1983, 88	奈良・平安:住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	吉墳:住居跡・平安:住居跡・中世:井戸跡
31	桜ヶ丘遺跡		弥生:住居跡
	元経社桜ヶ丘遺跡・II遺跡	1985, 87	奈良・平安:住居跡
32	閉泉柄南遺跡	1985	吉墳:住居跡・奈良・平安:溝跡
33	後泥開遺跡I~III(群馬町)	1985~87	吉墳:住居跡・奈良・平安:住居跡・中世:道路状遺構
34	輝村田東遺跡(群馬町)	1985	平安:住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安:溝跡・木製品
36	天神遺跡・II遺跡	1986, 88	奈良・平安:住居跡
37	屋敷遺跡・II遺跡	1986, 95	吉墳:住居跡・平安:住居跡・中世:堀跡・石敷遺構
38	大友屋敷II・III遺跡	1987	吉墳:住居跡・平安:住居跡・溝跡・地下水坑
39	坂越遺跡	1987	奈良・平安:住居跡・溝跡
40	堰越II遺跡	1988	平安:住居跡

番号	道路名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
41	昌榮寺廻向道路・II道跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東道路	1988	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・中世：転跡
43	熊野谷道跡	1988	転文：住居跡・平安：住居跡・溝跡
43	熊野谷II・III道跡	1989	平安：住居跡
44	元経社田道跡 I ~ III (事業団)	1988~91	古墳：水田跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・壺串・墨書き土器・中世：溝跡
45	弥勒道跡・II道跡	1989, 95	古墳：住居跡・平安：住居跡
46	大屋敷道跡 I ~ VI	1992~2000	転文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元経社稻葉道跡	1993	転文：土坑・平安：住居跡・瓦塔
48	上野西分寺參道道跡	1996	古墳：住居跡・平安：住居跡
49	大友宅地添道跡	1998	平安：水田跡
	経社開泉明神北道跡	1999	古墳：水路・水田跡・溝跡・中世：溝跡
	経社開泉明神北II道跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・平安：住居跡・溝跡
50	経社開泉明神北V道跡	2004	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡
	元経社蒼海道跡群 (7)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
	元経社蒼海道跡群 (9)・(10)	2006	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
51	元経社宅地道跡 1~23トレンチ	2000	古墳：住居跡・平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構・中世：溝跡・近世：住居跡・五重塔・塊類
52	元経社小見道跡	2000	転文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元経社西川道跡 (事業団)	2000	古墳：住居跡・畠跡・奈良・平安：住居跡・溝跡
54	経社甲幅荷塚大道西道跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡・近世：溝跡
	経社甲幅荷塚大道西II道跡	2001	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・近世：溝跡
	元経社小見内Ⅲ道跡	2001	古墳：住居跡・溝跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・中世：掘立柱建物跡・溝跡
55	元経社小見内Ⅳ道跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：井戸跡
	元経社蒼海道跡群 (12)	2006	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：井戸跡
	経社甲幅荷塚大道西Ⅲ道跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
56	経社開泉明神北II道跡	2002	転文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
	経社甲幅荷塚大道西IV道跡	2003	古墳：畠跡・中世：溝跡
	元経社小見II道跡	2002	転文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：溝跡・道路状遺構
57	元経社小見神・V道跡	2003	転文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：掘立柱建物跡
	元経社小見神・VI道跡	2004	転文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
57	元経社蒼海道跡群 (4)	2005	転文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡
58	元経社小見田道跡	2002	転文：住居跡・古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡・道路状遺構
	元経社草作Y道跡	2002	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
	元経社小見内Ⅳ道跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・中世：土壤基・掘立柱建物跡・溝跡
	元経社小見内Ⅴ道跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：壁穴状遺構
59	元経社小見内ⅣX道跡	2004	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑・金片・金片・中世：溝跡・土壤基
	元経社蒼海道跡群 (2) (6)	2005	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・井戸跡・中世：溝跡
	元経社蒼海道跡群 (11)	2006	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・中世：溝跡
60	元経社北川道跡 (事業団)	2002~04	古墳：水田跡・奈良・平安：住居跡・畠跡・中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
61	福荷塚東道跡 (事業団)	2003	古墳：住居跡・奈良・平安：住居跡・溝跡・電機器材探掘痕・井戸跡
62	元経社小見内Ⅳ道跡	2003	転文：住居跡・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・中世：畠跡・溝跡
	元経社蒼海道跡群 (1) (5)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡・中世：溝跡・土坑墓
63	元経社蒼海道跡群 (8)	2006	奈良・平安：住居跡・縄輪陶器

* 調査年度の欄の（ ）は調査開始年度を表す。＊道跡群の欄の（事業団）は（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

III 調査方針と経過

1 調査方針

発掘調査を依頼された箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、掘削が及ぶ道路用地等ある。調査面積は、元総社蒼海遺跡群(41) 1,943m²、元総社蒼海遺跡群(42) 8 m²、元総社蒼海遺跡群(43) 280 m²、総調査面積は、2,231m²となった。遺構番号は、遺跡ごとに個別に付番することとし、41-H-1号住居跡、43-H-1号住居跡のように、遺構の前に必ず遺跡番号を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）X = +44000・Y = -72200を基点（X 0・Y 0）とする4mピッチのものを使用し、元総社蒼海遺跡群(41)においては、西から東へX 43、44、45…、北から南へY 136、137、138…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX 43・Y 136の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X = +43,439.999	Y = -72,000.000
緯 度	36°23'19".9209	経 度 139°01'50".3725
子午線収差角	28°34"	増 大 率 0.999963

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C・Hr-FP軽石とAs-B軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板・簡易遺方測量を行い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

現地調査は平成24年5月10日から12月21日まで行った。調査経過は下記のとおりである。

元総社蒼海遺跡群(41) …本調査地の調査面積は1,943m²である。5月10日から25日まで、複数の重機による掘削を行った。その後ジョレンや移植ゴテなどを用い、人力で遺構確認・掘削を行った。調査区内の遺構は重複が激しくその確認が困難であったため、サブルエンチ掘削による断面確認を併用しながら調査を進めた。それでも確認が難しい場合はベルトを残し平面的に掘り下げて遺構の把握に努めた。9月1日には近隣の住民を対象とした小規模ながらも現地説明会を開催するにいたった（参加者91名）。古墳・奈良・平安時代の遺構調査については、11月半ばをもって終了となり、引き続き11月14日からは繩文時代に関する遺構の調査を開始した。

検出された遺構は、竪穴住居跡が69軒、繩文住居跡2軒、竪穴状遺構3軒、掘立柱建物跡1軒、溝跡1条、井戸跡1基、土坑1基、繩文土坑1基、道路状遺構1条、風倒木跡1ヶ所を検出した。12月25日より埋め戻しを開始し、翌年1月7日に終了した。

元総社蒼海遺跡群(42) …5月18日、重機による掘削を行った。幅1mのトレンチを約8m掘削したが、地表面から約80cmがカクランであった。その直下に30cm程が耕作土となり、トレント底部まで黒褐色土が堆積していた。遺物の出土も無くトレントの底面及び断面で遺構確認を行ったが、遺構の検出には至らなかった。これを受け当該地は遺構なしと判断し調査

を終了した。掘削したトレッセが深かったため安全を考慮し写真撮影等を実施したのち即日埋め戻しを行った。

元總社苔海遺跡群（43）…本調査地の調査面積は280m²である。5月18日に重機による掘削を開始した。幅員5mの道路建設予定地で、当初竪穴住居跡2軒、溝1条を検出した。検出されたH-1号住居跡が比較的規模の大きい住居跡であることが想定され、6月4日よりその全容を確認するべく調査範囲を拡張した。その結果、検出された遺構は最終的に竪穴住居跡4軒、溝跡1条である。6月7日をもって調査終了となり埋め戻しを行った。

現地での調査は12月21日で終了となり、12月25日から文化財保護課庁舎での整理作業に着手した。出土遺物の接合・復元・実測、図面・写真等の整理作業及び報告書作成に従事し、翌年3月15日に全ての作業を終了した。

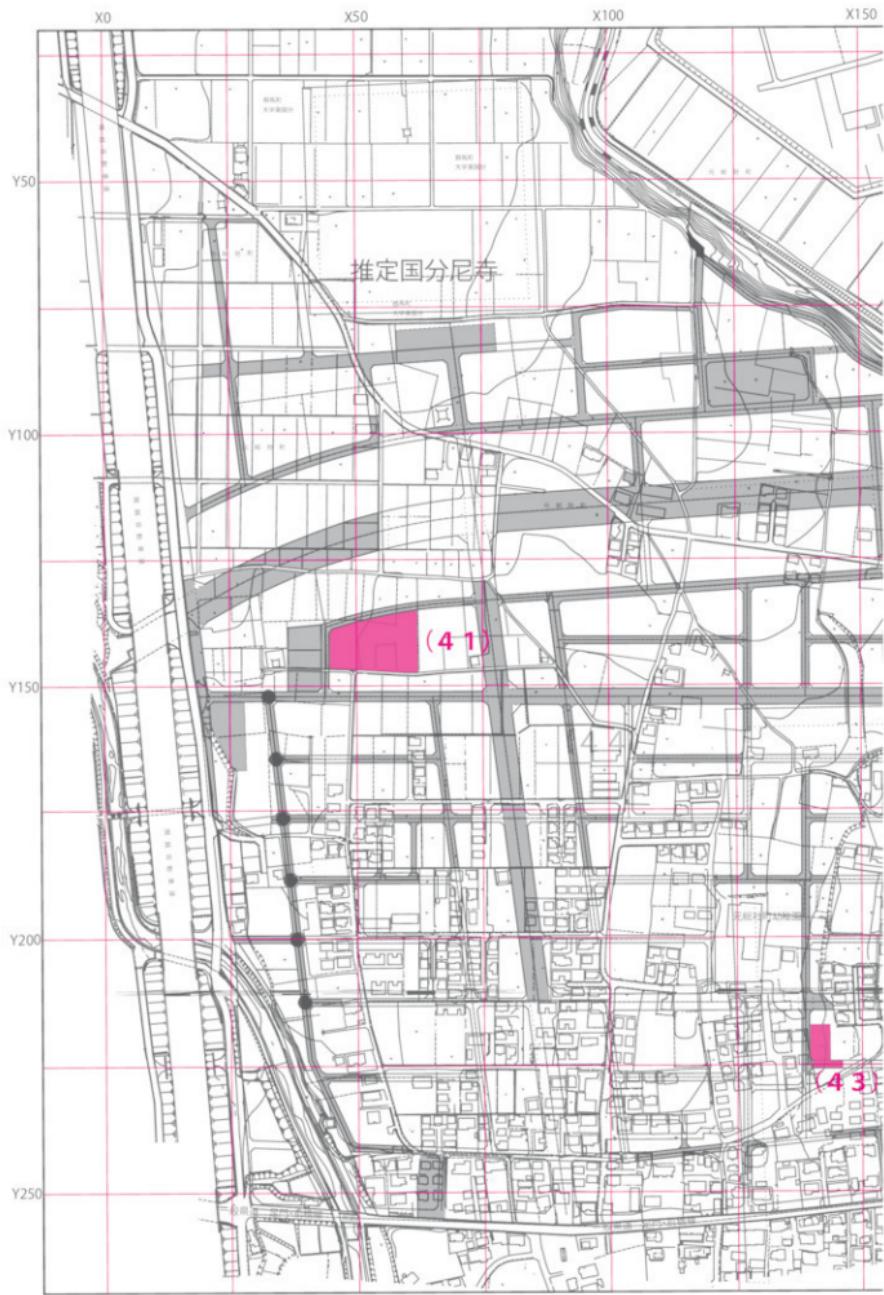
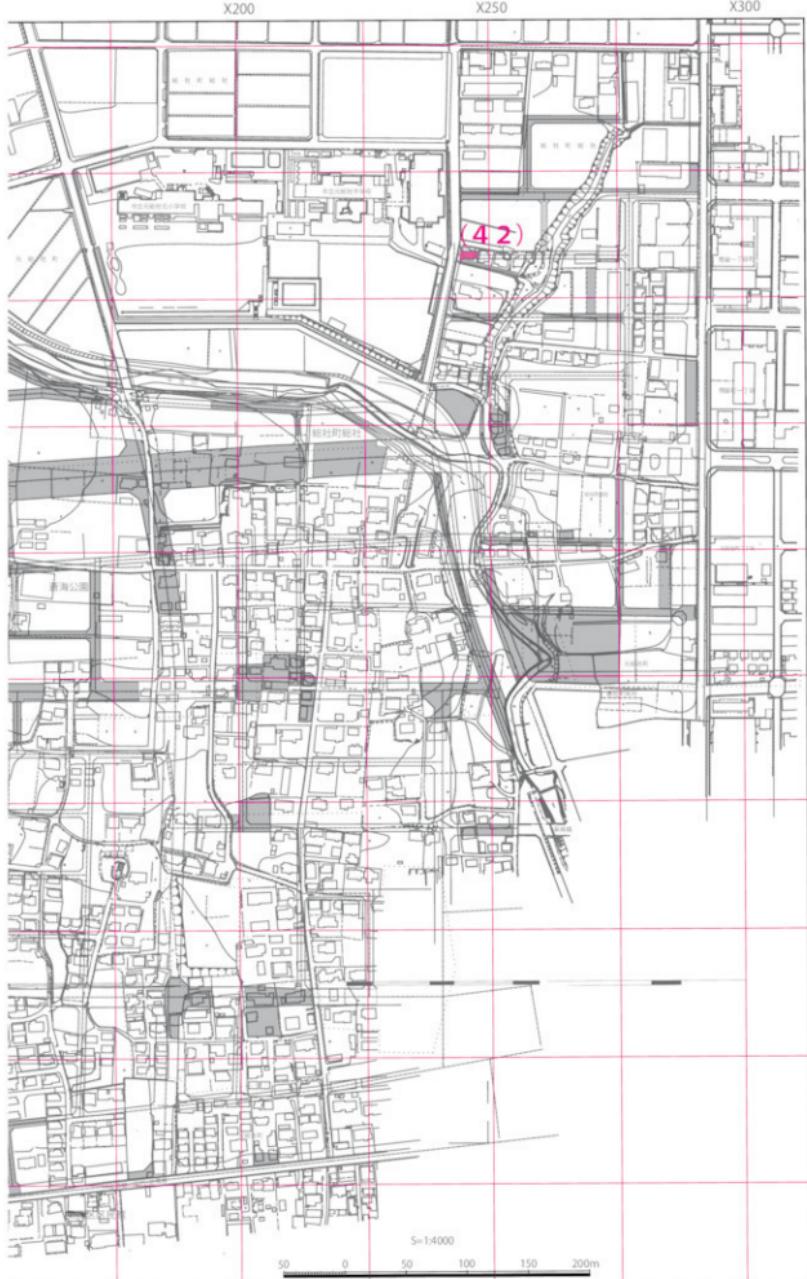


Fig. 3 グリッド設定図



元總社蒼海遺跡群（41）

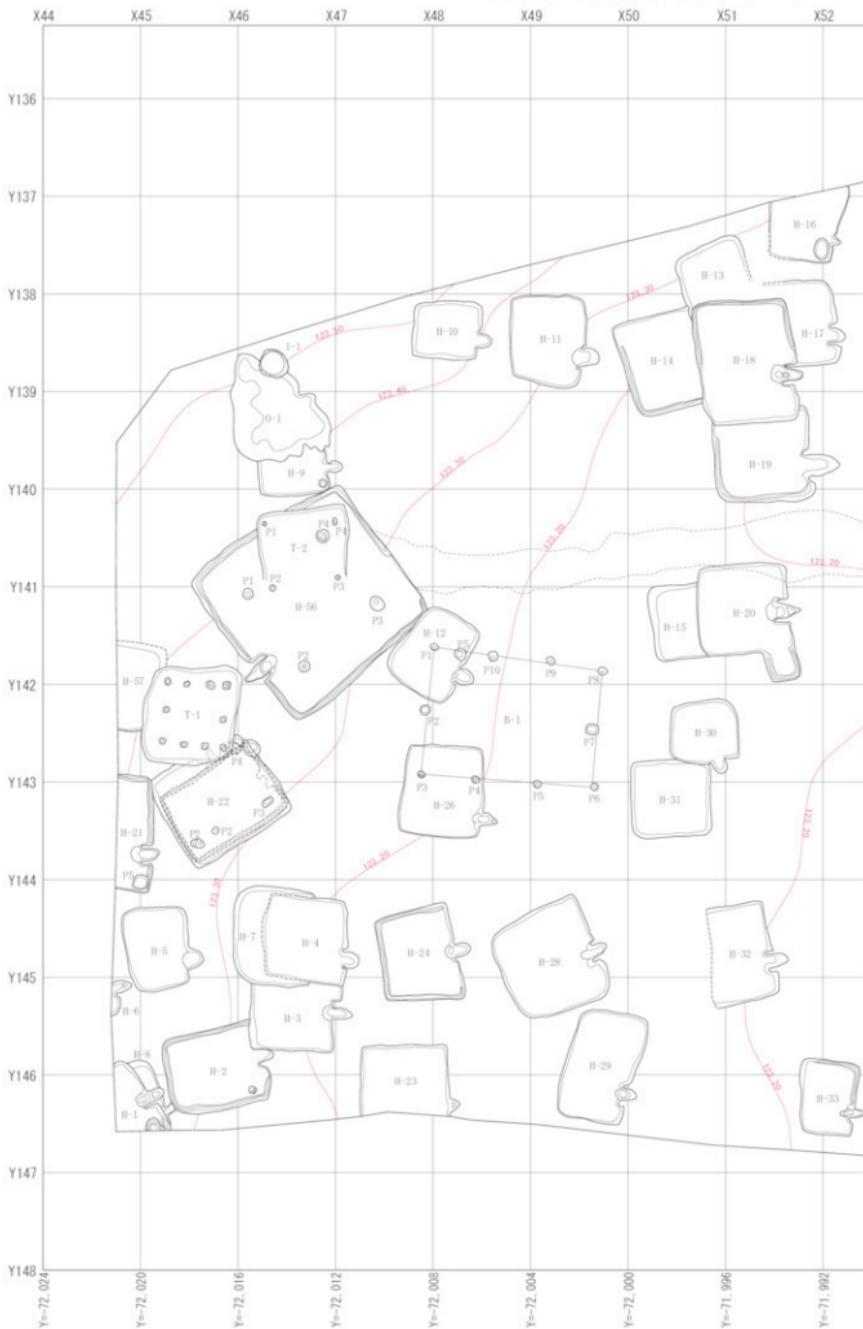
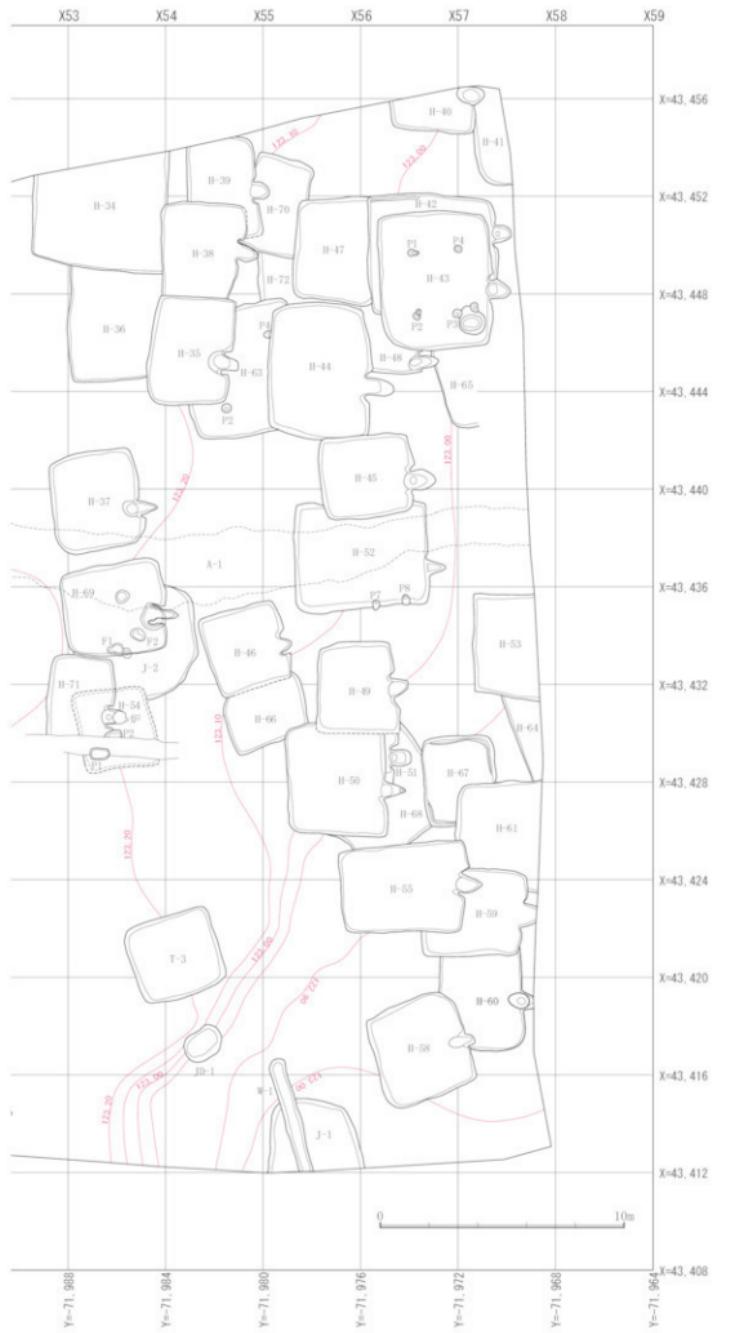


Fig. 4 元總社蒼海遺跡群（41）調査区全体図



元總社着海遺跡群 (43)

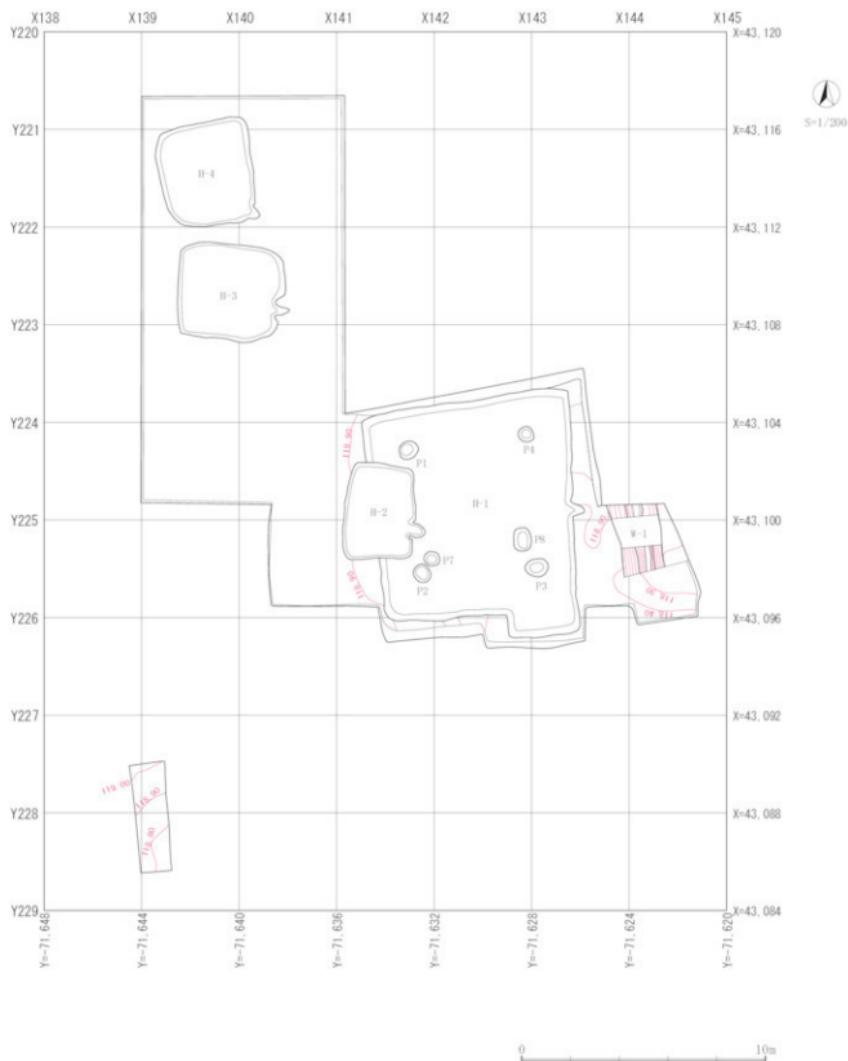
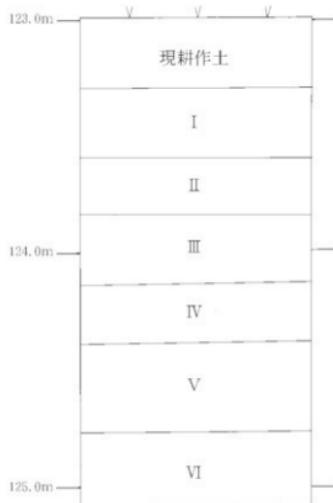


Fig. 5 元總社着海遺跡群 (43) 調査区全体図

IV 基本層序



- | | |
|----------------------|----------------------------|
| I 黒褐色粗砂層 (10YR3/2) | As-B 混土層
縮まり○ 粘り× |
| II 暗褐色細砂層 (10YR3/3) | As-C 混土層
縮まり○ 粘り× |
| III 黒褐色微砂層 (10YR3/2) | As-C 混土層
縮まり○ 粘り× |
| IV 黒色微砂層 (10YR2/1) | 純社砂層への漸移層
縮まり○ 粘り△ |
| V 褐色微砂層 (10YR4/4) | IV層・VI層の混在する土層
縮まり○ 粘り△ |
| VI 黄褐色筒微砂層 (10YR5/6) | 純社砂層
縮まり○ 粘り△ |

Fig. 6 基本層序

V 遺構と遺物

元総社蒼海遺跡群（41）

（1）竪穴住居跡

J-1号住居跡 (Fig. 7・46・62, PL.14・16・26)

位置 X55・56, Y146グリッド 主軸方向 N-84°-E 規模 短軸3.03m、長軸4.00m、壁現高34.0cm。面積 [9.44]m² 床面 平坦な床面。 爐 不明。 重複 W-1と重複。新旧関係は、本遺構→W-1。出土遺物 土師器6点、須恵器5点、繩文土器441点、石製品25点、黒曜石4点。そのうち16点を図示。時期 出土遺物から諸磯c式期と考えられる。

J-2号住居跡 (Fig. 7・47・48・61・62, PL.14・16・25・26)

位置 X53・54, Y140～142グリッド 主軸方向 N-102°-E 規模 短軸4.77m、長軸5.02m、壁現高64.0cm。面積 (19.04)m² 床面 平坦な床面。 爐 住居跡のほぼ中央とやや南西寄りに炉跡と思われる範囲を検出。重複 H-54, H-69, H-71と重複。出土遺物 土師器20点、須恵器13点、瓦3点、繩文土器1353点、石製品48点、黒曜石113点、不明1点。そのうち16点を図示。時期 出土遺物から諸磯b式期と考えられる。

H-1号住居跡 (Fig. 8・49・62, PL.1・17・25)

位置 X44・45, Y145・146グリッド 主軸方向 N-55°-E 規模 短軸(2.06)m、長軸(3.6)m、壁現高50.5cm。面積 (4.26)m² 床面 堅緻で平坦な床面。 窓 東壁ほぼ中央に位置する。主軸方向N-65°-E。全長120cm、最大幅90cm、焚口部幅33cm。重複 H-8と重複。新旧関係は、H-8→本遺構。出土遺物 土師器62点、須恵器6点、瓦3点、繩文土器28点。灰釉陶器1点、綠釉陶器1点、黒曜石2点。そのうち、土師器壺2点、土師器壺1点、須恵器蓋1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから6世紀後半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig. 8・49, PL.1・17)

位置 X45・46, Y145・146グリッド 主軸方向 N-80°-E 規模 短軸3.44m、長軸(4.2)m、壁現高35.5cm。面積 (12.78)m² 床面 堅緻で平坦な床面。 窓 東壁ほぼ中央に位置していた痕跡が認められるが、H-3号住居跡により壊されており、全容の詳細は不明。主軸方向N-77°-E。全長(72)cm、最大幅115cm、焚口部幅53cm。重複 H-3と重複。新旧関係は、本遺構→H-3。出土遺物 土師器314点、須恵器27点、瓦5点、繩文土器100点、石製品1点、黒曜石2点、その他1点。そのうち、土師器壺1点、須恵器壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから8世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig. 9・49・61・62, PL.1・17・25・26)

位置 X46・47 Y145グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸(2.92)m、長軸3.82m、壁現高26.0cm。面積 (9.59)m² 床面 平坦な床面。 窓 東壁ほぼ中央寄りに位置する。主軸方向N-98°-E。全長124cm、最大幅77cm、焚口部幅33cm。重複 H-2、H-4、H-7と重複。新旧関係は、H-2→本遺構→H-7→H-4。出土遺物 土師器137点、須恵器15点、瓦4点、繩文土器51点、石製品3点、その他1点。そのうち、須恵器壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.9・49、PL. 1・17)

位置 X46・47 Y144・145グリッド 主軸方向 N-94°-E 規模 短軸3.56m、長軸3.57m、壁現高30.5cm。面積 [11.47]m² 床面 平坦な床面。竈 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向N-103°-E。全長84cm、最大幅78cm、焚口部幅32cm。重複 H-3、H-7と重複。新旧関係は、H-3→H-7→本遺構。出土遺物 土師器218点、須恵器23点、瓦1点、縄文土器106点、黒曜石4点。奈良三彩の蓋の破片が出土。そのうち、奈良三彩蓋1点、土師器台付甕1点、須恵器1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから9世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig.10、PL. 2)

位置 X44・45 Y144・145グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 短軸2.68m、長軸3.5m、現在高31.0cm。面積 8.68m² 床面 平坦な床面。竈 住居南東隅に近い位置。主軸方向N-91°-E。全長86cm、最大幅70cm、焚口部幅60cm。重複 なし。出土遺物 土師器133点、須恵器19点、縄文土器62点、黒曜石2点、その他1点。時期 覆土や出土遺物などから6世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.10、PL. 2)

位置 X44、Y145グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸(0.8)m、長軸(1.1)m、壁現高26.0cm。面積 (0.60)m² 床面 平坦な床面。竈 住居南東隅に位置する。主軸方向N-75°-E。全長(81.0)cm、最大幅50.0cm、焚口部幅34.0cm。重複 なし。出土遺物 土師器4点、縄文土器4点。時期 覆土などからAs-C降下以降と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.9・49、PL. 2・17)

位置 X45・46、Y144・145グリッド 主軸方向 N-92°-E 規模 短軸(3.3)m、長軸(4.08)m、壁現高31.0cm 面積 (4.2)m² 床面 平坦な床面。竈 不明。重複 H-3、H-4と重複。新旧関係は、H-3→本遺構→H-4。出土遺物 土師器60点、須恵器8点、縄文土器34点、石製品3点、黒曜石9点。そのうち、須恵器蓋1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig.8、PL. 2)

位置 X44・45、Y145・146グリッド 主軸方向 N-69°-E 規模 短軸(0.86)m、長軸(3.13)m、壁現高33.0cm。面積 (1.37)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-60°-E。全長(60)cm、最大幅48cm、焚口部幅18cm。重複 H-1、H-2と重複。新旧関係は、本遺構→H-1。出土遺物 土師器13点、須恵器9点、瓦3点、縄文土器21点、石製品(紡錘車)1点、黒曜石1点。時期 覆土や出土遺物などから6世紀と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig.10・49・64・65、PL. 2・17・28)

位置 X46・47、Y139・140グリッド 主軸方向 N-84°-E 規模 短軸(1.96)m、長軸2.88m、壁現高24.5cm。面積 (4.99)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-71°-E。全長77cm、最大幅50cm、焚口部幅23cm。構築材に凝灰岩を使用している。また、本遺構の竈には構築材として瓦が多用されている。特に竈袖部には、丸瓦が直立している。また、竈脇にも未使用と思われる平瓦が検出された。重複 O-1と重複。新旧関係は、本遺構→O-1。出土遺物 土師器121点、須恵器135点、瓦27点、縄文土器70点、鉄製品1点。灰釉陶器4点。そのうち、須恵器1点、須恵器蓋1点、須恵器羽釜1点、灰釉陶器1点、瓦3点

を図示。 時期 覆土や出土遺物などから9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig.11・49、PL. 2・17)

位置 X47・48、Y138グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸2.42m、長軸2.93m、壁現高27.0cm。面積 6.66m² 床面 平坦な床面。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-91°-E。全長66cm、最大幅60cm、焚口部幅43cm。構築材に凝灰岩を使用している。重複 なし。出土遺物 土師器102点、須恵器61点、瓦7点、繩文土器73点。鉄製品1点、黒曜石3点。そのうち、灰釉陶器1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀中葉と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig.11・49・63、PL. 2・17・27)

位置 X48・49、Y138グリッド 主軸方向 N-93°-E 規模 短軸3.27m、長軸3.84m、壁現高15.5cm。面積 10.85m² 床面 平坦な床面。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-90°-E。全長112cm、最大幅110cm、焚口部幅47cm。構築材に凝灰岩を使用している。重複 なし。出土遺物 土師器151点、須恵器70点、緑釉陶器片1点、青磁片1点、瓦7点、繩文土器81点。鉄製品2点、黒曜石20点。そのうち、土師器壊1点、緑釉陶器片1点、青磁片1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀前半と考えられる。

H-12号住居跡 (Fig.11、PL. 3)

位置 X47・48、Y141・142グリッド 主軸方向 N-124°-E 規模 短軸3.01m、長軸3.61m、壁現高27.0cm。面積 9.83m² 床面 平坦な床面。竈 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向N-116°-E。全長90cm、最大幅75cm、焚口部幅40cm。重複 B-1と重複。新旧関係は、本遺構→B-1。出土遺物 土師器65点、須恵器31点、瓦2点、繩文土器59点、黒曜石1点、不明1点。 時期 覆土や出土遺物などから9世紀後半と考えられる。

H-13号住居跡 (Fig.12・13・50、PL. 3・17)

位置 X50・51、Y137・138グリッド 主軸方向 N-73°-E 規模 短軸(2.73)m、長軸(2.92)m、壁現高32.0cm。面積 (6.35)m² 床面 平坦な床面。竈 不明。重複 H-14、H-18と重複。新旧関係は、H-14→本遺構→H-18。出土遺物 土師器95点、須恵器28点、繩文土器33点。そのうち、須恵器高台碗1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半と考えられる。

H-14号住居跡 (Fig.12・50、PL. 3・17・18)

位置 X49・50、Y138・139グリッド 主軸方向 N-78°-E 規模 短軸(3.24)m、長軸4.12m、壁現高34.0cm。面積 (11.38)m² 床面 平坦な床面。住居西壁及び南壁に沿って周溝を検出。竈 不明。重複 H-13、H-18と重複。新旧関係は、本遺構→H-13→H-18。出土遺物 土師器241点、須恵器48点、瓦5点、繩文土器84点、黒曜石11点。そのうち、土師器壊2点、須恵器蓋1点、須恵器高台碗1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀中葉と考えられる。

H-15号住居跡 (Fig.14・50、PL. 3・18)

位置 X50、Y141グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 短軸 (1.8)m、長軸2.93m、壁現高23cm。面積 (4.72)m² 床面 平坦な床面。竈 不明。重複 H-20と重複。新旧関係は、本遺構→H-20。出土遺物 土師器26点、須恵器11点、瓦3点、繩文土器54点、鉄製品2点。石製品1点、黒曜石4点。そのうち、須恵器蓋

1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから7世紀後半と考えられる。

H-16号住居跡 (Fig.14、PL. 3)

位置 X51・52、Y136・137グリッド 主軸方向 N-96°-E 規模 短軸(3.15)m、長軸(3.27)m、壁現高24.5cm。 面積 (7.72)m² 床面 平坦な床面。 窓 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-100°-E。全長43cm、最大幅60cm、焚口部幅16cm。 重複 なし。 出土遺物 土師器9点、須恵器2点、縄文土器2点。 時期 不明。

H-17号住居跡 (Fig.12・13、PL. 3)

位置 X51・52、Y137・138グリッド 主軸方向 N-87°-E 規模 短軸(2.33)m、長軸3.54m、壁現高27cm。 面積 (6.36)m² 床面 堅敏で平坦な床面。 窓 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-93°-E。全長75cm、最大幅113cm、焚口部幅45cm。 重複 H-18と重複。新旧関係は、本遺構→H-18。 出土遺物 土師器208点、須恵器18点、縄文土器53点、石製品1点、黒曜石1点。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半と考えられる。

H-18号住居跡 (Fig.12・13・50・61・64、PL. 3・18・25・28)

位置 X50・51、Y138・139グリッド 主軸方向 N-87°-E 規模 短軸4.07m、長軸5.28m、壁現高30cm。 面積 19.41m² 床面 堅敏で平坦な床面。特に竈焚口前は、非常に堅く締まる。西壁ほぼ中央から北壁を沿い東壁中央まで周溝が巡る。 窓 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-95°-E。全長93cm、最大幅122cm、焚口部幅40cm。凝灰岩、瓦を構築材として多用している。 重複 H-13、H-14、H-17、H-19と重複。新旧関係では、H-14→H-13、H-17、H-19（当該3軒の新旧関係は不明）→本遺構。 出土遺物 土師器323点、須恵器55点、瓦9点、縄文土器27点、鉄製品3点。石製品2点、灰釉陶器1点、綠釉陶器1点、黒曜石8点。そのうち、土師器壺1点、土師器甕1点、須恵器壺1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから9世紀前半と考えられる。

H-19号住居跡 (Fig.12・13・50、PL. 4・18)

位置 X50・51、Y139・140グリッド 主軸方向 N-84°-E 規模 短軸3.85m、長軸(4.3)m、壁現高36cm。 面積 (14.50)m² 床面 堅敏で平坦な床面。西壁及び南壁に沿って周溝が検出された。 窓 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-85°-E。全長121cm、最大幅113cm、焚口部幅40cm。構築材に凝灰岩を使用。残状態が良好で、両袖部と天井部に石材を用いていた。 重複 H-18と重複。新旧関係は、本遺構→H-18。 出土遺物 土師器234点、須恵器29点、瓦9点、縄文土器68点、石製品1点、灰釉陶器1点、羽口1点、黒曜石7点。そのうち、土師器壺2点、土師器台付甕1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半と考えられる。

H-20号住居跡 (Fig.14・50、PL.18)

位置 X50・51、Y140・141グリッド 主軸方向 N-87°-E 規模 短軸3.71m、長軸4.1m、壁現高35cm。 面積 (16.40)m² 床面 平坦な床面。南東隅に張出し部が設置される。張出し部にのみ周溝が巡っている。 窓 東壁中央に位置する。主軸方向N-87°-E。全長150cm、最大幅118cm、焚口部幅48cm。 重複 H-15と重複。新旧関係は、H-15→本遺構。 出土遺物 土師器68点、須恵器18点、瓦1点、縄文土器111点、石製品3点、黒曜石1点、その他1点、磁器1点。そのうち、土師器壺2点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀前半と考えられる。

H-21号住居跡 (Fig.14・50・61、PL. 4・18・24)

位置 X44・45、Y142～144グリッド 主軸方向 N-93°-E 規模 短軸(1.7)m、長軸(4.85)m、壁現高37cm。面積 (6.64)m² 床面 堅敏で平坦な床面。周溝が巡る。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-88°-E。全長84cm、最大幅94cm、焚口部幅36cm。重複 なし。出土遺物 土師器114点、須恵器47点、瓦12点、繩文土器43点、石製品1点、灰釉陶器6点、綠釉陶器1点、黒曜石5点、そのうち、須恵器高台甌2点を図示。時期 覆土や出土遺物などから10世紀前半と考えられる。

H-22号住居跡 (Fig.15・50・51、PL. 5・6・18・19)

位置 X45・46、Y142・143グリッド 主軸方向 N-57°-W 規模 短軸(4.23)m、長軸(4.86)m、壁現高40cm。面積 (18.67)m² 床面 本遺構については、堅敏な床面が2面確認できたことから、住居床面が作り替えられたものと考えられる。上面が新しく作り替えられた床面で、その下に当初の床面が存在した。古い床面は、新しい床面と比べ、西壁、南壁、東壁はほぼ位置が変わっていないのに対し、北壁だけが約1m北へ拡張していた。古い床面時には周溝が巡っていた。竈 床面が作り替えられたのに合わせ、竈も新たな場所に新設されたと思われる。当初のものは、北壁面に僅かながら粘土の焼けた痕跡が認められることから、北壁のほぼ中央に設置されていたと思われる。その後、床面の作り替えとともに、西壁北寄りに設置された。以下に示す数値は、新設された竈のものである。主軸方向N-58°-W。全長93cm、最大幅105cm、焚口部幅32cm。構築材として、凝灰岩を使用。重複 T-1と重複。T-1により竈の大半が壊されてしまっている。出土遺物 土師器163点、須恵器26点、繩文土器163点、石製品12点、灰釉陶器1点、黒曜石5点。そのうち、土師器環2点、土師器甌1点、土師器甌1点、須恵器大甌1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから6世紀前半～後半と考えられる。

H-23号住居跡 (Fig.15・51、PL. 4・18)

位置 X47・48、Y145・146グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸(2.95)m、長軸3.69m、壁現高19cm。面積 (10.27)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-82°-E。全長57cm、最大幅77cm、焚口部幅20cm。重複 なし。出土遺物 土師器63点、須恵器9点、瓦3点、繩文土器104点、石製品1点、樽式土器1点、黒曜石1点。そのうち、須恵器1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから9世紀中葉と考えられる。

H-24号住居跡 (Fig.16・51、PL. 4)

位置 X47・48、Y144・145グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 短軸3.28m、長軸3.98m、壁現高25cm。面積 11.79m² 床面 堅敏で平坦な床面。北壁、西壁、南壁に沿って周溝を検出した。竈 東壁中央に位置する。主軸方向N-80°-E。全長86cm、最大幅95cm、焚口部幅40cm。重複 なし。出土遺物 土師器273点、須恵器34点、瓦15点、繩文土器169点、黒曜石4点。そのうち、土師器環1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半と考えられる。

H-25号住居跡 (欠番)

H-26号住居跡 (Fig.16・51・62、PL. 4・18・19・26)

位置 X47・48、Y142・143グリッド 主軸方向 N-93°-E 規模 短軸3.48m、長軸3.75m、壁現高28cm。面積 (12.31)m² 床面 堅敏な床面。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-100°-E。全長92cm、最大幅93cm、焚口部幅40cm。構築材の粘土が比較的良好に残存しており、両袖部で凝灰岩と一緒に検出された。重複 B

—1と重複。新旧関係では、本遺構→B—1。**出土遺物** 土師器107点、須恵器79点、瓦2点、繩文土器121点、石製品9点、黒曜石1点。そのうち、酸化焰焼成坏1点、酸化焰焼成高台碗1点を図示。**時期** 覆土や出土遺物などから10世紀前半と考えられる。

H—27号住居跡（欠番）

H—28号住居跡（Fig.17・51、PL. 4・19）

位置 X48・49、Y144・145グリッド **主軸方向** N—70°—E **規模** 短軸4.2m、長軸4.47m、壁現高37cm。 **面積** 17.0.3m² **床面** 堅敏で平坦な床面。 **竈** 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向N—65°—E。全長83cm、最大幅102cm、焚口部幅40cm。 **重複** なし。**出土遺物** 土師器107点、須恵器33点、繩文土器243点、石製品1点、黒曜石4点。そのうち、土師器坏1点を図示。**時期** 覆土や出土遺物などから6世紀後半と考えられる。

H—29号住居跡（Fig.17・51、PL. 6・19）

位置 X49・50、Y145・146グリッド **主軸方向** N—102°—E **規模** 短軸3.20m、長軸4.58m、壁現高15cm。 **面積** 12.48m² **床面** 平坦な床面。 **竈** 東壁南寄りに位置する。主軸方向N—104°—E。全長80cm、最大幅115cm、焚口部幅48cm。構築材の粘土が竈の周囲で検出された。**重複** なし。**出土遺物** 土師器123点、須恵器111点、瓦8点、繩文土器58点、石製品3点、灰釉陶器2点、黒曜石1点。そのうち、灰釉陶器1点、酸化焰焼成坏1点を図示。**時期** 覆土や出土遺物などから10世紀中葉と考えられる。

H—30号住居跡（Fig.18・51・61、PL. 6・25）

位置 X50・51、Y142グリッド **主軸方向** N—179°—E **規模** 短軸2.70m、長軸(2.77)m、壁現高19cm。 **面積** (6.61)m² **床面** 平坦な床面。 **竈** 南壁東寄りに位置する。主軸方向N—176°—E。全長66cm、最大幅80cm、焚口部幅40cm。 **重複** H—31と重複。新旧関係では、H—31→本遺構。**出土遺物** 土師器31点、須恵器3点、繩文土器13点。鉄製品1点。そのうち、土師器坏1点を図示。**時期** 覆土や出土遺物などから7世紀後半と考えられる。

H—31号住居跡（Fig.18、PL. 6）

位置 X50、Y142・143グリッド **主軸方向** N—88°—E **規模** 短軸3.20m、長軸3.34m、壁現高24cm。 **面積** (10.27)m² **床面** 平坦な床面。 **竈** 不明。**重複** H—30と重複。新旧関係では、本遺構→H—30。**出土遺物** 土師器76点、須恵器21点、瓦1点、繩文土器106点、石製品1点、黒曜石4点。**時期** 不明。

H—32号住居跡（Fig.18・51、PL. 6・19）

位置 X50・51、Y144・145グリッド **主軸方向** N—80°—E **規模** 短軸(3.14)m、長軸4.10m、壁現高45cm。 **面積** (11.30)m² **床面** 堅敏で平坦な床面。 **竈** 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向N—85°—E。全長105cm、最大幅112cm、焚口部幅32cm。構築材に長胴甕が使用されていた。**重複** なし。**出土遺物** 土師器91点、須恵器35点、繩文土器42点、石製品1点、黒曜石3点。そのうち、土師器長胴甕1点を図示。**時期** 覆土や出土遺物などから8世紀前半と考えられる。

H—33号住居跡（Fig.19・52・64、PL. 6・19・28）

位置 X51・52、Y145・146グリッド **主軸方向** N—95°—E **規模** 短軸2.44m、長軸3.1m、壁現高22cm。 **面**

積 6.78m² 床面 堅敏で平坦な床面。 離 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向N-97°-E。全長72cm、最大幅67cm、焚口部幅27cm。構築材として凝灰岩を多用している。竈内から高台碗、高台皿等の遺物が多く出土した。 重複 なし。 出土遺物 土師器186点、須恵器91点、瓦 6 点、繩文土器59点、石製品1点、灰釉陶器5点、黒曜石3点。そのうち、土師器壺1点、須恵器壺1点、須恵器高台碗1点、須恵器高台皿1点、円面鏡1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀前半～中葉と考えられる。

H-34号住居跡 (Fig.19・52・61、PL. 7・19・25)

位置 X52~54、Y136・137グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸(4.98)m、長軸(5.40)m、壁現高20cm 面積 (23.57)m² 床面 平坦な床面。 離 不明。 重複 H-36、H-38、H-39と重複。新旧関係では、H-36→本遺構→H-38→H-39。 出土遺物 土師器651点、須恵器152点、瓦40点、繩文土器38点、灰釉陶器（金付着）、鉄製品3点、黒曜石5点、石製品2点。本遺構から金の付着した灰釉陶器が出土している。そのうち、土師器壺1点、土師器甕2点、灰釉陶器1点、白玉1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀と考えられる。

H-35号住居跡 (Fig.20・21・52・61、PL. 7・19・25)

位置 X53・54、Y138・139グリッド 主軸方向 N-93°-E 規模 短軸(3.64)m、長軸(4.46)m、壁現高37cm。 面積 (14.31)m² 床面 堅敏で平坦な床面。 離 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向N-103°-E。全長80cm、最大幅122cm、焚口部幅55cm。 重複 H-36、H-38、H-63と重複。新旧関係では、H-63→H-36→H-38→本遺構。 出土遺物 土師器751点、須恵器333点、瓦20点、繩文土器47点、鉄製品3点、石製品10点、中世陶器4点、綠釉陶器1点。そのうち、須恵器壺1点、須恵器高台碗1点、須恵器高台皿1点、綠釉陶器片1点、白玉1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀前半～中葉と考えられる。

H-36号住居跡 (Fig.20・53、PL. 7・19・20)

位置 X53、Y137・138グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸(4.05)m、長軸(5.03)m、壁現高24cm。 面積 (16.46)m² 床面 平坦な床面。 離 不明。 重複 H-34、H-35、H-38と重複している。新旧関係では、本遺構→H-34→H-38→H-35。 出土遺物 土師器542点、須恵器125点、瓦9点、繩文土器68点、石製品1点、羽口1点、黒曜石6点。そのうち、須恵器壺1点、須恵器長頸壺1点、須恵器高台碗1点、須恵器蓋1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

H-37号住居跡 (Fig.21・53・63、PL. 7・19・20・27)

位置 X52・53、Y139・140グリッド 主軸方向 N-83°-E 規模 短軸3.75m、長軸4.13m、壁現高42cm。 面積 13.69m² 床面 堅敏で平坦な床面。 離 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-96°-E。全長97cm、最大幅84cm、焚口部幅36cm。 重複 なし。 出土遺物 土師器338点、須恵器28点、繩文土器346点、鉄製品2点、石製品2点、黒曜石17点。そのうち、土師器壺1点、土師器甕1点、須恵器壺1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから9世紀中葉と考えられる。

H-38号住居跡 (Fig.20・21・53・63、PL. 7・19・20・27)

位置 X53・54、Y137・138グリッド 主軸方向 N-89°-E 規模 短軸3.51m、長軸4.33m、壁現高38cm。 面積 (13.68)m² 床面 平坦な床面。 離 東壁中央に位置する。主軸方向N-102°-E。全長91cm、最大幅100cm、焚口部幅53cm。 重複 H-34、H-35、H-36、H-39、H-70と重複している。新旧関係では、H-35につ

いで新しい遺構。 出土遺物 土師器455点、須恵器168点、瓦28点、繩文土器20点、鉄製品1点、綠釉陶器2点。そのうち、土師器高坏1点、土師器甕1点、須恵器坏1点、須恵器高台甕1点、羽釜1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

H-39号住居跡 (Fig.20・21・53・54・63, PL. 7・20・27)

位置 X54・55、Y136・137グリッド 主軸方向 N-89°-E 規模 短軸(3.05)m、長軸(4.18)m、壁現高23.5cm。 面積 (8.59)m² 床面 平坦な床面。 窓 東壁中央に位置する。主軸方向N-97°-E。全長73cm、最大幅105cm、焚口部幅55cm。 重複 H-34、H-38、H-70と重複。新旧関係では、H-70、H-34を切る。 出土遺物 土師器230点、須恵器125点、瓦11点、繩文土器24点、鉄製品1点、綠釉陶器1点、黒曜石2点。そのうち、土師器甕1点、須恵器坏1点、須恵器高台甕1点、綠釉陶器片1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀前半～中葉と考えられる。

H-40号住居跡 (Fig.22・54, PL. 8・20)

位置 X56・57、Y135・136グリッド 主軸方向 N-82°-E 規模 短軸(1.95)m、長軸(3.41)m、壁現高21.5cm。 面積 (5.45)m² 床面 平坦な床面。 窓 東壁中央に位置する。主軸方向N-96°-E。全長75cm、最大幅(88)cm、焚口部幅60cm。 重複 H-41と重複。新旧関係では、H-41→本遺構。 出土遺物 土師器146点、須恵器50点、瓦12点、繩文土器2点、鉄製品4点、灰釉陶器1点。そのうち、土師器甕1点、須恵器坏1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半と考えられる。

H-41号住居跡 (Fig.22・54, PL. 8)

位置 X57、Y135・136グリッド 主軸方向 N-84°-E 規模 短軸(1.45)m、長軸(4.18)m、壁現高14cm。 面積 [5.27]m² 床面 平坦な床面。 窓 不明。 重複 H-40と重複。新旧関係では、本遺構→H-40。 出土遺物 土師器65点、須恵器35点、瓦2点、繩文土器2点。そのうち、須恵器坏1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀中葉と考えられる。

H-42号住居跡 (Fig.24, PL. 8)

位置 X56・57、Y136～138グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸(4.90)m、長軸(5.42)m、壁現高18cm。 面積 (11.37)m² 床面 平坦な床面。 窓 東壁や北寄りに位置する。主軸方向N-90°-E。全長80cm、最大幅120cm、焚口部幅53cm。 重複 H-43、H-47と重複。H-47を切りH-43に切られる。 出土遺物 土師器18点、須恵器11点、繩文土器3点、鉄製品1点、黒曜石1点。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半と考えられる。

H-43号住居跡 (Fig.25・54・63・65, PL. 8・20・27)

位置 X56・57、Y137・138グリッド 主軸方向 N-87°-E 規模 短軸(4.68)m、長軸(5.73)m、壁現高27cm。 面積 (25.00)m² 床面 堅緻で平坦な床面。 窓 東壁中央やや南寄りに位置する。主軸方向N-97°-E。全長98cm、最大幅120cm、焚口部幅58cm。構築材に瓦を使用。竈脇に床下土坑を検出。ほぼ完形の丸瓦が出土している。 重複 H-42、H-65と重複。新旧関係では、本遺構が最も新しい。 出土遺物 土師器555点、須恵器474点、瓦65点、繩文土器32点、鉄製品9点、石製品1点、灰釉陶器3点、黒曜石2点。そのうち、土師器坏1点、須恵器坏1点、須恵器高台甕1点、須恵器高台皿1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから9世紀中葉～後半と考えられる。

H-44号住居跡 (Fig.22・54・65、PL. 8・20)

位置 X55・56、Y138・139グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸(4.32)m、長軸(5.60)m、壁現高44cm。面積 (22.41)m² 床面 堅敏で平坦な床面。竈 東壁中央に位置する。主軸方向N-94°-E。全長133cm、最大幅150cm、焚口部幅67cm。竈の構築材に平瓦を多用し、竈袖内面に平瓦が直立した状態で検出。重複 H-47、H-63と重複。新旧関係では、H-63を切る。出土遺物 土師器1097点、須恵器544点、瓦33点、繩文土器51点、鉄製品5点、石製品2点、中世遺物3点、黒曜石4点。そのうち、土師器壺1点、土師器蓋1点、須恵器壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから8世紀前半～中葉と考えられる。

H-45号住居跡 (Fig.23・54・55・63、PL. 8・9・20・21・24・27)

位置 X55・56、Y139・140グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 短軸(3.46)m、長軸(3.90)m、壁現高47cm。面積 (12.88)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央やや南寄りに位置する。主軸方向N-95°-E。全長125cm、最大幅120cm、焚口部幅70cm。重複 H-52と重複。新旧関係では、H-52→本遺構。出土遺物 土師器858点、須恵器520点、瓦24点、繩文土器23点、鉄製品6点、須恵器(自然釉)1点、黒曜石1点。そのうち、土師器壺2点、須恵器蓋2点、須恵器壺1点、須恵器高台碗1点、須恵器長頸壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半9世紀前半と考えられる。

H-46号住居跡 (Fig.23、PL. 9)

位置 X54・55、Y141・142グリッド 主軸方向 N-72°-E 規模 短軸(3.32)m、長軸(3.45)m、壁現高46cm。面積 (10.60)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央に位置する。主軸方向N-99°-E。全長58cm、最大幅110cm、焚口部幅46cm。重複 H-66と重複。新旧関係では、H-66→本遺構。出土遺物 土師器124点、須恵器11点、瓦1点、繩文土器116点、鉄製品1点、石製品1点、黒曜石5点。時期 覆土や出土遺物などから8世紀中葉と考えられる。

H-47号住居跡 (Fig.24・55・62・63、PL. 8・21・25・27)

位置 X55・56、Y137・138グリッド 主軸方向 N-86°-E 規模 短軸(3.26)m、長軸(4.40)m、壁現高40cm。面積 (13.22)m² 床面 堅敏で平坦な床面。竈 不明。重複 H-42と重複。新旧関係で本遺構→H-42。出土遺物 土師器133点、須恵器70点、瓦1点、繩文土器8点、鉄製品5点、石製品1点、黒曜石1点。そのうち、須恵器壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから8世紀中葉と考えられる。

H-48号住居跡 (Fig.24・55、PL. 8・21)

位置 X55・56、Y138グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 短軸(2.24)m、長軸(3.10)m、壁現高16cm。面積 (3.97)m² 床面 堅敏で平坦な床面。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-96°-E。全長2.24cm、最大幅3.10cm、焚口部幅106cm。重複 H-42、H-43、H-44、H-65と重複。出土遺物 土師器56点、須恵器25点、繩文土器9点。鉄製品1点。そのうち、須恵器壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから9世紀後半と考えられる。

H-49号住居跡 (Fig.26・55、PL. 9・21)

位置 X55・56、Y141・142グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸(2.83)m、長軸(3.62)m、壁現高31.6cm。面積 (11.02)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央に位置する。主軸方向N-75°-E。全長105cm、最

大幅120cm、焚口部幅60cm。 重複 H-50、H-51と重複。新旧関係では、H-51→H-50→本遺構。 出土遺物 土師器341点、須恵器117点、瓦19点、繩文土器48点、黒曜石6点。そのうち、土師器壊1点、須恵器1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀中葉と考えられる。

H-50号住居跡 (Fig.26・55、PL. 9・21)

位置 X55・56、Y142・143グリッド 主軸方向 N-87°-E 規模 短軸(4.12)m、長軸(4.36)m、壁現高40cm。 面積 (17.62)m² 床面 堅敏で平坦な床面。 窓 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向N-93°-E。全長103cm、最大幅105cm、焚口部幅50cm。 重複 H-49、H-51、H-68と重複。新旧関係では、H-68→H-51→本遺構→H-49。 出土遺物 土師器361点、須恵器36点、瓦2点、繩文土器119点 黒曜石16点、石製品1点。そのうち、土師器壊1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半と考えられる。

H-51号住居跡 (Fig.26・55、PL.21)

位置 X56、Y142グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸不明、長軸不明、壁現高20.0cm。 面積 (1.04)m² 床面 平坦な床面。 窓 東壁に位置する。主軸方向N-90°-E。全長90cm、最大幅118cm、焚口部幅47cm。 重複 H-49、H-50、H-68と重複。新旧関係では、H-68→本遺構→H-50→H-49。 出土遺物 土師器53点、須恵器12点、瓦1点、繩文土器6点。そのうち、須恵器高台碗1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀中葉と考えられる。

H-52号住居跡 (Fig.27・55・56・62、PL.10・21・22・26)

位置 X55・56、Y140・141グリッド 主軸方向 N-88°-E 規模 短軸(4.58)m、長軸(5.58)m、壁現高59cm。 面積 (23.66)m² 床面 堅敏で平坦な床面。 窓 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向 N-92°-E 全長87cm 最大幅80cm 焚口部幅32cm。竈の前面に長胴甕1点と完形の甕1点が直立した状態で出土している。 重複 H-45と重複。新旧関係では、本遺構→H-45。 出土遺物 土師器319点、須恵器103点、瓦13点、繩文土器90点、石製品1点、灰釉陶器4点、黒曜石8点。そのうち、土師器長胴甕1点、土師器甕1点、須恵器1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから7世紀後半と考えられる。

H-53号住居跡 (Fig.29・55、PL. 9・21)

位置 X57、Y141・142グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸(2.75)m、長軸(4.43)m、壁現高40cm。 面積 (10.87)m² 床面 堅敏で平坦な床面。 窓 不明。 重複 H-64と重複。新旧関係では、H-64→本遺構。 出土遺物 土師器72点、須恵器9点、繩文土器10点、鉄製品1点、黒曜石1点。そのうち、土師器壊1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀中葉と考えられる。

H-54号鍛冶工房跡 (Fig.28・55・61・64、PL. 9・21・24・27・28)

位置 X53、Y142グリッド 主軸方向 N-74°-E 規模 短軸[3.03]m、長軸[3.40]m、壁現高40cm。 面積 [8.87]m² 床面 堅敏で平坦な床面。 炉 重複するH-71号住居跡の竈により一部壊されているが、炉床や羽口の挿入部については検出された。 重複 H-71、J-2と重複。新旧関係では、J-2→本遺構→H-71。 出土遺物 土師器256点、須恵器118点、瓦32点、繩文土器295点、鉄製品11点、羽口15点、鉄滓多數、黒曜石24点。特に、鍛造剝片、鉄塊系遺物、流動鉄滓などの鍛冶工房跡を裏付ける遺物が多く出土している。そのうち、土師器壊1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから9世紀後半と考えられる。

H-55号住居跡 (Fig.34・55・61、PL.10・21)

位置 X55~57、Y143・144グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 短軸(3.82)m、長軸(5.37)m、壁現高34cm。面積 (18.36)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央に位置する。主軸方向N-97°-E。全長110cm、最大幅130cm、焚口部幅55cm。重複 H-59、H-68と重複。新旧関係では、H-68→H-59→本遺構。出土遺物 土師器518点、須恵器165点、瓦30点、繩文土器63点、鉄製品1点、石製品2点、黒曜石5点。そのうち、須恵器壺1点、須恵器高台碗1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから9世紀後半と考えられる。

H-56号住居跡 (Fig.30・31・56・57、PL.11・21・22・25)

位置 X45~47、Y140~142グリッド 主軸方向 N-128°-W 規模 短軸7.42m、長軸7.55m、壁現高56cm、面積 28.32m² 床面 堅緻で平坦な床面。周溝が東壁の一部を除き巡る。竈 西壁南寄りに位置する。主軸方向N-127°-W。全長133cm、最大幅111cm、焚口部幅55cm。構築材として凝灰岩が両袖に直立する。重複 T-2と重複。新旧関係では、本遺構→T-2。出土遺物 土師器796点、須恵器255点、瓦39点、繩文土器370点、鉄製品4点、石製品3点、その他(埴輪)1点、灰釉陶器1点、黒曜石12点。そのうち、土師器高杯3点、土師器壺2点、土師器壺1点、須恵器高台碗1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから6世紀後半と考えられる。

H-57号住居跡 (Fig.29、PL.10)

位置 X44・45、Y141・142グリッド 主軸方向 N-92°-E 規模 短軸(1.60)m、長軸(3.56)m、壁現高35cm。面積 (5.46)m² 床面 堅緻で平坦な床面。竈 竈の痕跡を示す焼土の分布が確認されるにとどまる。重複 T-1と重複。新旧関係では、本遺構→T-1。出土遺物 土師器89点、須恵器30点、瓦8点、繩文土器115点、鉄製品1点、石製品2点。時期 覆土や出土遺物などから8世紀前半～中葉と考えられる。

H-58号住居跡 (Fig.29・56・57、PL.11・22)

位置 X56・57、Y145・146グリッド 主軸方向 N-67°-E 規模 短軸(4.12)m、長軸(4.22)m、壁現高48cm。面積 (15.23)m² 床面 堅緻で平坦な床面。竈 東壁中央に位置する。主軸方向N-103°-E。全長55cm、最大幅78cm、焚口部幅33cm。重複 H-60と重複。新旧関係では、H-60→本遺構。出土遺物 土師器784点、須恵器337点、瓦30点、繩文土器143点、鉄製品2点、石製品1点、灰釉陶器1点、黒曜石19点。そのうち、土師器壺1点、土師器壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから9世紀中葉～後半と考えられる。

H-59号住居跡 (Fig.32・56・57・63、PL.11・12・22・27)

位置 X56・57、Y143・144グリッド 主軸方向 N-88°-E 規模 短軸(3.68)m、長軸(4.39)m、壁現高43cm。面積 (15.14)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央に位置する。主軸方向N-92°-E。全長62cm、最大幅132cm、焚口部幅82cm。重複 H-55、H-60、H-61と重複。新旧関係では、H-60→H-61→H-59。出土遺物 土師器313点、須恵器107点、瓦10点、繩文土器35点、鉄製品2点、石製品1点、灰釉陶器1点、黒曜石1点。そのうち、土師器壺1点、須恵器壺1点、須恵器壺1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから9世紀中葉～後半と考えられる。

H-60号住居跡 (Fig.32・57・64、PL.12・22・28)

位置 X56・57、Y144・145グリッド 主軸方向 N-92°-E 規模 短軸(3.55)m、長軸(4.25)m、壁現高28cm。面積 (11.08)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁に位置する。主軸方向N-96°-E。全長57cm、最大幅100cm、焚口部幅60cm。重複 H-58、H-59と重複。本遺構が最も古い。出土遺物 土師器217点、須恵器85点、

瓦18点、縄文土器8点。そのうち、土師器壊1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀前半と考えられる。

H-61号住居跡 (Fig.32・57、PL.12)

位置 X56・57、Y142・144グリッド 主軸方向 N-91°-E 規模 短軸(3.56)m、長軸(4.60)m、壁現高36cm。面積 (12.29)m² 床面 平坦な床面。 窓 不明。 重複 H-55、H-59、H-67と重複。新旧関係では、H-67を切って、H-55、H-59に切られる。 出土遺物 土師器194点、須恵器74点、瓦3点、縄文土器14点。そのうち、土師器壊1点、土師器壊1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから9世紀中葉と考えられる。

H-62号住居跡 欠番

H-63号住居跡 (Fig.33・57・62、PL.12・22)

位置 X54・55、Y138・139グリッド 主軸方向 N-76°-E 規模 短軸(5.45)m、長軸(5.58)m、壁現高81cm。面積 (27.02)m² 床面 平坦な床面。 窓 東壁中央に位置する。主軸方向N-103°-E。全長50cm、最大幅75cm、焚口部幅36cm。 重複 H-35、H-44と重複。新旧関係では、本遺構が最も古い。 出土遺物 土師器870点、須恵器202点、瓦4点、縄文土器57点、鉄製品3点、石1点、黒曜石2点。そのうち、土師器壊1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀前半と考えられる。

H-64号住居跡 (Fig.34、PL.12)

位置 X57、Y142・143グリッド 主軸方向 N-71°-E 規模 短軸(1.61)m、長軸(4.36)m、壁現高43cm。面積 (3.51)m² 床面 平坦な床面。 窓 不明。 重複 H-53と重複。新旧関係では、本遺構→H-53。 出土遺物 土師器5点、縄文土器4点。 時期 覆土や出土遺物などから6世紀後半と考えられる。

H-65号住居跡 (Fig.34・63、PL.12・27)

位置 X56・57、Y138・139グリッド 主軸方向 N-70°-E 規模 短軸(2.30)m、長軸(3.83)m、壁現高43cm。面積 (5.52)m² 床面 平坦な床面。住居東側半分は、後世の搅乱を受け確認できない。 窓 不明。 重複 H-43と重複。新旧関係では、本遺構→H-43。 出土遺物 土師器215点、須恵器13点、縄文土器9点、鉄製品3点、黒曜石1点。 時期 覆土や出土遺物などから9世紀前半と考えられる。

H-66号住居跡 (Fig.35、PL.12)

位置 X54・55、Y141・142グリッド 主軸方向 N-69°-E 規模 短軸(2.20)m、長軸(3.50)m、壁現高25cm。面積 (6.78)m² 床面 平坦な床面。 窓 不明。 重複 H-46と重複。新旧関係では、本遺構→H-46。 出土遺物 土師器43点、須恵器9点、瓦1点、縄文土器95点、鉄製品1点、石1点、黒曜石5点。 時期 覆土や出土遺物などから7世紀後半と考えられる。

H-67号住居跡 (Fig.35・58、PL.12・13・22・24)

位置 X56・57、Y142・143グリッド 主軸方向 N-86°-E 規模 短軸(3.00)m、長軸(3.86)m、壁現高67cm。面積 (10.89)m² 床面 厳密で平坦な床面。 窓 H-61号住居跡との重複で大半が壊されていたが、窓の痕跡が認められた。東壁南寄りに位置する。主軸方向N-93°-E。全長61cm、最大幅110cm、焚口部幅52cm。 重複 H-61、H-68と重複。新旧関係では、H-68→本遺構→H-61。 出土遺物 土師器181点、須恵器15点、

縄文土器45点、鉄製品2点、石1点。そのうち、土師器坏3点、須恵器坏1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半と考えられる。

H-68号住居跡 (Fig.35)

位置 X55・56、Y142・143グリッド 主軸方向 N-83°-E 規模 短軸(4.86)m、長軸(5.16)m、壁現高19cm。 面積 (7.71)m² 床面 平坦な床面。 龛 不明。 重複 H-50、H-61、H-67と重複。新旧関係では、本遺構が最も古い。 出土遺物 土師器19点、須恵器2点、縄文土器6点。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀前半と考えられる。

H-69号住居跡 (Fig.36・58・61・62、PL.13・22・23・25)

位置 X52~54、Y140・141グリッド 主軸方向 N-82°-E 規模 短軸(3.83)m、長軸(4.35)m、壁現高50cm。 面積 (14.96)m² 床面 堅緻で平坦な床面。 龛 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向N-106°-E。全長122cm、最大幅85cm、焚口部幅50cm。 重複 J-2と重複。新旧関係では、J-2→本遺構。 出土遺物 土師器373点、須恵器110点、瓦17点、縄文土器443点、石製品8点、黒曜石89点。そのうち、土師器坏2点、須恵器坏1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀前半と考えられる。

H-70号住居跡 (Fig.36・58、PL.13)

位置 X54・55、Y136・137グリッド 主軸方向 N-109°-E 規模 短軸(3.00)m、長軸(4.02)m、壁現高35cm。 面積 (10.42)m² 床面 平坦な床面。 龛 龛本体は検出されていないが、構築材と思われる粘土が分布する範囲を確認した。 重複 H-38、H-39、H-47、H-72と重複。新旧関係では、本遺構が最も古い。 出土遺物 土師器83点、須恵器6点、瓦1点、縄文土器22点、石製品2点、蜂巣石1点。そのうち、土師器坏1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから7世紀前半と考えられる。

H-71号住居跡 (Fig.28・58・61・63、PL.9・23・25・27)

位置 X52・53、Y141・142グリッド 主軸方向 N-95°-E 規模 短軸(2.80)m、長軸(3.41)m、壁現高49cm。 面積 (8.53)m² 床面 堅緻で平坦な床面。 龛 東壁南寄りに位置するが、H-54号鍛冶工房跡の炉と重複する。主軸方向N-88°-E。全長40cm、最大幅108cm、焚口部幅60cm。 重複 H-54、J-2と重複。新旧関係では、J-2→H-54と本遺構。 出土遺物 土師器143点、須恵器46点、瓦5点、縄文土器117点、鉄製品1点、石製品4点、紡錘車1点、黒曜石48点。そのうち、須恵器1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀前半と考えられる。

H-72号住居跡 (Fig.36)

位置 X54~56、Y137・138グリッド 主軸方向 N-91°-E 規模 短軸(2.48)m、長軸(4.67)m、壁現高cm。 面積 (3.81)m² 床面 堅緻な床面。 龛 不明。 重複 重複が激しく、住居床面と思われる堅緻面のみの検出。 出土遺物 土師器80点、須恵器35点、瓦2点、縄文土器14点。 時期 不明。

(2) 積穴状遺構

T-1号積穴状遺構 (Fig.38、PL.13)

位置 X45・46、Y141・142グリッド 主軸方向 N-95°-E 規模 短軸(3.93)m、長軸(4.30)m、壁現高30.0cm。 面積 (14.43)m² 床面 堅緻で平坦な床面。 柱穴 10基が検出され東西方向に4基、南北方向に3基が

ほぼ方形に並ぶ。重複 H-22、H-57と重複。新旧関係では、H-22→H-57→本遺構。出土遺物 土師器38点、須恵器30点、瓦5点、繩文土器53点、灰釉陶器1点、黒曜石3点。時期 覆土からAs-B降下以後の遺構と考えられる。

T-2号竪穴状遺構 (Fig.38、PL.13)

位置 X46・47、Y140・141グリッド 主軸方向 N-90°-E 規模 短軸(3.00)m、長軸(3.82)m、壁現高28.0cm。面積 (10.05)m² 床面 平坦な床面。柱穴 北西隅を除く3基が検出された。重複 H-56と重複。新旧関係では、H-56→本遺構。出土遺物 土師器44点、須恵器30点、瓦8点、繩文土器18点、石製品1点、中世遺物2点、黒曜石2点。時期 覆土からAs-B降下以後の遺構と考えられる。

T-3号竪穴状遺構 (Fig.39・62、PL.13・23・26)

位置 X53・54、Y144・145グリッド 主軸方向 N-72°-E 規模 短軸(3.00)m、長軸(3.82)m、壁現高43.0cm。面積 (11.83)m² 床面 堅敏で平坦な床面。重複 なし。出土遺物 土師器71点、須恵器23点、繩文土器183点、石製品9点、黒曜石4点、蜂巣石1点。そのうち、須恵器盤1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから7世紀中葉と考えられる。

(3) 掘立柱建物跡

B-1号掘立柱建物跡 (Fig.37、PL.13・23)

位置 X47~49、Y141~143グリッド 主軸方向 N-96°-E 規模 東西方に向かって伸びる長方形で、3間(7.3)m、2間(4.8)mを測る。面積 (35.04)m² 柱穴 円形。直径(0.35)m前後、深さ(0.4)m前後である。時期 覆土から10世紀以降の遺構と考えられる。

(4) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.39)

位置 X55、Y145・146グリッド 主軸方向 N-73°-E 規模 延長(4.8)m、最大幅 上幅(0.75)m、下幅(0.4)m、深さ(0.35)m。形状等 U字形。重複 J-1と重複。出土遺物 なし。時期 覆土からAs-C降下以降に掘削され、As-B降下以前には埋まったものと想定される。

(5) 土坑

JD-1号土坑 (Fig.7、PL.14)

位置 X54、Y145グリッド 形状 楕円形 規模 長軸(1.65)m、短軸(1.22)m、深さ (0.51)m。出土遺物 繩文土器27点。時期 出土遺物などから諸職b式期と考えられる。

(6) 井戸跡・風倒木跡

I-1号井戸跡 (Fig.39)

位置 X46、Y138グリッド 形状 円形 規模 長軸(1.22)m、短軸(1.13)m、深さ(1.86)m。出土遺物 繩文土器5点、土師器1点、須恵器2点、瓦1点、鉄製品1点。時期 覆土や出土遺物などから中世と考えられる。

O-1号風倒木跡 (Fig.39、PL.23・24)

位置 X45・46、Y138・139グリッド 形状 不整形。 規模 最大幅(1.02)m、最小幅(0.62)m、深さ(0.25)m。 重複 H-9、I-1と重複。新旧関係では、H-9→本遺構→I-1。 出土遺物 繩文土器94点、土師器97点、須恵器171点、瓦29点、石製品2点。そのうち、土師器壊1点、灰釉陶器1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀と考えられる。

(7) 道路状遺構

A-1号道路状遺構 (Fig.40)

位置 X45~56、Y140・141グリッド 主軸方向 N-90°-E 形状 東西に走行する硬化面が1枚確認された。 規模 長さ(41.0)m。 出土遺物 土師器48点、須恵器44点、瓦9点、繩文土器52点、石製品5点、黒曜石1点。 時期 覆土や重複する遺構の時期等を考慮すると、9世紀以降でAs-B降下以前には機能していたと想定される。

(8) グリッド等出土遺物 (Fig.58・61~65、PL.16・23~28)

土師器1144点、須恵器657点、繩文土器3837点、石製品78点、瓦83点、鉄器3点、灰釉陶器10点、黒曜石200点、羽口2点を出土。

元総社蒼海遺跡群 (43)

(1) 壇穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig.42・43・44・59・60、PL.15・23)

位置 X141~143、Y223~225グリッド 主軸方向 N-85°-E 規模 短軸8.6m、長軸9.2m、壁現高49.1cm、面積 68.17m² 床面 堅緻で平坦な床面。周溝が巡り、住居南東隅に張出し部を伴う。 壇 東壁中央に位置する。主軸方向N-90°-E。全長180cm、最大幅148cm、焚口部幅65cm。構築材に凝灰岩を使用している。竈の掘り方で確認した結果、両袖に使用されていた石材は、直方体に整形されていた。 重複 H-2と重複。新旧関係では、本遺構→H-2。 出土遺物 土師器1,717点、須恵器243点、瓦23点、鉄製品5点、灰釉2点。そのうち、土師器壊など15点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから8世紀前半～中葉と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig.41・60、PL.15・23)

位置 X141、Y224・225グリッド 主軸方向 N-95°-E 規模 短軸(2.6)m、長軸(3.9)m、壁現高22.5cm、面積 (10.98)m² 床面 平坦な床面。 壇 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-90°-E。全長120cm、最大幅65cm、焚口部幅30cm。 重複 H-1と重複。新旧関係では、H-1→本遺構。 出土遺物 土師器90点、須恵器32点、瓦1点、陶器1点。そのうち、須恵器高台碗1点、酸化焰焼成壊1点、羽釜1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから10世紀前半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig.41・60、PL.15・23)

位置 X139・140、Y222・223グリッド 主軸方向 N-95°-E 規模 短軸(3.3)m、長軸(4.6)m、壁現高26.1cm、面積 (15.66)m² 床面 平坦な床面。 壇 東壁南寄りに位置する。主軸方向N-118°-E。全長130cm、最大幅110cm、焚口部幅40cm。 重複 なし。 出土遺物 土師器79点、須恵器17点、瓦1点。そのうち、土師器壊2点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから9世紀中葉～後半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig.45・60, PL.15)

位置 X139・140、Y220・221グリッド 主軸方向 N-81°-E 規模 短軸(3.2)m、長軸(4.2)m、壁現高4.9cm。面積 (15.26)m² 床面 平坦な床面。竈 南東隅に位置する。主軸方向N-100°-E。全長86cm、最大幅85cm、焚口部幅40cm。重複なし。出土遺物 土師器16点、須恵器6点、瓦1点。そのうち、土師器坏1点を図示。時期 覆土や出土遺物などから8世紀後半と考えられる。

(2) 溝 跡

W-1号溝跡 (Fig.45・60, PL.15)

位置 X143・144、Y224・225グリッド 主軸方向 N-10°-W 規模 延長(2.8)m、最大幅 上幅(1.95)m、下幅(0.35)m、深さ(1.85)m。形状等 V字形。重複なし。出土遺物 須恵器7点、瓦1点、中世7点。そのうち、内耳鍬、火鉢など3点を図示。時期 覆土や出土遺物などから12世紀と考えられる。備考 本遺構の土層断面で、道路として使用されていたと思われる非常に固く締まった土層が確認できた。

(3) グリッド等出土遺物

土師器103点、須恵器16点、瓦6点、陶器1点、石製品2点を出土。

Tab.2 壓穴住居跡・壓穴状遺構等一覧表

元経社蒼海遺跡群(41)

遺構名	位置	規模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	電		周調	主な出土遺物		
		短軸	長軸			位 置	電		土師器	須恵器	その他の
J-1	X55・56 Y146	3.03	4.00	34.0	9.44	N-84°-E	—				
J-2	X53・54 Y140・142	4.77	5.02	64.0	19.04	N-102°-E	—				火鉢
H-1	X44・45 Y145・146	2.06	3.6	50.5	4.26	N-55°-E	東壁中央		壺・环	蓋	
H-2	X45・46 Y145・146	3.44	4.2	35.5	12.78	N-80°-E	東壁中央		壺・环	环	
H-3	X46・47 Y145	2.92	3.82	26.0	9.59	N-90°-E	東壁中央		壺・环	高台輪	
H-4	X46・47 Y144・145	3.56	3.57	30.5	11.47	N-94°-E	東壁南寄り		壺・环	高台輪	灰釉陶器 奈良三彩
H-5	X44・45 Y144・145	2.68	3.5	31.0	8.68	N-85°-E	南東隅				
H-6	X44 Y145	1.48	4.0	26.0	0.60	N-90°-E	南東隅				
H-7	X45・46 Y144・145	3.3	4.08	31.0	4.20	N-92°-E	—		壺	环	
H-8	X44・45 Y145・146	0.86	3.13	33.0	1.37	N-69°-E	東壁南寄り		壺		
H-9	X46・47 Y139・140	1.96	2.88	24.5	4.99	N-84°-E	東壁南寄り		高环	高台輪	灰釉陶器 瓦
H-10	X47・48 Y138	2.42	2.93	27.0	6.66	N-90°-E	東壁南寄り		壺	蓋・壺	鐵製品
H-11	X48・49 Y138	3.27	3.84	15.5	10.85	N-93°-E	東壁南寄り		台付壺	高台輪	青磁 瓦
H-12	X47・48 Y141・142	3.01	3.61	27.0	9.83	N-124°-E	東壁南寄り		壺	壺	
H-13	X50・51 Y137・138	2.73	2.92	32.0	6.35	N-73°-E	—			高台輪	
H-14	X49・50 Y138・139	3.24	4.12	34.0	11.38	N-78°-E	—	○	壺・环	高台輪	

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	竪 位置	周調	主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁厚高 (cm)					土師器	須恵器	その他
H-15	X50 Y141	1.8	2.93	23.0	4.72	N-85°-E	—		壺	甕	
H-16	X51・52 Y136・137	3.15	3.27	24.5	7.72	N-96°-E	東壁南寄り				
H-17	X51・52 Y137・138	2.33	3.54	27.0	6.36	N-87°-E	東壁南寄り		甕	甕	
H-18	X50・51 Y138・139	4.07	5.28	30.0	19.41	N-87°-E	東壁南寄り	○	甕・壺	蓋	紡錘車
H-19	X50・51 Y139・140	3.85	4.3	36.0	14.50	N-84°-E	東壁南寄り	○	甕・壺	蓋	羽口
H-20	X50・51 Y140・141	3.71	4.1	35.0	(16.40)	N-87°-E	東壁中央	○	壺		
H-21	X44・45 Y142・144	1.7	4.85	37.0	6.64	N-93°-E	東壁南寄り	○	高台輪	灰釉陶器	
H-22	X45・46 Y142・143	4.23	4.86	40.0	18.67	N-57°-W	西壁北寄り	○	甕	大甕	
H-23	X47・48 Y145・146	2.95	3.69	19.0	10.27	N-90°-E	東壁南寄り		甕・壺	甕	
H-24	X47・48 Y144・145	3.28	3.98	25.0	11.79	N-85°-E	東壁中央	○	甕	甕	
H-25	矢番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H-26	X47・48 Y142・143	3.48	3.75	28.0	18.31	N-93°-E	東壁南寄り		甕	羽釜	
H-27	矢番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H-28	X48・49 Y144・145	4.2	4.47	37.0	17.03	N-70°-E	東壁南寄り		壺	大甕	
H-29	X49・50 Y145・146	3.20	4.58	15.0	12.48	N-102°-E	東壁南寄り		甕	高台輪	
H-30	X50・51 Y142	2.70	2.77	19.0	6.61	N-178°-E	南壁東寄り		甕	紡錘車	
H-31	X50 Y142・143	3.20	3.34	24.0	10.27	N-88°-E	—		甕		
H-32	X50・51 Y144・145	3.14	4.10	45	11.30	N-80°-E	東壁や南寄り		甕	甕	
H-33	X51・52 Y145・146	2.44	3.1	22.0	6.78	N-95°-E	東壁や南寄り		壺	高台輪	円面鏡
H-34	X52・54 Y136・137	4.98	5.40	20.0	23.57	N-90°-E	—		甕	白玉 金付着灰釉陶器	
H-35	X53・54 Y138・139	3.64	4.46	37.0	14.31	N-93°-E	東壁や南寄り		甕・壺	甕	紡錘陶器
H-36	X53 Y137・138	4.05	5.03	24.0	16.46	N-90°-E	—		甕・壺	高台輪	羽口
H-37	X52・53 Y139・140	3.75	4.13	42.0	13.69	N-83°-E	東壁南寄り		甕	高台輪	紡錘車
H-38	X53・54 Y137・138	3.51	4.33	38.0	13.68	N-89°-E	東壁中央		甕	甕	瓦
H-39	X54・55 Y136・137	3.05	4.18	23.5	8.59	N-89°-E	東壁中央		甕	壺	
H-40	X56・57 Y135・136	(1.95)	3.41	21.5	5.45	N-82°-E	東壁中央		甕	壺	
H-41	X57 Y135・136	(1.18)	(9.68)	28.5	6.62	N-84°-E	—		甕・壺	壺	
H-42	X56・57 Y136・138	(1.80)	(1.20)	15.5	1.98	N-90°-E	東壁北寄り		甕・壺	甕	鉄製品
H-43	X56・57 Y137・138	(1.56)	(1.96)	29	1.94	N-87°-E	東壁中央		甕・壺	壺	
H-44	X55・56 Y138・139	4.32	5.60	44.0	22.41	N-90°-E	東壁中央		甕・壺	壺	瓦
H-45	X55・56 Y139・140	3.46	3.90	47.0	12.88	N-85°-E	東壁中央		甕・壺	蓋	

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (m ²)	主軸方向	竪 位置	周調	主な出土遺物		
		短軸	長軸	埋現高 (cm)					土師器	須恵器	その他
H-46	X54・55 Y141・142	3.32	3.45	46.0	10.60	N-72°-E	東壁中央		甕・壺	蓋	
H-47	X55・56 Y137・138	(3.26)	4.40	40.0	13.22	N-86°-E	—		甕・壺	大型	
H-48	X55・56 Y138	2.24	3.10	16.0	3.97	N-85°-E	東壁南寄り		甕・壺	甕・蓋	
H-49	X55・56 Y141・142	2.83	3.62	31.6	11.02	N-90°-E	東壁中央		甕	瓦	
H-50	X55・56 Y142・143	4.12	4.36	50.0	17.62	N-93°-E	東壁南寄り		甕・壺	筋鉢車	
H-51	X56 Y142	不明	不明	20.0	(1.04)	N-90°-E	東壁		甕	蓋	
H-52	X55・56 Y140・141	4.58	5.58	59.0	23.66	N-88°-E	東壁南寄り		甕・壺	高台輪・瓦	
H-53	X57 Y141・142	2.75	4.43	40.0	10.87	N-90°-E	—		甕・壺	鉄製品	
H-54	X53 Y142	3.03	3.40	40.0	8.87	N-74°-E	—		甕	甕・壺	鉄鋤羽口
H-55	X55・57 Y143・144	3.82	5.37	34.0	18.36	N-85°-E	東壁中央		甕	壺	
H-56	X45・47 Y140・142	7.42	7.55	56.0	28.32	N-128°-W	西壁南寄り	○	甕	白玉	
H-57	X44・45 Y141・142	1.60	3.56	35.0	5.46	N-92°-E	—		甕	甕	
H-58	X56・57 Y145・146	4.12	4.22	48.0	15.23	N-67°-E	東壁中央		甕	大型	
H-59	X56・57 Y143・144	3.68	4.39	43.0	15.14	N-88°-E	東壁中央		甕	高台輪	
H-60	X56・57 Y144・145	3.55	4.25	28.0	11.08	N-92°-E	東壁		甕	高台輪・文字瓦	
H-61	X56・57 Y142・144	(3.56)	(4.60)	36	12.29	N-91°-E	—		甕・壺	高台輪	
H-62	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
H-63	X54・55 Y138・139	5.45	5.58	81.0	27.02	N-76°-E	東壁中央		甕・壺	甕・蓋	
H-64	X57 Y142・143	(1.61)	(4.36)	43.0	3.51	N-71°-E	—		甕		
H-65	X56・57 Y138・139	(2.30)	3.83	43.0	5.52	N-70°-E	—		甕		
H-66	X54・55 Y141・142	(2.20)	3.50	25.0	6.78	N-69°-E	—		甕・壺	蓋	
H-67	X56・57 Y142・143	3.00	3.86	67.0	10.89	N-86°-E	東壁南寄り		甕・壺	石製品	
H-68	X55・56 Y142・143	(4.86)	(5.16)	19.0	7.71	N-83°-E	—				
H-69	X52・54 Y140・141	3.83	4.35	50.0	14.96	N-82°-E	東壁南寄り		甕・壺	甕	
H-70	X54・55 Y136・137	3.00	4.02	35.0	10.42	N-109°-E	—		甕		
H-71	X52・53 Y141・142	2.80	3.41	49.0	8.53	N-95°-E	東壁南寄り		甕・壺	蓋	筋鉢車
H-72	X54・56 Y137・138	2.48	4.67	不明	3.81	N-91°-E	—		壺		
T-1	X45・46 Y141・142	3.93	4.30	30.0	14.43	N-95°-E	—		甕		
T-2	X46・47 Y140・141	3.00	3.82	28.0	10.05	N-90°-E	—		壺	瓦	
T-3	X53・54 Y144・145	3.00	3.82	43.0	11.83	N-72°-E	—		甕	蜂巣石	

元経社蒼海遺跡群 (43)

遺構名	位置	規模 (m)		面積 (m ²)	主軸方向	電 位 置	周溝	主な出土遺物		
		短軸	長軸					土器 類 類	須恵器 類	その他
H-1	X141-143 Y223-225	8.6	9.2	49.1	68.17	N-85°-E	東堀中央	○	甕・壺	盤
H-2	X141 Y224-225	2.6	3.9	22.5	10.98	N-95°-E	東堀南寄り	甕・壺	羽釜	
H-3	X139-140 Y222-223	3.3	4.6	26.1	15.66	N-95°-E	東堀南寄り	甕・壺	甕	瓦
H-4	X139-140 Y220-221	3.2	4.2	4.8	15.26	N-81°-E	南東隅	甕・壺	甕	

Tab. 3 溝跡計測表

元経社蒼海 (41)

遺構名	位 置	長さ(m)	深さ(cm)	上幅(cm)	下幅(cm)	主軸方向	断面形	時期
W-1	X145・146	(4.8)	(0.35)	(0.75)	(0.4)	N-73°-E	U字形	中世

元経社蒼海 (43)

遺構名	位 置	長さ(m)	深さ(cm)	上幅(cm)	下幅(cm)	主軸方向	断面形	時期
W-1	X143・144 Y224・225	(2.8)	(1.85)	(1.95)	(0.35)	N-10°-W	V字形	中世

Tab. 4 繩文土器観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①口徑 ②底径	③高さ	④地土 ⑤色調	⑥焼成 ⑦過度度	器種の特徴・整型・調整技術	登録番号	備考
J-1	J-1 床底	深鉢	①— ③—	②—	①崩壊 ②崩壊	②良好	地文は横位平行沈縫。斜位・傾位に障壁を施付け後、障壁を押し引く。 ボタン状點付け文を施す。	7	須彌c
J-1	J-1 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①崩壊 ②崩壊	②良好	地文はRL鏡。横位の浮縫文を施し、浮縫文上には鳥文を付す。		須彌b
J-1	J-1 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③にぶい崩	②良好	地文は附加加 (1種) 文。浮縫文と横位に平行して施付けし、上位にボタン状點付け文を施す。地文中に結晶片岩と繊維を含む。		大木5式か
J-1	J-1 覆土	深鉢か 浅鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③灰黄地	②良好	平行沈縫により弧縫を施す。低位の平位には横位の平行沈縫が施される。口縫部は横位で施す。		須彌b
J-1	J-1 床底	深鉢	①— ③—	②—	①崩壊 ③灰黄地	②良好	地文は横位平行沈縫。浮縫文を直位に施付けし、押し引く。	6	須彌c
J-1	J-1 床底	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③にぶい黄	②良好	地文は横位平行沈縫。半崩壊管の押し引きにより浮縫文の弧状文様を描出す。口縫部は平位で施す。	25	須彌c
J-1	J-1 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③にぶい黄	②良好	地文は横位の平行沈縫。重ねする横縫線上に半崩壊管で押し引く。ボタン状付け文を施す。		須彌c
J-1	J-1 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③にぶい黄	②良好	地文は横位平行沈縫。横位・斜位の崩壊上を半崩壊管で押し引く。ボタン状付け文を施す。	12	須彌c
J-1	J-1 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③にぶい黄	②良好	地文はRL鏡。地文を地とする。横位の平行沈縫を施す。	21	須彌b
J-1	J-1 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③灰黄地	②良好	RL鏡は地文を地とする。横位・斜位・竪位の平行沈縫を配す。		須彌b
J-1	J-1 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③にぶい黄	②良好	渡口縫。口縫部や外反し口縫部下に平行沈縫を配す。下位は平行隙縫により箇引を施す。		須彌c
J-1	J-1 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③にぶい黄	②良好	折り返し口縫。内面は斜位の平行沈縫後に円形突起が施されたボタン状點付け文を施す。地文は横位の平行沈縫を施し、口縫内面にまで及ぶ。地文の凹部に施されたボタン状點付け文を配す。	20	須彌c
J-1	J-1 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③にぶい黄	②良好	折り返し口縫。外面は斜位、内面は横位の平行沈縫を地文とする。内面は地文に施されたボタン状點付け文を配す。外面は耳袋状・二重耳袋状の点付け文を配す。		須彌c
J-1	J-1 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③中柱 ③根	②良好	横位の平行沈縫後に横位の平行沈縫を地文とする。大脳なりボタン状點付け文を施す。		須彌c
J-1	J-1 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③根	②良好	半崩竹状工具による斜位の平行沈縫。横位・斜位・ボタン状點付け文を配す。地上に結晶片岩を含む。		須彌c
J-1	J-1 床底	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③灰黄地	②良好	上位は横位・斜位部は斜位、下位は斜位・縦位の平行沈縫。縦位部に崩壊後に耳袋状の点付け文を施す。上位に施付けた痕跡が見られる。	18	須彌c
J-1	J-2 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③にぶい黄	②良好	渡口縫。平行沈縫で文様を描出。口縫部は三角形の空隙。	414	須彌b
J-1	J-2 覆土	浅鉢	①71.5 ②7.6	③—	①中柱 ③根	②良好	口縫部が圓錐形。穿孔が多く施され、補修孔も有する。赤彩が開口部に確認できる。		須彌b
J-1	J-2 覆土	深鉢	①— ③—	②—	①中柱 ③根	②良好	口縫部が強く反る。平行沈縫で文様を描出し、縫部は規則の穿孔が施される。	346	須彌b

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②底径	③底高	④胎土 ⑤色調 ⑥焼成 ⑦温度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
41-鏡20	J-2 層上	深鉢	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	手取竹管状工具による平行沈線を斜面横位に配す。	437	清瀬b
41-鏡21	J-2 層上	深鉢	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	底部は綺やかな弧を描く実底。両面に矢羽状の平行沈線を施す。	256	清瀬b
41-鏡22	J-2 層上	深鉢	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	平行沈線で文様を描出。三角形の印刷を施し、ボタン状附け文を施す。	373	清瀬b
41-鏡23	J-2 層上	深鉢	①— ③—	②—	③磁粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	平行沈線を施す。斜位に施し円形鉢突文を有したボタン状附け文を配す。	18	清瀬c
41-鏡24	J-2 層上	深鉢	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	平行沈線を施し、ボタン状附け文を配す。	27	清瀬c
41-鏡25	J-2 層上	鏡穴	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	平行沈線で文様を描出する。口縁部は手取竹管状工具による平行沈線。	清瀬b	
41-鏡26	J-2 層上	深鉢	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	手取竹管状工具による平行沈線で文様を描出する。耳状部・棒状の附け文を配す。内面の口内部付近には煤が付着する。	378	清瀬c
41-鏡27	J-2 層上	深鉢	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	更新部に列みを有す。平行沈線で文様を描出し、棒状附け文を配す。	484	清瀬c
41-鏡28	J-2 層上	深鉢	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	圓底状。平行沈線で文様を描出。酒頭部下位に耳章状附け文を配す。	63	清瀬c
41-鏡29	J-2 層上	深鉢	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	垂下する沈線。三本一筋の工具で縞状文を描出。	472	加曾利E II
41-鏡30	J-2 層上	深鉢	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	耳章復元記。	355	
41-鏡31	J-2 底	深鉢	①— ③—	②—	③磁粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	手取竹管状工具による平行沈線。三角系の穿孔を対に配す。ボタン状附け文を施す。	264	清瀬b
41-鏡32	J-2 層上	深鉢	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	手取竹管状工具による格子同文。	318	清瀬b
41-鏡33	X53 Y145	鏡文	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	EL. 鏡文を地文とする。蛇行する縞模。ボタン状附け文。	大木5式	
41-鏡34	X53 Y145	深鉢	①— ③—	②—	③磁粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	地文は平行沈線。手取竹管状工具による押し引きで文様を描出。	清瀬c	
41-鏡35	X52 Y141	深鉢	①— ③—	②—	③中粒 ④灰黄褐色 ⑤口縁部	地文は平行沈線後、底位に薄壁を附付け。口縁部内面にボタン状附け文を施す。		
41-鏡36	X51 Y141	深鉢	①— ③—	②—	③砂粒含む ④灰黄褐色 ⑤破片	地文による文様。下位は刺突式工具による縞状文を描出。		
41-鏡37	X52 Y139	深鉢	①— ③—	②—	③滑物含む ④灰黄褐色 ⑤破片	地文による標位を基とする文様を図出。下位は、刺突式工具による縞状文を描出。		

(注) ①標位は、「深直」：床面より10cm以上の層位から検出。 「屜上」：床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。箇内の検出については「箇内」と記載した。

②③④、器種の層位は1mである。現存位置を「—」、復元位置を「—」で示した。

⑤胎土は、磁粒（0.9mm以下）、中粒（1.0~1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物がある場合に鉱物名等を記載した。

⑥焼成は、施瓦、良好、不良の3段階とした。

Tab. 5 元總社苔海遺跡群(41)出土器観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②底径	③底高	④胎土 ⑤色調 ⑥焼成 ⑦温度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
41-1	H-1 底直	土加脂 要	①13.2 ③5.4	②15.8	③砂粒含む ④灰 ⑤口縁部	底部が小傾。平底。体部内凹し。底部はやや内傾。口縁部はやや外傾、体部外縁削り。口縫部擴張して立ち上る。斜面丸め。口縫部擴張して、内面削る。	15	6 C前半
41-2	H-1 底直	土加脂 要	①— ③—	②8.6 ③8.8	③中粒 ④磁 ⑤口縁部	丸底で、斜面に丸みを持ち器底最大幅。斜面削り。斜面丸め。口縫部擴張して立ち上る。外縁削り。内面削り。口縫部擴張して、内面削る。	1	6 C後半
41-3	H-1 底直	土加脂 要	①— ③—	②12.7 ③8.8	③中粒 ④灰 ⑤口縁部	磁粒削り。尖鋒部削り削除。無で調整。内面削り。鍋み：火掘。外縁削り。内面削り。	3	6 C後半
41-4	H-1 底直	土加脂 要	①— ③—	②11.6 ③4.4	③中粒 ④磁 ⑤口縁部	底部丸底。柱状く。口縫は外傾して立ち上がる。体部削削り。口縫部擴張して、内面削る。	6	6 C後半
41-5	H-2 底直	土加脂 要	①— ③—	②12.7 ③9.4	③中粒 ④灰 ⑤口縁部	磁粒削り。回転糸切り後、側で調整。内外削り。体部内凹し。口縫部削削り。	7	8 C前半
41-6	H-2 底直	土加脂 要	①— ③—	②14.8 ③2.7	③中粒 ④灰 ⑤口縁部	底部平底。体部や内面削り立上がりで口縫部外傾。外縁削り。口縫部擴張して、内面削り。地文あり。	12	8 C前半
41-7	H-3 底直	土加脂 要	①— ③—	②13.6 ③7.6	③中粒 ④灰 ⑤口縁部	磁粒削り。回転糸切り後、側で調整。内外削り。体部外傾。	6	8 C後半
41-8	H-4 底直	奈良 彩 蓋	①— ③—	②12.4 ③1.2	②1.3 ③—	奈良彩。口縫部削り立上がり付く。美色が良い。	1	8 C前半
41-9	H-4 土加脂 台付要	土加脂 要	①— ③—	②9.9 ③—	③中粒 ④灰 ⑤口縫部	口縫部：火掘。体部：底削。中央立ち上部。下部ともに内削。内面削りで、外縁削り。斜面：火掘。	9 C後半	
41-10	H-4 底直	土加脂 要	①— ③—	②13.9 ③8.4	③中粒 ④灰白 ⑤口縫部	磁粒削り。底削：口縫部切削削除で調整。付け高台。内面削りと磁粒削りで。体部は底やや内側削り立ち上り。斜面から内側に向って水平に削り。口縫部が削り立値立す。	9 C前半	
41-11	H-7 底直	土加脂 要	①— ③—	②2.5 ③6.1	③中粒 ④灰 ⑤口縫部	磁粒削り。回転糸切り未調整。内外面削り。体部が底く内凹。斜面削り。口縫部が削り立値立す。	12	8 C後半
41-12	H-9 底直	土加脂 要	①— ③—	②4.2 ③6.6	③中粒 ④灰白 ⑤口縫部	磁粒削り。回転糸切り未調整。内外面削り。底削立値立し。内面削り。	9 C後半	
41-13	H-9 底直	土加脂 要	①— ③—	②22.3 ③8.5	③中粒 ④灰 ⑤口縫部	磁粒削り。回転糸切り側で調整。鍋み加し。内面削り。	9 C	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②底径	②底高	③胎土 ④色調	②底成 ④底存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
41-14	H-9 覆土	圓底器 底盤	①(16.8) ②(7.3)	③	②底白 ③灰白	②良好 ④破片	輪廓整形。口縁部は底直し。内外面輪廓直。脚部：内外面輪廓直。底部：底直し。	10C前半	
41-15	H-9 覆土	灰焰 高台柄	①— ②(1.0)	③	②底白	②良好	輪廓整形。回転赤切り後、撫で調整。高台復元。内外面輪廓直。脚部：底直し。	10C前半	
41-16	H-10 壇内 高台柄	灰焰 高台柄	①(15.6) ②(4.1)	③	②底白	②良好	輪廓整形。回転赤切り後、撫で調整。高台復元。内部内肉、口縁部削り。外面部輪廓直。脚部：底直し。	1	10C半ば
41-17	H-11 覆土	土加器 坪	①(12.2) ②(3.3)	③	②底白	②良好	底部平底。内部直。体部外側、口縁部削直。体部に指圧痕あり。	9 C半ば	
41-18	H-11 覆土	青磁 桶	①— ②—	③	②底白	②良好	体部外彌。	—	
41-19	H-11 覆土 高台柄	綠釉 高台柄	①(11.6) ②(1.9)	③	②底白	②良好	体部や外肉、口縁部外彌。	10C前半	
41-20	H-15 床底 高台柄	圓底器 高台柄	①(14.0) ②(4.0)	③(10.7)	②底白 ③灰	②良好 ④破片	輪廓整形。回転赤切り後、撫で調整。付け高台。内外面輪廓直。体部外彌。底径が大きい。	1	8 C後半
41-21	H-14 床底	圓底器 高台柄	①(14.7) ②(1.9)	③	②底白	②良好	輪廓整形。内部直。内外面輪廓直。脇み短く直立する。内面に凹り。	17	8 C半ば
41-22	H-14 床底	圓底器 高台柄	①(15.4) ②(4.6)	③(10.4)	②底白	②良好	輪廓整形。回転赤切り後、撫で調整。削り出し両面。内外面輪廓直。体部や外肉。	16	8 C半ば
41-23	H-14 床底 坪	土加器 坪	①(15.4) ②(3.6)	③	②底白 ③橙	②良好 ④完形	底部丸底。口縁部削直。外面部削り。内部直。体部は外傾。口縁部削り。底直し。	10-11+12	8 C半ば
41-24	H-14 床底	土加器 坪	①(14.4) ②(3.5)	③	②底白	②良好	底部丸底。口縁部削直。外面部削り。内部直。体部は外傾。口縁部削り。底直し。	2+3+4	8 C半ば
41-25	H-15 覆土	圓底器 蓋	①(11.7) ②(2.1)	③	②底白	②良好	輪廓整形。外面部輪廓直。脇みが小さくボタン状に付く。内面に凹り。	7	7 C後半
41-26	H-18 床底 坪	土加器 坪	①(12.2) ②(3.2)	③	②底白	②良好	底部丸底。外面部削り。内面削直。体部内肉で立ち上り。口縁部削り直立する。	5	8 C前半
41-27	H-18 床底	圓底器 坪	①(13.0) ②(3.7)	③(8.9)	②底白 ③灰白	②良好 ④破片	輪廓整形。回転赤切り後、撫で調整。内外面輪廓直。体部外彌。	2	8 C半ば
41-28	H-18 床底	土加器 坪	①(21.0) ②(9.8)	③	②底白	②良好	底部削り。口縁部削り外彌。横削り。内面削直。	40	9 C前半
41-29	H-19 床底 坪	土加器 坪	①(13.4) ②(3.3)	③	②底白 ④修理付着	②良好 ④はぼ定形	底部平底。外表面削り。内面削直。体部外肉。口縁部削り直立。口縁部機械削り。口縁部内肉に複付着。	14	8 C後半
41-30	H-19 床底 坪	土加器 坪	①(13.7) ②(3.3)	③	②底白	②良好 ③橙	底部や外肉。外表面削り。内面削直。体部外肉。口縁部削り外肉。	7	8 C後半
41-31	H-19 床底 台付坪	土加器 坪	①— ②(3.6)	③(11.0)	②底白 ③明黄褐	②良好 ④内部のみ	内面削直。	24	9 C前半
41-32	H-20 床底 坪	土加器 坪	①(16.5) ②(3.3)	③	②底白	②良好	丸底。体部削り直。口縁部削直。内面削直。体部外傾。口縁部削り内肉。	7	8 C前半
41-33	H-20 床底 坪	土加器 坪	①(14.7) ②(4.2)	③	②底白	②良好	丸底。体部削り直。内面削直。丸底。体部削り外反。口縁部削り内肉。	5+6	8 C前半
41-34	H-21 覆土 高台柄	圓底器 高台柄	①(16.8) ②(6.5)	③	②底白	②良好	輪廓整形。回転赤切り後、撫で調整。高台底欠損。内外面輪廓直。脚部外彌。	10C前半	
41-35	H-21 床底	圓底器 高台柄	①— ②(2.6)	③(6.9)	②底白 ③灰白	②良好 ④底部	輪廓整形。回転赤切り後削り。付け高台。内外面輪廓直。底部に「茎」の筆書きあり。	6	10C前半
41-36	H-22 床底 坪	土加器 坪	①(14.4) ②(4.1)	③	②底白	②良好	丸底。体部が付き。口縁部外彌。内面削直。口縁部削直。体部削削。	10	6 C後半
41-37	H-22 床底 坪	土加器 坪	①(12.8) ②(4.6)	③	②底白 ③にごい橙	②良好 ④破片	丸底。丸底が付き。口縁部直立。内面削直。体部削り。口縁部削直。	101	6 C前半
41-38	H-22 床底 塗	土加器 塗	①(15.6) ②(3.5)	③	②底白 ③橙	②良好 ④はぼ定形	底部丸底。体部外傾し。口縁部削り外彌。内面削直。外表面削り後、撫で。	14+15	6 C前半
41-39	H-22 床底 塗	土加器 塗	①(11.0) ②(19.4)	③	②底白 ③にごい黄褐	②良好	丸底。体部中に最大径を持つ。球状部の部分が短く直立。口縁部削り外彌。	3	6 C後半
41-40	H-22 床底 大塗	圓底器 坪	①(16.7) ②(28.3)	③	②底白	②良好 ④破片	底部に最大径を持つ。底膨大部。外側に筋状のたき文様あり。内面削直の跡がある。削離外反する。	1+2	5 C
41-41	H-22 床底 塗	圓底器 坪	①(7.8) ②(7.8)	③	②底白	②良好 ③灰	輪廓整形。削離から口縁部をかけて底立ちに外傾。内外面輪廓直。外表面に自然削りの跡。	10	9 C半ば
41-42	H-24 土加器 覆土	土加器 坪	①(12.4) ②(3.2)	③(11.6)	②底白 ③明黄褐	②良好 ④破片	底原丸。体部外傾し。口縁部削り外彌。内面削直。口縁部は短く底直し。	8 C後半	
41-43	H-26 陶化焰 床底	圓底器 坪	①(11.6) ②(3.9)	③	②底白	②良好	輪廓整形。回転赤み調整。内外面輪廓直。体部外傾し。口縁部削り外彌。	47	10 C半ば
41-44	H-26 陶化焰 床底	圓底器 坪	①(11.8) ②(5.4)	③(6.8)	②底白	②良好	輪廓整形。回転赤み削り後、高台復元。内外面輪廓直。体部強く外傾し。口縁部外彌。	41+52	10 C前半
41-45	H-29 土加器 坪	土加器 坪	①(13.2) ②(4.3)	③—	②底白	②良好	丸底。外表面削り。様が付き。口縁部外彌。横削り。内面削直。	43	6 C後半
41-46	H-29 灰焰 覆土	灰焰 高台柄	①(15.4) ②(4.7)	③(7.6)	②底白 ③灰白	②良好	輪廓整形。底膨大部削り。丸底。外表面削り。口縁部外彌。横削り。内面削直。	10C半ば	
41-47	H-29 灰焰 床底	灰焰 坪	①(12.1) ②(3.9)	③(5.6)	②底白 ③橙	②良好	輪廓整形。回転赤み削り後、撫で調整。高台削り。丸底。口縁部削り外彌。	35	10 C半ば
41-48	H-30 土加器 坪	土加器 坪	①(10.4) ②(3.2)	③	②底白	②良好	丸底。体部削り直。内面削直。体部外傾し。口縁部削り内肉。口縁部削直。	4	7 C後半
41-49	H-32 土加器 窓内	土加器 坪	①(22.2) ②(16.5)	③	②底白 ③明黄褐	②良好 ④破片	体部削り直。内面削直。体部外傾し。口縁部削り外彌。内面削直。	5+6	8 C前半
41-50	H-33 圓底器 床底	圓底器 坪	①(12.8) ②(4.7)	③(5.6)	②底白	②良好 ④明オーラー	輪廓整形。回転赤み削り未調整。内外面輪廓直。体部外傾。	4	10 C半ば

番号	上山透 明日	部位名	①口唇		②面部 の構成 部構造		面部の割り 分け・整形・調整技術	症候 点	参考
			③顎	④頭頸部 の構成 部構造	⑤歯列	⑥咬合			
41-51	H-33 底床	意窓器 高台型	⑩13.8 ⑩36.4	⑩25.2 ⑩34.4	⑩細胞 ⑩良好 ⑩高い貴賃	⑩良好 ⑩良好 ⑩高い貴賃	輪郭整形。回転糸切り後、擦で調整。付け高台。内外面輪郭擦で、体部や外側し、口縫部周囲。	30	10C前半
41-52	H-33 底床	意窓器 高台型	⑩13.2 ⑩35.7	⑩22.8 ⑩35.7	⑩細胞 ⑩良好 ⑩リーフ状(底床)が完形	⑩良好 ⑩良好 ⑩リーフ状(底床)が完形	輪郭整形。回転糸切り後、擦で調整。付け高台。内外面輪郭擦で。体部外側し、口縫部外側。	1	10C前半
41-53	H-33 底床 窓内 窓	土師器 窓坪	⑩11.8 ⑩36.0	⑩2.9 ⑩6.0	⑩細胞 ⑩良好 ⑩高い貴賃	⑩良好 ⑩良好 ⑩高い貴賃	輪郭整形。底床で調整、外側面削で、体部外側し。口縫部や底立、骨部削りで調整。	31*47	10C半ば
41-54	H-33 底床 門面窓	意窓器 高台型	⑩22.4 ⑩36.0	⑩21.2 ⑩36.0	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底床片	⑩良好 ⑩良好 ⑩底床片	輪郭整形。底床で調整、内外面削で。裏にして使用底路あり。	37	8C
41-55	H-34 底床	意窓器 高台型	⑩16.0 ⑩37.7	⑩4.7 ⑩6.0	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸切り後、擦で調整。削り出し高台。殆ど付け、内外面輪郭擦で、内面底部に余材付。	1	10C半ば
41-56	H-34 底床	土師器 窓坪	⑩17.6 ⑩36.0	⑩2(13.0) ⑩3	⑩細胞 ⑩高い貴賃 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩高い貴賃 ⑩底	底床欠損。底部から側面にかけて丸みを帯びる。口縫部底板で、外側削りで調整。口縫部削りで、口縫部底板で、内面全体が黒色。	22	8C後半
41-57	H-34 底床	土師器 窓坪	⑩21.0 ⑩36.0	⑩2(14.7) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	体部底削り、口縫部外側し、口部が暗く底立。口縫部底板で、指江骨部削り、口縫部削り。	24	9C前半
41-58	H-34 底床	土師器 窓坪	⑩23.2 ⑩36.0	⑩2(9.8) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩高い貴賃	⑩良好 ⑩良好 ⑩高い貴賃	同様底削り。口縫部が底くの字を呈す。口縫部は近く内側。	91	9C前半
41-59	H-35 底床	意窓器 高台型	⑩13.6 ⑩37.4	⑩2(9.9) ⑩3	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底/2面	輪郭整形。回転糸切りで擦で調整。削り出し高台。内外面輪郭擦で。	56	9C前半
41-60	H-35 底床 窓	意窓器 窓坪	⑩12.6 ⑩36.0	⑩2(3.9) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸切り後、擦で調整。内外面輪郭擦で、体部外側。	16C半ば	
41-61	H-35 底床 窓	意窓器 高台型	⑩17.4 ⑩36.0	⑩2(7.4) ⑩3(9.5)	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底/2面	⑩良好 ⑩良好 ⑩底/2面	輪郭整形。回転糸切り後で調整後、付け高台。内外面輪郭擦で、体部底立ち底板で外側。	49	10C前半
41-62	H-35 底床 窓	土師器 窓坪	⑩1— ⑩36.0	⑩2(2.7) ⑩3	⑩良好 ⑩底 ⑩リーフ底/2面	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	体部ゆるく外側、口部底切く外側。輪郭整形。内外面輪郭擦で。	10C半ば	
41-63	H-36 底床	意窓器 窓坪	⑩13.0 ⑩36.7	⑩2(3.6) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩リーフ底	⑩良好 ⑩良好 ⑩リーフ底	輪郭整形。回転糸切り後、擦で調整。内外面輪郭擦で。体部外側。	50	8C後半
41-64	H-36 底床	意窓器 窓坪	⑩1— ⑩36.0	⑩2(14.4) ⑩3	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸切り後、擦で調整。底部欠損、底部、削部、回転底削りで調整後、無く。	18	8C後半
41-65	H-36 底床	意窓器 高台型	⑩10.8 ⑩36.8	⑩2(4.9) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸切り後で調整、削り出し高台。内外面輪郭擦で。体部底立ち底板で外側。	45*49	9C前半
41-66	H-36 底床	意窓器 窓	⑩11.0 ⑩36.0	⑩2(3.3) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。内外面輪郭擦で、弱みが付く。	8C前半	
41-67	H-37 底床 窓	意窓器 窓坪	⑩11.6 ⑩36.3	⑩2(3.9) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸切り後。内外面輪郭擦で、体部外側。口縫部底削りで外反。	9C半ば	
41-68	H-37 底床	土師器 窓坪	⑩12.0 ⑩36.0	⑩2(3.2) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	底床底平。外側面削り、内面削で、体部外側。口縫部底く底立、擦で。	18	9C半ば
41-69	H-37 底床	土師器 窓	⑩11.0 ⑩36.0	⑩2(3.0) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	底床、小矢の底。削部から底部にかけて外側。底部が底く外側。⑩縫部底外側、外側削りで調整。	39	9C前半
41-70	H-38 底床	意窓器 高台型	⑩16.0 ⑩36.0	⑩2(5.1) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩高い貴賃	⑩良好 ⑩良好 ⑩高い貴賃	輪郭整形。回転糸切り後。擦で調整。高台欠損。内外面輪郭擦で、内底であります。	27	10C前半
41-71	H-38 底床	意窓器 窓坪	⑩13.4 ⑩36.0	⑩2(3.5) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸未調整。内外面輪郭擦で。体部底く外側。	51	10C前半
41-72	H-38 底床	土師器 窓	⑩21.4 ⑩36.0	⑩2(15.8) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	体部底削り。底部に最大底を持つ。コの字底く、内面削で。	16*58	9C後半
41-73	H-38 底床	土師器 窓	⑩1— ⑩36.0	⑩2(4.9) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩リーフ底	⑩良好 ⑩良好 ⑩リーフ底	脚部のみ、外側削で。	21	9C後半
41-74	H-38 底床 窓	意窓器 窓	⑩18.0 ⑩36.0	⑩2(5.0) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩高い貴賃	⑩良好 ⑩良好 ⑩高い貴賃	輪郭整形。内外面輪郭擦で。口縫部底く内側する。	10C前半	
41-75	H-39 底床	意窓器 窓	⑩12.6 ⑩36.4	⑩2(3.9) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩高い貴賃	⑩良好 ⑩良好 ⑩高い貴賃	輪郭整形。回転糸切り未調整。内外面輪郭擦で。体部外側口縫部底外側。	5	10C半ば
41-76	H-39 底床	意窓器 高台型	⑩12.0 ⑩36.0	⑩2(4.4) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸切り後調整後、付け高台。内外面輪郭擦で、体部外側底立、口縫部削りで。	6	10C前半
41-77	H-39 底床	土師器 窓	⑩21.6 ⑩36.0	⑩2(13.0) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	外側面削り。肩部に最大底を持つ。口縫部底削り、指江底あり、ややコの字底く。	24*28	9C後半
41-78	H-39 底床	土師器 窓	⑩1— ⑩36.0	⑩2(2.7) ⑩3	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸切り後、擦で調整。内外面輪郭擦で。殆が内外全體に付着。発色が良い。	1	10C半ば
41-79	H-40 底床	意窓器 窓坪	⑩12.6 ⑩36.6	⑩2(3.6) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩高いオーリー底	⑩良好 ⑩良好 ⑩高いオーリー底/4形	輪郭整形。回転糸切り未調整。内外面輪郭擦で。体部外側。	2	8C後半
41-80	H-40 底床	土師器 窓	⑩23.6 ⑩36.0	⑩2(5.0) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸底削り。内面削で。口縫部削り。	82	8C半ば
41-81	H-41 底床	意窓器 窓	⑩1— ⑩36.6	⑩2(2.5) ⑩3	⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸切り未調整。内外面輪郭擦で。体部や外側し、外縫部削り。	1	8C半ば
41-82	H-41 底床	意窓器 窓	⑩12.6 ⑩36.6	⑩2(3.5) ⑩3	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸切り後、擦で調整。内外面輪郭擦で。体部や外側し、外縫部削り。	112	9C半ば
41-83	H-42 底床	意窓器 窓	⑩14.6 ⑩37.3	⑩2(5.3) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸切り後。擦で調整。付け高台。内外面輪郭擦で、体部外側。	74	9C後半
41-84	H-43 底床	意窓器 高台型	⑩13.1 ⑩37.2	⑩2(2.2) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩良好 ⑩底	輪郭整形。回転糸切り後、擦で調整。付け高台。内外面輪郭擦で、体部水平に削る。	104	9C後半
41-85	H-43 底床	土師器 窓坪	⑩11.8 ⑩36.6	⑩2(3.5) ⑩3	⑩細胞 ⑩良好 ⑩高い貴賃	⑩良好 ⑩良好 ⑩高い貴賃	平面。外側面削り。内面削で、口縫部外反。	99	9C半ば
41-86	H-44 底床	土師器 窓	⑩11.0 ⑩36.0	⑩2(7.0) ⑩3	⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩底	体部底削り。肩部底が付き。口縫部底立。口縫部外反、内面削で。	75	6C後半
41-87	H-44 底床	土師器 窓	⑩13.8 ⑩37.3	⑩2(4.2) ⑩3	⑩良好 ⑩底	⑩良好 ⑩底	底面やや底立、外側面削り。カントかねが付き。口縫部外側、内面削で。	32	8C前半

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②底径	③高さ ④底面 の角度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考	
41-88	H-44 床直	圓底器 坪	①12.4 ②—	③20.7 ④底5/6	軽纏整形。回転式切削。木調整。内外面軽纏形で、体部細く、外済。	69	8 C半平	
41-89	H-45 床直	圓底器 邊	①15.8 ②—	③20.7 ④底5/6	軽纏整形。内外面軽纏形で。胸みあり。	94	8 C半平	
41-90	H-45 床直	圓底器 坪	①11.8 ②6.5	③20.4 ④底5/6	軽纏整形。回転式切削で未調査。内外面軽纏形で、体部外傾。	456	8 C半平	
41-91	H-45 床直	圓底器 高台	①16.4 ②9.2	③20.3 ④底5/6	軽纏整形。回転式切削で調整後。付け高台。内外面軽纏形で、体部外傾。	30	9 C前半	
41-92	H-45 上端器 床直	①(1) 12.2 ②—	③22.9 ④—	①纏紋 ②良好 ③横	平底。外側割り。内面削。口縁部削。	147	9 C前半	
41-93	H-45 圓底器 高台脇	①(1) 11.4 ②—	③(2) 7.5 ④—	①纏紋 ②良好 ③自然物。金具付 ④底5/4	軽纏整形。内外面軽纏形で。底部外側に直角輪。	383	9 C半平	
41-94	H-45 床直	土端器 坪	①(1) 13.1 ②—	③23.9 ④底5/2	①纏紋 ②良好 ③底5/2 ④底5/2	平底。底部削り。体部や外済し。口縁部外傾。横削で、底部外側に「家」の墨書きあり。	322	9 C半平
41-95	H-45 床直	圓底器 邊	①(1) 14.0 ②—	③20.0 ④底5/4	①纏紋 ②良好 ③縫灰	軽纏整形。回転式切削で。大口径の胸みあり。	113	9 C前半
41-96	H-47 圓底器 坪	①(1) 12.4 ②—	③24.9 ④底5/6	①纏紋 ②良好 ③明オーラー灰 ④底5/6	軽纏整形。回転式切削後で調整。内外面軽纏形で、体部や外済し。口縁部削り外傾。	2・3	8 C半平	
41-97	H-48 圓底器 坪	①(1) 14.1 ②—	③24.2 ④底5/4	①纏紋 ②良好 ③縫灰	軽纏整形。回転式切削未調査。内外面軽纏形で、体部外傾し。口縁部削り外傾。	173	9 C後半	
41-98	H-49 圓底器 坪	①(1) 13.4 ②—	③23.8 ④底5/8	①纏紋 ②良好 ③縫灰	軽纏整形。回転式切削未調査。内外面軽纏形で、体部外傾し。口縁部削り外傾。	15	10 C半平	
41-99	H-49 床直	土端器 邊	①(1) 19.6 ②—	③(2) 16.5 ④—	①纏紋 ②良好 ③横	回転式削り。口縁部削り。内面削で。	18	9 C半平
41-100	H-50 床直	土端器 坪	①(1) 14.4 ②—	③24.3 ④底5/3	①纏紋 ②良好 ③底5/2 ④底5/2	外側割り。底部や丸みを帯びる。体部内済して立ち上り。口縁部も内済で輪郭を帯びる。口縁部削り。内面削。	23	8 C後半
41-101	H-51 圓底器 高台脇	①(1) 16.4 ②—	③26.8 ④底5/4	①纏紋 ②良好 ③底5/3	軽纏整形。回転式切削で調整。内外面軽纏形で、削り出し高台。体部外傾し。口縁部削り外傾。	11	8 C半平	
41-102	H-52 床直	土端器 長削側	①(1) 21.6 ②—	③(2) 26.5 ④—	①纏紋 ②良好 ③横	底部欠損。口縁部削り外傾。内面削で。外側削り後削て。斜部の上に最大幅を持つ。	1	7 C後半
41-103	H-52 床直	土端器 邊	①(2) 21.1 ②—	③(2) 23.5 ④底5/8	①纏紋 ②良好 ③横	底部。底端。底状を呈す。体部の中央で最大幅を持つ。口縁部削り直し。底端外傾。斜部の上に最大幅を持つ。外側削り後、削で調整。	23	7 C後半
41-104	H-52 圓底器 底直	①(2) 20.4 ②—	③(2) 23.6 ④底5/4	①纏紋 ②良好 ③底5/3	軽纏整形。回転式切り。削で調整。内外面軽纏形で。	47・48	7 C後半	
41-105	H-53 床直	土端器 邊	①(1) 19.4 ②—	③(2) 16.7 ④—	①纏紋 ②良好 ③—	底部丸平底。外側割り。内面削で。ミギキ。短文あり。体部外傾。口縁部や底直。口縁部削。	4	8 C半平
41-106	H-54 床直	土端器 邊	①(1) 17.0 ②—	③(2) 15.5 ④底5/7	①纏紋 ②良好 ③横	底部平底。体部削り後削て。口縁部削り。内面削で。体部外傾。体部外側に「土」の墨書きあり。	274	9 C後半
41-107	H-55 圓底器 坪	①(1) 13.0 ②—	③(2) 10.8 ④底5/6	①纏紋 ②良好 ③オーラー灰 ④底5/2	軽纏整形。回転式削り未調査。内外面軽纏形で。体部外傾し口縁部削り外傾。	1	9 C後半	
41-108	H-55 圓底器 高台脇	①(1) 15.0 ②—	③(2) 15.2 ④底5/6	①纏紋 ②良好 ③オーラー灰 ④底5/2	軽纏整形。回転式切削。削で調整。削り出し高台。内外面軽纏形で。体部外傾。	18	9 C後半	
41-109	H-56 圓底器 坪	①(1) 16.0 ②—	③(2) 16.8 ④底5/8	①纏紋 ②良好 ③底5/4 ④底5/2	底部のみ。内面削で。外側削り後。削で調整。	132	6 C後半	
41-110	H-56 圓底器 高坪	①(1) 15.3 ②—	③(2) 15.1 ④底5/3	①纏紋 ②良好 ③横	底部のみ。内面削り。削の跡が複数ある。	1	6 C後半	
41-111	H-56 圓底器 邊	①(1) 11.0 ②—	③(2) 8.4 ④底5/3	①纏紋 ②良好 ③横	丸底。体部中まで削り付ける。口縁部外反気味に直し。外側削り後削。側で。口縁部削り直し。	28・29	6 C後半	
41-112	H-56 圓底器 高台	①(1) 10.0 ②—	③(2) 5.5 ④底5/8	①纏紋 ②良好 ③底5/1	軽纏整形。回転式切削で調整。内外面軽纏形で。削り出し高台。体部直立。外側削。	9	9 C前半	
41-113	H-56 圓底器 坪	①(1) 12.8 ②—	③(2) 5.0 ④底5/8	①纏紋 ②良好 ③横	丸底。体部削り後。横。横を持ち。口縁部直立気味外傾。横削で。内面削。	57	6 C前半	
41-114	H-56 圓底器 高坪	①(1) 19.6 ②—	③(2) 0.9 ④底5/8	①纏紋 ②良好 ③横	丸底。体部削り後。横。横が付いて。口縁部直立気味に外反。内面削。全体が横に倒れにねた。	136	6 C後半	
41-115	H-56 圓底器 邊	①(1) 16.4 ②—	③(2) 7.5 ④底5/6	①纏紋 ②良好 ③横	底部欠損。内面削り。削で調整。口縁部外反し削く。	6	6 C後半	
41-116	H-56 圓底器 底直	①(1) 19.0 ②—	③(2) 20.0 ④底5/5	①纏紋 ②良好 ③横	丸底。体部中まで削り付ける。口縁部外反気味に直し。外側削り後削。側で。口縁部削り直し。	78	9 C後半	
41-117	H-56 圓底器 坪	①(1) 11.6 ②—	③(2) 3.0 ④底5/3	①纏紋 ②良好 ③横	平底。外側削り後。削で。内面削で。口縁部削り外反。	44	9 C半平	
41-118	H-59 圓底器 底直	①(1) 12.6 ②—	③(2) 1.1 ④底5/6	①纏紋 ②良好 ③底5/4 ④底5/2	平底。外側削り後。削で。内面削で。内面削で。体部外傾。	23	9 C半平	
41-119	H-59 圓底器 坪	①(1) 12.6 ②—	③(2) 3.7 ④底5/6	①纏紋 ②良好 ③底5/4 ④底5/2	軽纏整形。回転式切削。削で調整。内外面軽纏形で。体部や外済し。	7	9 C後半	
41-120	H-59 圓底器 邊	①(1) 2—	②—	③— ④— ⑤— ⑥—	体部の瓶底。丸孔を施工した加工板あり。	10	—	
41-121	H-60 圓底器 坪	①(1) 12.4 ②—	③(2) 4.2 ④底5/6	①纏紋 ②良好 ③横	丸底。外側削り後。削で。口縁部直立。やや内済し。横削で。内面削。	15	8 C前半	
41-122	H-61 圓底器 邊	①(1) 19.8 ②—	③(2) 10.0 ④底5/8	①纏紋 ②良好 ③横	部に最大幅を持つ。外側削り後。内面削で。口縁部の字を呈す。	1・2・3	9 C半平	
41-123	H-61 圓底器 坪	①(1) 10.8 ②—	③(2) 4.3 ④底5/8	①纏紋 ②良好 ③横	丸底。内面削り後。底部に瘤状突起。底部から内面にかけて縦線の凹面削。	12	9 C半平	
41-124	H-63 圓底器 坪	①(1) 14.8 ②—	③(2) 4.8 ④底5/3	①纏紋 ②良好 ③横	丸底。内面削り後。削で。口縁部直立気味に内済し。横削で。内面削。	50	8 C前半	

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②底高	③地質 ④色調	⑤地 ⑥成形 ⑦道行度	器種の判別・整形・調整技術	登録番号	備考
41-125	H-67 床直	土器器 坪	①12.8 ②3.8	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	丸底。外表面削り後、擦で。口縁部削く直立。横擦で。内面擦で。	29	8 C後半
41-126	H-67 床直	土器器 坪	①12.2 ②3.6	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。回転削り後、擦で調整。体部外傾し、口唇部が短く内凹。内面擦で。底部外側に底底底、足底の現象あり。	15	8 C後半
41-127	H-67 床直	土器器 坪	①13.8 ②3.3	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	やや平底を呈す。外表面削り後、擦で調整。体部外傾し、口唇部が短く内凹。内面擦で。底部外側に底底底、足底の現象あり。	8	8 C前半
41-128	H-67 床直	土器器 坪	①19.0 ②7.0	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	丸底。外表面削り、内面擦で。底部の内面に瘤状突起。底部から縁部にかけて縫合の痕跡あり。	10・17	8 C半ば
41-129	H-69 床直	土器器 坪	①12.4 ②4.8	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	丸底。外表面削り後、擦で。口縁部削く内凹。横擦で。内面擦で。	235	8 C前半
41-130	H-69 床直	土器器 坪	①9.8 ②3.4	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。荒削り後、擦で調整。内面表面擦で。底部から体部口縁部にかけて直立。	100	8 C前半
41-131	H-69 床直	土器器 坪	①16.0 ②5.7	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	丸底。外表面削り後、擦で。口縁部削く内凹。横擦で。内面擦で。	30	8 C前半
41-132	H-79 床直	土器器 坪	①11.1 ②2.8	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	丸底。わずかに棱が付き。口縁部削く直立気味に外反。	8	7 C前半
41-133	H-71 床直	土器器 坪	①12.4 ②3.9	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。回転削り後、擦で調整。内面表面擦で。体部外傾。	22	10 C前半
41-134	T-3 床直	土器器 盤	①24.6 ②2.8	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。内面表面擦で。内面に成形時の付着物あり。	2	7 C半ば
41-135	O-1 土直	土器器 盤	①8.6 ②8.0	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。回転削り後、擦で調整。高台復元。内面表面擦で。内面に輪郭に沿って縫合の痕跡あり。	2	10 C前半
41-136	O-1 土直	土器器 盤	①—	②—	③砂 ④灰	織紋整形。内面削り後、擦で調整。底部から縫合の痕跡あり。	9	9 C前半
41-137	X51 Y140 高台復元	土器器 盤	①— ②(1.6)	③— ④砂	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。回転削り後、擦で調整。内面表面擦で。内面底部に「金」の墨書きあり。	—	8 C後半
41-138	X54 Y142 高台復元	土器器 盤	①— ②(0.9)	③— ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。内面削り後、擦で調整。高台欠損。内面表面擦で。内面に「木」の墨書きあり。	—	8 C後半

(注) ①標高は、「底面」(床直)より10cm以内の位置から検出。 「壁上」(床直)より10cmを超える位置から出土の2段階に分けた。 地面の検出については「地内」と記載した。

②径、器の単位(cm)である。現存寸法を「—」、復元値を「()」で示した。

③地土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④成形は、粗良、良好、不良の三段階とした。

Tab. 6 元続社蒼海遺跡群(43)出土土器観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②底高	③地質 ④色調	⑤地 ⑥成形 ⑦道行度	器種の判別・整形・調整技術	登録番号	備考
43-1	H-1 床直	土器器 坪	①16.6 ②3.4	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	丸底。内面擦で、外表面削り。体部外側気泡に立ち上り、口縁部削く内凹。口縁部削で。	155	8 C前半
43-2	H-1 床直	土器器 坪	①13.0 ②4.4	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	外表面削り。内面擦で。体部削く外溝し、口縁部削く直立気泡。横擦で。内面擦で。	8	8 C前半
43-3	H-1 土器 坪	①— ②—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	丸底。外表面削り後、擦で。体部外側して立ち上り。口縁部削く直立。内面擦で。	154	8 C前半	
43-4	H-1 土器 坪	①— ②(12.8) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	底部やや平底。外表面削り。体部削く外溝。口縁部内凹。内面擦で。	415	8 C半ば	
43-5	H-1 土器 坪	①— ②(22.7) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	剥離削り。口縁部削り。底部削り。圓く。内面擦で。口唇部に最大膨大部。手縫持つ。	507	8 C前半	
43-6	H-1 土器 坪	①— ②(22.3) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	剥離削り。口縁部削り。強く外反し。圓く。内面擦で。口唇部に最大膨大部。	484	8 C前半	
43-7	H-1 土器 坪	①— ②(15.4) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	剥離丸みを削る。剥離削り。擦で。口縁部直立気泡に強く外反。背面に最大膨大部つ。内面擦で。	8	8 C半ば	
43-8	H-1 土器 坪	①— ②(15.8) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。回転削り後、擦で調整。高台欠損。内外表面擦で。体部外側し。口縫合で外反。	279	9 C後半	
43-9	H-1 土器 坪	①— ②(26.6) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。内外表面擦で。外側は剥離。口縁部直立気泡に外側。内面に歪みあり。脚中位から下位にかけて丸底。	439	8 C前半	
43-10	H-1 土器 盤	①— ②(24.0) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。内面表面擦で。盤面に歪みあり。脚中位から下位にかけて丸底。	7	7 C後半	
43-11	H-1 床直	土器器 盤	①— ②(24.6) ③(6.3)	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	内面擦で。外表面擦で。脚あり。直りなし。	406	8 C半ば
43-12	H-1 床直	土器器 盤	①— ②(11.0) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。外表面削り。脚あり。削り。脚付き。内面擦で。脚付き。	9	7 C後半
43-13	H-1 土器 盤	①— ②(29.4) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	口縁部削立気泡に外傾し。口唇部にかけ外反。背部はほぼ水平に伸び。脚部底付あり。	433	8 C前半	
43-14	H-1 土器 盤	①— ②(27.0) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。回転削り後、擦で調整。高台部が大きく外反気味。体部削く外側。底部削いて叩き削り。	12	—	
43-15	H-1 土器 盤	①— ②(27.1) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋盤。内面叩きによる瘤状痕あり。脚部削で。口縁部欠損。	7	C	
43-16	H-1 陶化焰 坪	①— ②(12.6) ③(2.5)	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	丸底。体部削離で。外側して立ち上り。口唇部削めて強く外反。内面擦で。裏あがき。全表面色を呈す。	6	10 C前半	
43-17	H-2 床直	土器器 盤	①— ②(14.8) ③—	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。回転削り後未調整。高台欠損。内面表面擦で。体部外側。	9・11	10 C前半
43-18	H-2 床直	土器器 盤	①— ②(20.3) ③(4.5)	③砂 ④灰	⑤織紋 ⑥良好 ⑦成形	織紋整形。内外表面擦で。口縁部内側する。	4	10 C前半

番号	出土構 造位	器種名	①口径 ②底径	③底高	④地土 ⑤色調	⑥焼成 ⑦保存度	器種の特徴・整形・変形・調整技術	登録番号	備考
43-19	H-3 床直	土器器 耳杯	①16.0 ③	②4.7	④粘粒 ⑤棕	⑥良好 ⑦4/5	丸底。外底荒削り後焼で、口縁部外反し。聞く。横無地、内面無地。	1	9 C 前半
43-20	H-2 床直	土器器 耳杯	①16.8 ③	②4.5	④粘粒 ⑤棕	⑥良好 ⑦4/5	やや平底を呈す。外底荒削り後、焼で、口縁部削り内丸し、立ち上る。	5	9 C 前半
43-21	H-4 床直	土器器 耳杯	①12.6 ③	②(2.2)	④粘粒 ⑤棕	⑥良好 ⑦4/2	内面削で、口縁部削り外傾。	4	8 C 前半
43-22	W-1 便土	陶化焰 瓦	①10.0 ③(5.8)	②1.8	④粘粒 ⑤灰	⑥良好 ⑦4/2	輪縁整形。回転式切り未調整。内外面輪縁削で。	10C 前半	
43-23	W-1 便土	内瓦鍋	①(27.9) ③(24.8)	②7.1	④粘粒 ⑤灰黄褐	⑥良好 ⑦4/5	内外面輪縁削で。外側に保付鉢。底部平坦。	12C	
43-24	W-1 便土	火鉢	①(26.0) ③	②(19.3)	④粘粒 ⑤灰	⑥良好 ⑦灰研	輪縁整形。内外面輪縁削で。口縁部に半輪の押し型模様あり。	12C	

(注) ①標位は、「床直」:床面より10cm以内の層位から検出。「便土」:床面より20cmを超える層位から出土の2段階に分けた。窓内の横出については「窓内」と記載した。

②口径、器種の単位はcmである。現存物を〔〕、復元物を〔 〕で示した。

③地土は、粘粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な物質が入る場合に物質名等を記載した。

④焼成は、楕円、楕扁、良好、不良の三段階とした。

Tab. 7 石器・石製品観察表

番号	出土構 造位	器種名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	遺存度	登録番号	備考
41-石1	H-21 便土	臼石	11.5	7.2	4.7	599.0	安山岩	ほぼ完形		
41-石2	X55 Y146 便土	管玉	3.4	[1.8]	0.4	8.8	滑石	1/2		
41-石3	H-34 便土	臼玉	1.6	1.5	(0.7)	3.0	滑石	ほぼ完形		
41-石4	H-35 便土	臼玉	1.1	1.1	0.5	1.0	滑石	ほぼ完形	1	
41-石5	H-56 便土	臼玉	1.4	1.4	0.7	2.1	滑石	ほぼ完形	71	
41-石6	H-69 便土	抉狀耳飾	(2.2)	0.8	0.8	3.5	蛇纹岩	1/3	71	
41-石7	H-3 便土	抉狀耳飾	(3.5)	(2.2)	0.8	10.6	滑石	1/3		
41-石8	H-55 便土	砾石	(6.7)	4.3	3.4	160.0	砂岩	1/2	17	
41-石9	H-35 便土	砾石	(3.3)	(3.6)	(1.9)	20.0	砂岩	1/4		
41-石10	H-34 便土	纺錘車	(2.1)	(4.0)	(0.4)	7.1	滑石	1/6	49	
41-石11	H-18 床直	纺錘車	6.1	6.1	3.7	140.0	安山岩	ほぼ完形	1	
41-石12	H-30 床直	纺錘車	4.1	4.1	1.9	50.5	滑石	完形	1	
41-石13	H-71 床直	纺錘車	3.7	3.7	1.9	46.2	蛇纹岩	完形	1	
41-石14	X55 Y140	打製石斧	11.5	5.7	2.8	133.0	黑色安山岩	ほぼ完形		
41-石15	J-2 便土	打製石斧	12.3	5.5	1.9	164.0	黑色頁岩	刃部欠損	335	
41-石16	H-52 便土	打製石斧	12.7	4.7	2.0	160.0	黑色頁岩	基部欠損	46	
41-石17	X46 Y146	打製石斧	13.0	4.9	1.6	138.0	黑色頁岩			刃部磨耗
41-石18	H-3 便土	打製石斧	9.3	5.2	1.6	70.0	黑色頁岩		44	刃部磨耗
41-石19	H-26 便土	打製石斧	10.9	4.0	1.7	90.0	黑色頁岩			刃部装着部磨耗
41-石20	J-2 便土	打製石斧	10.5	2.8	0.9	43.0	綠泥片岩		227	装着部磨耗
41-石21	T-3 便土	石砲	30.8	3.8	1.2	8.6	チャート			再加工品
41-石22	J-2 便土	石砲	5.0	2.4	0.5	7.6	黑色安山岩	先端欠損		

番号	出土遺構 層位	器種名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	遺存度	登録番号	備考
41-E23	J-1 覆土	石瓢	7.2	4.9	0.5	21.8	黒色頁岩			
41-E24	H-63 覆土	磨製石斧	(4.2)	(3.1)	0.9	29.0	蛇紋岩	1/2		
41-E25	X52Y141	石鍬	2.6	1.3	0.5	1.1	黒曜石			摘みあり
41-E26	X51Y141	石鍬	3.5	1.9	0.5	2.7	黒色頁岩			摘みあり
41-E27	X49Y142	石鍬	1.6	1.6	0.2	0.4	黒曜石			
43-E28	X143Y225	石鍬	2.8	1.7	0.3	1.0	黒曜石			
41-E29	X47Y143	石鍬	1.7	1.4	0.2	0.3	黒曜石	片足欠損		
41-E30	表探	石鍬	1.9	1.8	0.3	0.6	黒曜石			
41-E31	X54Y141	石鍬	2.2	2.6	0.2	1.2	黒曜石			特殊な形状
41-E32	H-1 覆土	石鍬	1.4	1.4	0.2	0.6	黑色安山岩			
41-E33	H-47 覆土	石鍬	1.7	1.3	0.3	0.5	黒曜石		1	
41-E34	H-69 覆土	石鍬	2.2	1.8	0.6	1.8	黒曜石			
41-E35	J-2 覆土	石鍬	2.0	1.7	0.2	0.6	黒曜石		442	

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出。「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。

②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重きの単位はgである。現存地を()で示した。

Tab.8 鉄器・鉄製品観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存度	登録番号	備考
41-鉄1	H-11 覆土	釺	12.0	2.4	0.5	34.4	完形	28	
41-鉄2	H-37 覆土	刀子	12.7	1.2	0.9	22.4	ほぼ完形		
41-鉄3	H-38 覆土	刀子	(16.0)	1.3	0.3	28.2	2/3	58	
41-鉄4	H-39 覆土	刀子	14.5	1.4	0.5	28.2	3/4	5	
41-鉄5	H-39 覆土	結縫車	(5.5)	(4.7)	0.3	28.4	3/4		
41-鉄6	H-43 覆土	刀子	(11.3)	1.3	0.4	23.4	1/3	18	
41-鉄7	H-45 床直	釺	(13.3)	1.0	0.8	35.6	3/4	227	
41-鉄8	H-45 床直	鐵鏟	17.0	2.5	0.4	23.4	ほぼ完形	161	
41-鉄9	H-47 覆土	帶鉗具	5.8	4.2	0.5	28.2	ほぼ完形	29	
41-鉄10	H-59 床直	鐵鏟	10.0	4.0	0.4	29.7	ほぼ完形	1	
41-鉄11	H-65 覆土	結縫車	3.9	3.9	0.3	25.6	完形	67	
41-鉄12	H-65 覆土	結縫車	12.2	0.4	0.4	17.0	完形		
41-鉄13	H-71	刀子	12.0	0.8	0.3	8.2	完形	28	
41-鉄14	グリッド	刀子	(11.0)	1.1	0.3	23.8	破片		
41-鉄15	グリッド	不明	(6.2)	(4.0)	0.6	30.8	破片		
41-鉄16	表探	鐵鉗	9.5	(2.5)	0.5	19.5	2/3		

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出。「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。

②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重きの単位はgである。現存地を()で示した。

Tab.9 土製品観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺存度	登録番号	備考
41-土1	H-54 覆土	羽口	(8.8)	(7.5)	(3.8)	155.0	1/3		
41-土2	H-54 底直	羽口	(10.5)	(6.3)	(2.4)	160.0	1/4	276	
41-土3	H-54 覆土	羽口	(7.5)	(4.6)	(4.4)	75.0	1/5		
41-土4	J-2 覆土	土製円盤	2.8	2.4	0.6	0.6	ほぼ完形		
41-土5	X48Y143	耳飾り	2.8	2.8	2.3	17.6	ほぼ完形		
41-土6	表探	土偶	(5.7)	(3.5)	0.9	16.8	破片		

Tab.10 瓦観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①長さ(cm) ②厚さ(cm)	③地 ④色調 ⑤保存度	⑥地 ⑦縁成 ⑧地調 ⑨保存度	器種の特徴・形態・調整技術	登録番号	備考
41-瓦1	H-9 窓内	軒丸瓦	①(15.8) ②(1.8)	①— ②— ③赤い光沢 ④1/3	種倣作り。四面に布目あり。凸面撫で、側面面取り1回。電機架材に使用。	33		
41-瓦2	H-9 窓内	丸瓦	①(38.6) ②(1.7)	①— ②— ③赤黄 ④ほぼ完形	種倣作り。四面に布目、横骨板あり。凸面撫で、側面面取り2回。電機架材として使用。	39		
41-瓦3	H-9 窓内	丸瓦	①(41.3) ②(1.5)	①— ②— ③赤 ④1/3形	一枚作り。四面に布目あり。凸面撫で、叩き底あり。側面面取り2回。電機架材に使用。	40		
41-瓦4	H-9 床直	平瓦	①(29.0) ②(2.0)	①— ②— ③赤い光沢 ④ほぼ完形	種倣作り。四面に布目、横骨板あり。凸面面取り2回。電機架材として使用。	32		
41-瓦5	H-18 窓内	丸瓦	①(21.2) ②(2.0)	①— ②— ③赤 ④1/2	種倣作り。四面に布目、粗筋板あり。凸面撫で。側面面取り2回。電機架材として使用。	39		
41-瓦6	H-23 床直	平瓦	①(19.5) ②(2.3)	①— ②— ③赤 ④破片	一枚作り。四面に布目あり。凸面撫で、裏書きで「手」と墨される跡有り。	49		
41-瓦7	H-42 床直	丸瓦	①(29.1) ②(1.9)	①— ②— ③暗オーリーブ灰 ④完形	種倣作り。四面に布目あり。凸面撫で。側面面取り3回。窓内側の芯線が見られる。	172		
41-瓦8	H-44 窓内	平瓦	①(12.5) ②(2.4)	①中粒 ②赤 ③赤	種倣作り。四面に布目、横骨板あり。側面面取り2回。電機架材として使用。	142		
41-瓦9	H-44 窓内	平瓦	①(15.5) ②(2.8)	①中粒 ②赤 ③赤 ④黄鶴 ⑤1/3	一枚作り。四面に布目あり。凸面撫で、叩き底あり。側面面取り2回。電機架材に使用。	43		
41-瓦10	H-44 窓内	平瓦	①(17.8) ②(2.1)	①細粒 ②良好 ③赤 ④1/3	種倣作り。四面に布目あり。凸部一部腰り消し撫で、叩き底あり。側面面取り2回。電機架材として使用。	141		
41-瓦11	H-54 床直	軒丸瓦	①(12.5) ②(3.2)	①細粒 ②良好 ③赤	五葉單弁瀬葉文。四面に布目あり。凸面撫で。二葉のコ文あり。	89		
41-瓦12	H-54 床直	軒丸瓦	①(15.8) ②(2.5)	①細粒 ②良好 ③赤黄 ④1/3	五葉單弁瀬葉文。四面に布目あり。凸面撫で。二葉のコ文あり。文様を書す跡認めるやや薄な感じ。	213		
41-瓦13	H-69 床直	平瓦	①(12.3) ②(2.6)	①細粒 ②良好 ③赤	一枚作り。四面に布目あり。凸面撫で、叩き底あり。裏書きで、「山字」の刻書きあり。側面面取り2回。	109		
41-瓦14	X46Y142	丸瓦	①(6.4) ②(1.6)	①細粒 ②良好 ③赤 ④破片	種倣作り。四面に布目あり。凸面叩き底あり。側面面取り2回。電機架材として使用。	6		
41-瓦15	X55Y146	軒丸瓦	①(11.8) ②(2.5)	①細粒 ②良好 ③赤	単弓八舟瀬葉文。四面裏撫で。凸面撫で。			
41-瓦16	X56Y145	軒平瓦	①(14.5) ②(2.0)	①細粒 ②良好 ③赤	四面撫で。凸面撫で。右の肩により復元文様あり。			
41-瓦17	X56Y149	平瓦	①(16.5) ②(2.3)	①細粒 ②良好 ③赤 ④1/3 ⑤良好 ⑥破片	一枚作り。四面に布目あり。凸面撫で、粗筋板あり。裏書きで、カタカナの〔ナ〕に近似する別書きあり。側面面取り3回。			

注) ①層位は、「床直」:床面より10cm以内の層位から検出。「覆土」:床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。窓内の横出については「窓内」と記載した。

②寸法、器種の単位はcmである。現存地を()、復原地を〔 〕で示した。

③地土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な物質が入る場合に粗粒等を記載した。

④縁成は、楕円、良好、平良の三段階とした。

VI まとめ

本年度調査を実施した元總社蒼海遺跡群（41）及び（43）における主な遺構・遺物の検出成果としては、縄文時代から奈良・平安時代にかけて連續と続いてきた集落跡であったことが第一に挙げられる。個別の遺構や遺物に目を向けると、（41）・（43）両遺跡で、他の住居跡と比較して明らかに規模の大きい竪穴住居跡が検出されている。また、（41）では鍛冶工房跡が検出された。遺物としては、金の付着した灰釉陶器、墨書き土器や刻畫土器、奈良三彩といった貴重な品々が出土している。本章ではまとめとして、これらの事項について記述する。

1 縄文時代の竪穴住居跡について

本遺跡地での調査開始当初、表土掘削時にも表層から多くの縄文土器片が出土したが、これについては縄文時代包含層の土器や石器が耕作によって移動したものと思われる。また、遺構確認作業時に縄文土器片の出土が顕著だった場所については、4m四方のグリッド単位で精査を行ったが、遺構は検出されずその結果として、調査区中央部を縄文土器の包含層として位置づけた。最終的に縄文時代の遺構としては、元總社蒼海遺跡群（41）において、竪穴住居跡2軒、土坑1基を検出するにとどまっている。遺構の時期は、出土遺物などから両住居跡共に諸畿式期と考えられる。検出された場所は、調査区の東側に集中している。これは、調査区内の遺構確認面が西から東に向かってやや傾斜していることから、辛うじて検出できたと思われる。遺構の残存状況は、他の時代の遺構とも激しく重複していることもあり、良好ではない。J-1号住居跡、J-2号住居跡とともに、明確な壁面の検出には至らず、特にJ-2号住居跡については、床面、南東から東面にかけて壁面の一部、炉の痕跡の検出にとどまっている。本遺跡周辺でも、西に隣接する南北方向の道路部分が、元總社蒼海遺跡群・元總社小見遺跡の7区に該当し、縄文時代の竪穴住居跡1軒が検出されているが、壁高0.25mと残存状況は芳しくない。しかしながら、出土遺物については特筆すべき点が挙げられる。J-2号住居跡から前期後半に属する有孔浅鉢の口縁部片がまとめて出土した。接合の結果、口縁部についてはほぼ復元でき、直径が70cmを超える大型の土器である事が判明した。（巻頭図版5 参照）また、口縁部には補修された有孔も認められ、重要な土器としての位置付けがなされていたことが窺える。

2 竪穴住居跡について

元總社蒼海遺跡群（41）では69軒、元總社蒼海遺跡群（43）では4軒の検出を見た。時期別では以下のとおりである。

遺跡名	6世紀	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	時期不明
蒼海（41）	7	5	26	15	12	4
蒼海（43）			2	1	1	

ここでは、各時代の遺構分布と特徴的な住居跡について記述する。

（1） 遺構の分布について

今回の2遺跡のうち、面的な調査が行えた元總社蒼海遺跡群（41）を基に遺構分布について述べる。全体を見渡すと奈良・平安時代の住居跡が大半を占め、本遺跡地では奈良・平安時代において活発に生活の営みがなされていたと言えるであろう。中でも8世紀代の住居跡が最も多く、調査区東半分に集中して検出されている。また、重複が激しいことも特徴の一つと言える。場所によっては3軒ないし4軒の住居跡が重複しており、人の動きが

感じ取れる。この地が上野国府推定域や上野国分尼寺に近接していることが、大きく影響しているものと考えられる。9世紀代に入ると軒数はやや減少するものの、やはり調査区東半分で多く検出されている。10世紀代になるとその分布は、東半分での検出傾向は強いものの、やや広がりを見せ調査区全体に及ぶようになる。

統いて、国府成立前の時代に目を向けてみると。本遺跡では6世紀代の住居跡が7軒検出された。そのほとんどが調査区西側に集中していた。また、検出された住居の主軸方向が、真北から50°前後東に傾くという傾向が見られた。7世紀代では、検出軒数が最も少なく5軒となりほぼ調査区中央部に集中していた。このことから、時代が新しくなるにつれ、集落範囲が西から東に移っていたと考えられる。

(2) 特徴的な住居跡について

両遺跡からは、他の住居跡と比較して明らかに規模の大きい住居跡が1軒ずつ検出された。元總社蒼海遺跡群(41)では、一辺が約7.5mのH-56号住居跡、元總社蒼海遺跡群(43)では、一辺が約9mにも及ぶH-1号住居跡である。時期は、前者が6世紀代、後者が8世紀代となる。このH-1号住居跡は、両遺跡の中で最大規模のものであり、遺構上部は後世の影響を受け削平されていたが、周溝が巡る堅緻な床面、四隅の柱穴、加工された石材を用いた竈など住居の規模に見合うものである。さらに、H-1号住居跡からは、過去の上野国府推定域周辺で行われた発掘調査で出土したものと酷似した須恵器の盤が出土した。住居の規模やそれに伴う出土遺物など考慮すると、H-1号住居跡は、他の住居跡とは同等の位置づけとは考えにくいのではないかと思われる。

統いて元總社蒼海遺跡群(41)で検出したH-22号住居跡について記述する。本遺構は、先述したH-56号住居跡と同時期の6世紀代に属すると考えられる。最も特徴的なことは、堅緻な床面が2面確認されたことである。1面目は、造り替えられた新しい床面で、さらにその下に当初のものと思われる古い床面が見つかった。この住居跡は、当初東側に竈をもつ北東方向に伸びる長方形を成していたが、その後北壁が1m程北側へ拡張し、やや正方形に近い形になったと考えられる。それに伴い、床面と併せて竈も北側に造り替えられたようである。

3 鍛冶工房跡について

元總社蒼海遺跡群(41)では鍛冶工房跡(H-54号鍛冶工房跡)が見つかった。時期としては9世紀後半に属すると考えられる。本遺構は、H-71号住居跡との重複や、後世の掘削による破壊も影響し残存状況は芳しくない。特に炉跡部分が、H-71号住居跡の竈と重なっていたこともあり、その全容は把握できなかった。しかしながら、本遺構からは吹子の羽口片や鍛冶工房跡を決定づける鉄塊や鍛造剣片などが多く出土している。また、本遺跡全体でも刀子を始めとする鉄製品が数多く出土している。本書には16点を図版として掲載した。本遺構と直接関連を持つものかどうかは不明であるが、そのうちの7点は時期的に近い住居跡から出土している。器種は、刀子、釘、鉄鏃、紡錘車と様々である。さらに、本遺構内で検出したビットは2基で、両ビットから鍛造剣片や鉄塊が出土した。共に廐棄用の穴として利用されたものと思われる。

1号ビットからは、鉄塊系遺物390g、流動滓170g、湯玉5g、鍛造剣片15g、鍛造剣片と砂鉄230gが出土した。2号ビットからは、鉄塊系遺物280g、流動滓100g、湯玉5g、鍛造剣片8g、鍛造剣片と砂鉄140gが出土した。覆土の遺物としては、椀型滓1,540g、鉄塊系遺物1,700g、流動滓1,300gが出土した。

4 特徴的な出土遺物

元總社蒼海遺跡群(41)では、金の付着した灰釉陶器や、墨書き器、刻書き器など貴重な遺物が出土した。ここでは、これらについて記述する。

金の付着した灰釉陶器については、H-34号住居跡から出土した。金の付着状況は、底部内面に金粉を散りばめたように同心円状の筋を成すように付着している。底部が最も密に付着し、外側に向かって付着状況は薄くな

る。

ところで、この付着物については、科学的な分析を行っている。エネルギー分散型蛍光X線分析装置により行い、当該付着物には金以外の元素が含まれていないとの結論を得た。しかしながら、H-34号住居跡は、残存状態が良好でなく当該遺構の性格を決定づけるには至っていない。のことから、金の付着した灰釉陶器の用途については、明確な結論を得ることはできなかった。ただ、金の付着の仕方や付着部位などを考慮すると、金箔が器内面を覆う金彩土器である可能性は考えにくい。参考に東日本における金の付着した土器を出土した遺跡分布図を掲載した。(田中広明 1997を改図)



1. 元總社蒼海遺跡群 (41) 2. 上野国分寺中間地域 3. 線貫遺跡 4. 中軸遺跡
5. 信濃國府推定地 6. 御所遺跡 7. 武藏國府跡 8. 上總國分寺周辺遺跡
9. 多賀城跡 10. 山王遺跡 11. 後田遺跡

金の付着した土器を出土した遺跡 (田中広明 1997を改図)

統いて「△」印の刻まれた刻書土器についてであるが、2点出土している。いずれも土師器坏に刻書されたもので、そのうち1点には、放射状及び螺旋状暗文を有するものであった。線刻は、焼成前になされたものと、焼成後になされたもの1点ずつである。「△」印については、呪符等に用いられる符号である「五芒星」にあたると考えられ、何らかの呪術的な祭祀に用いられたのではなかろうか。この五芒星は、陰陽道では「五行」と称され、「木・火・土・金・水」を象徴するものとされている。これを踏まえたうえで墨書き土器を見ると、出土した5点

のうち「土」1点、「水」1点、「金」1点の3点が含まれていた。出土遺構は、それぞれ別々ではあるが「☆」印の刻書土器との関連が想像できる。

5 おわりに

本遺跡地周辺は、縄文時代より現在に至るまで人々の生活が営まれてきた土地である。これまでも本遺跡地周辺の発掘調査は数多く行われており、これからも元総社蒼海土地区画整理事業に伴い発掘調査は継続して行われるが、今後は、今までの個々の調査成果を結びつけ、面的な研究を推進することにより、国府城及びその周辺部の土地利用解明に繋がることを期するものである。

〈引用参考文献〉

- 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編
『鳥羽遺跡 L・M・N・O区 一間越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第31集－』1990年
- 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（8）』1992年
- 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団編
『糸井宮前遺跡II 一間越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第14集－』1986年
- 田中広明　1997　「(6)金付着灰釉陶器」「中壇遺跡」財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
群馬県勢多郡大胡町教育委員会編　『横沢芳山遺跡・横沢大塚遺跡』2002年
- 群馬県教育委員会編　『群馬県出土の墨書・刻書土器集成（1）』1989年
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団編　『元総社蒼海遺跡群 元総社小見山遺跡』2000年
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団編　『元総社蒼海遺跡群 元総社小見山遺跡』2002年
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団編　『元総社蒼海遺跡群（13）』2008年
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団編　『元総社蒼海遺跡群（20）』2009年

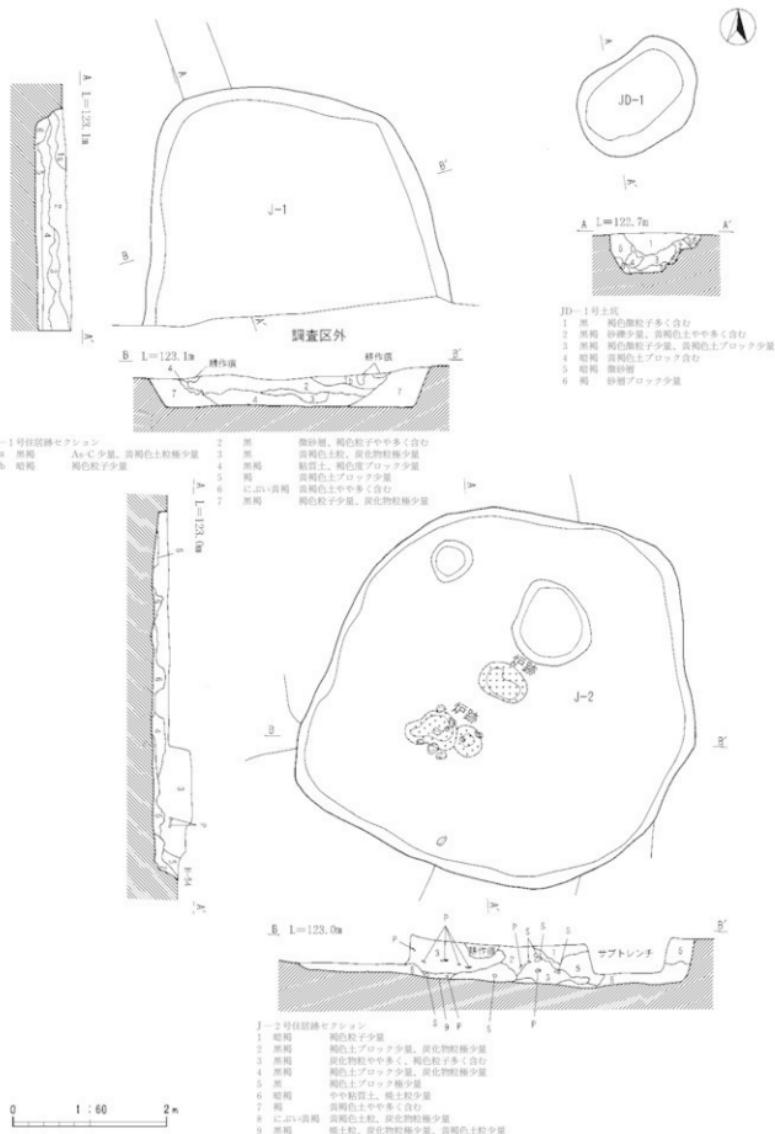


Fig. 7 (41) J-1・2号住居跡、JD-1号土坑

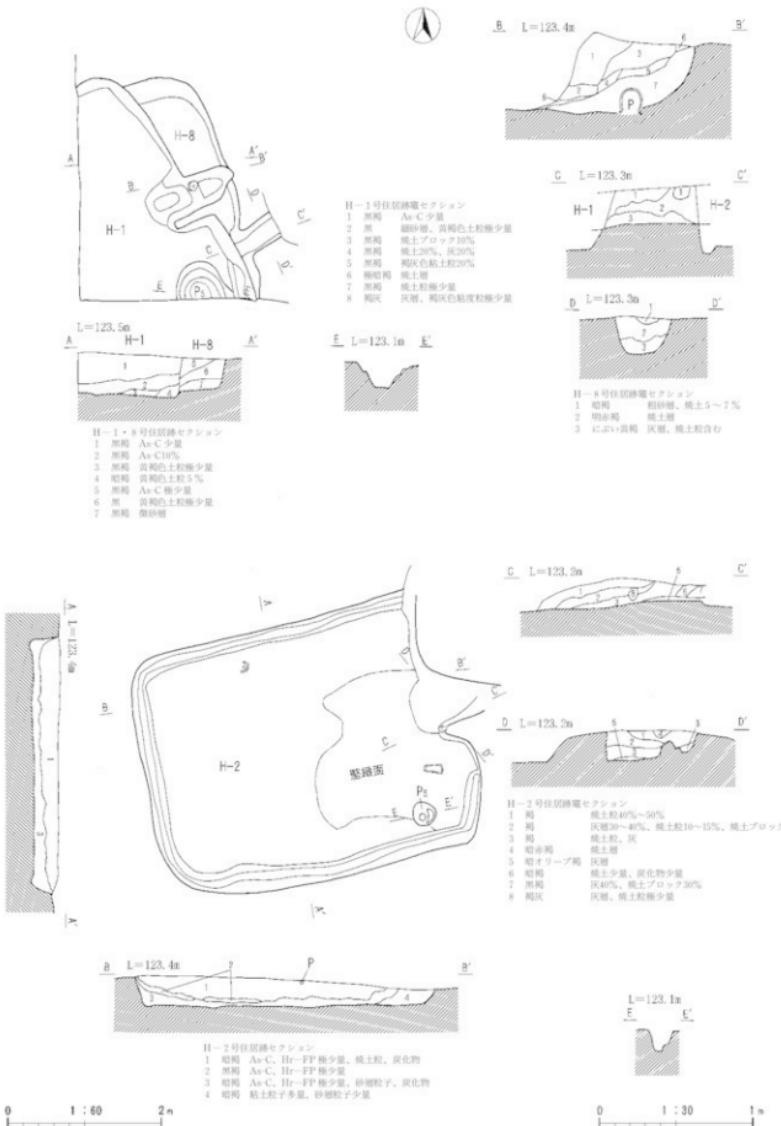


Fig. 8 (41) H-1・2・8号住居跡

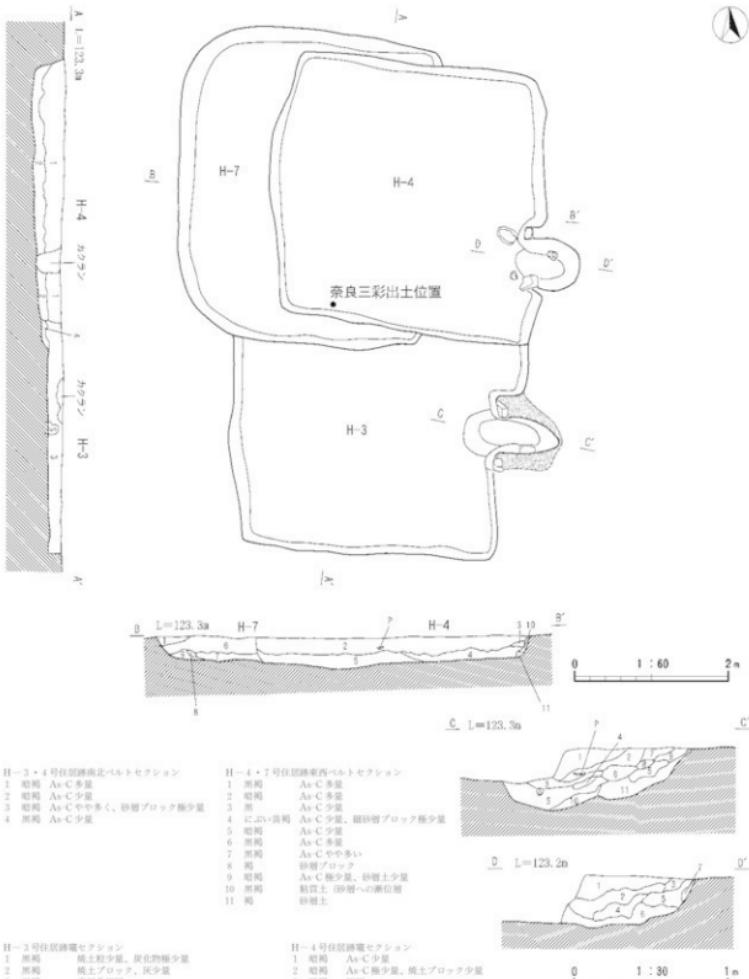


Fig. 9 (41) H-3・4・7号住居跡

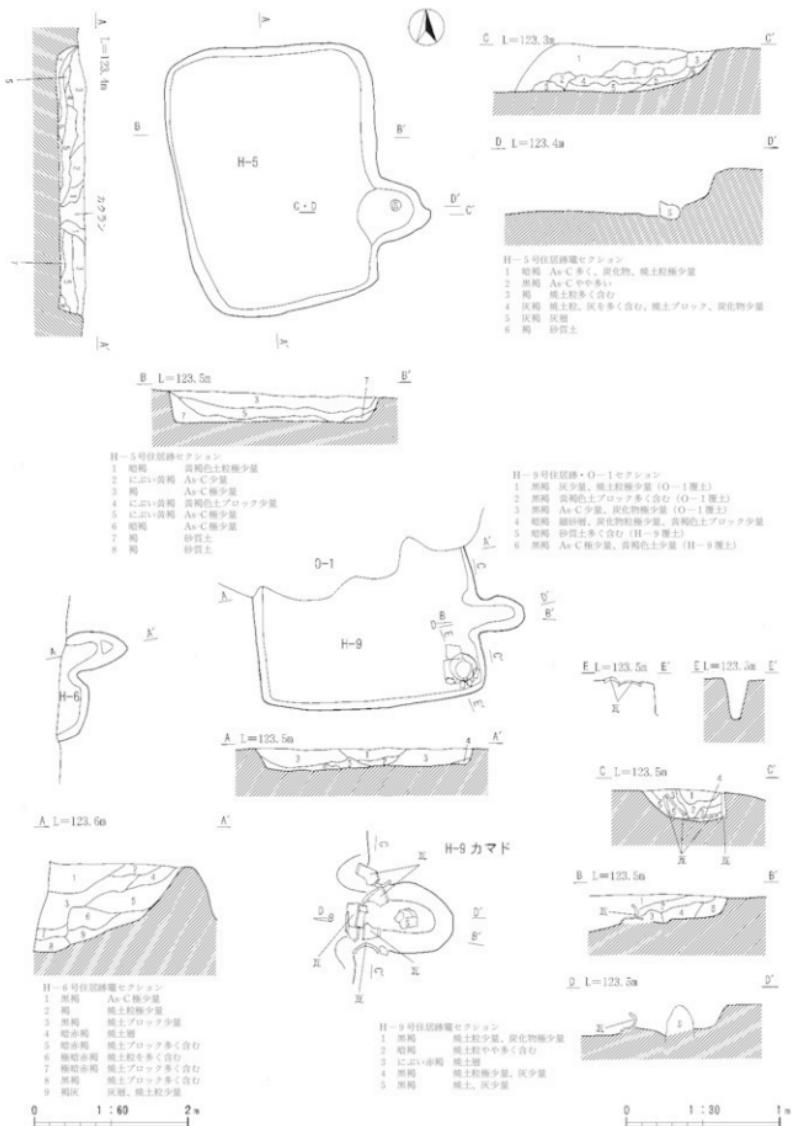


Fig. 10 (41) H-5・6・9号住居跡

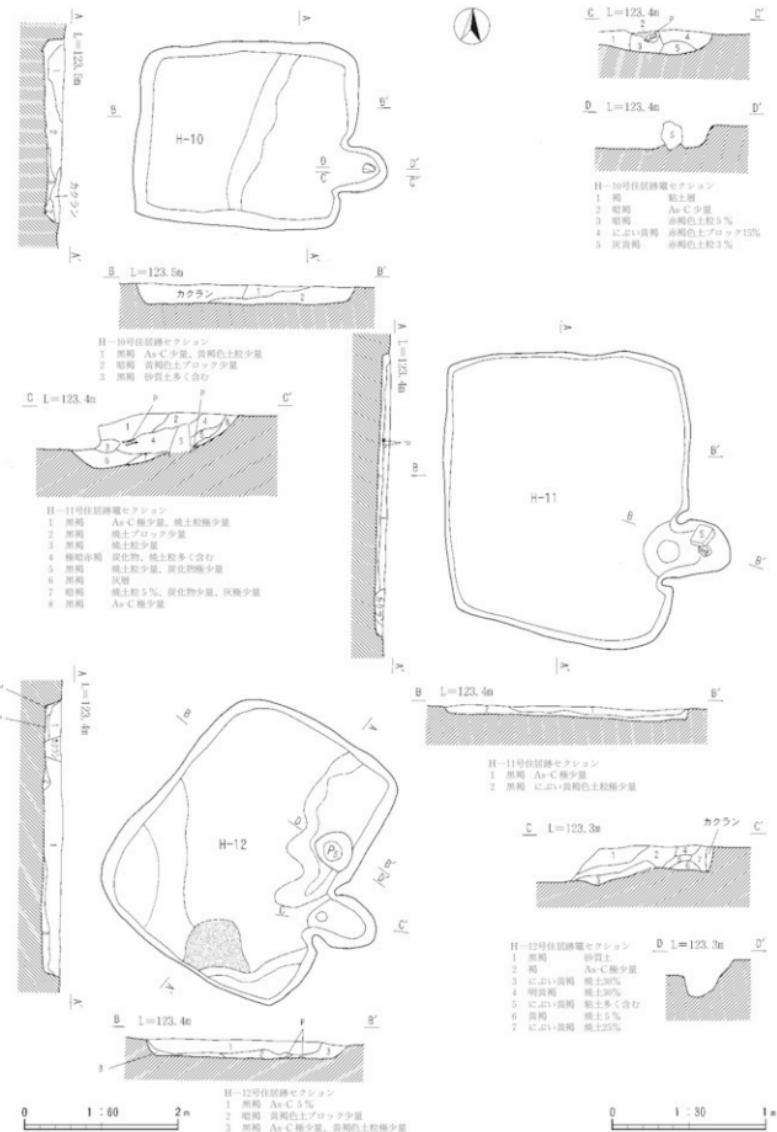


Fig. 11 (41) H-10・11・12号住居跡

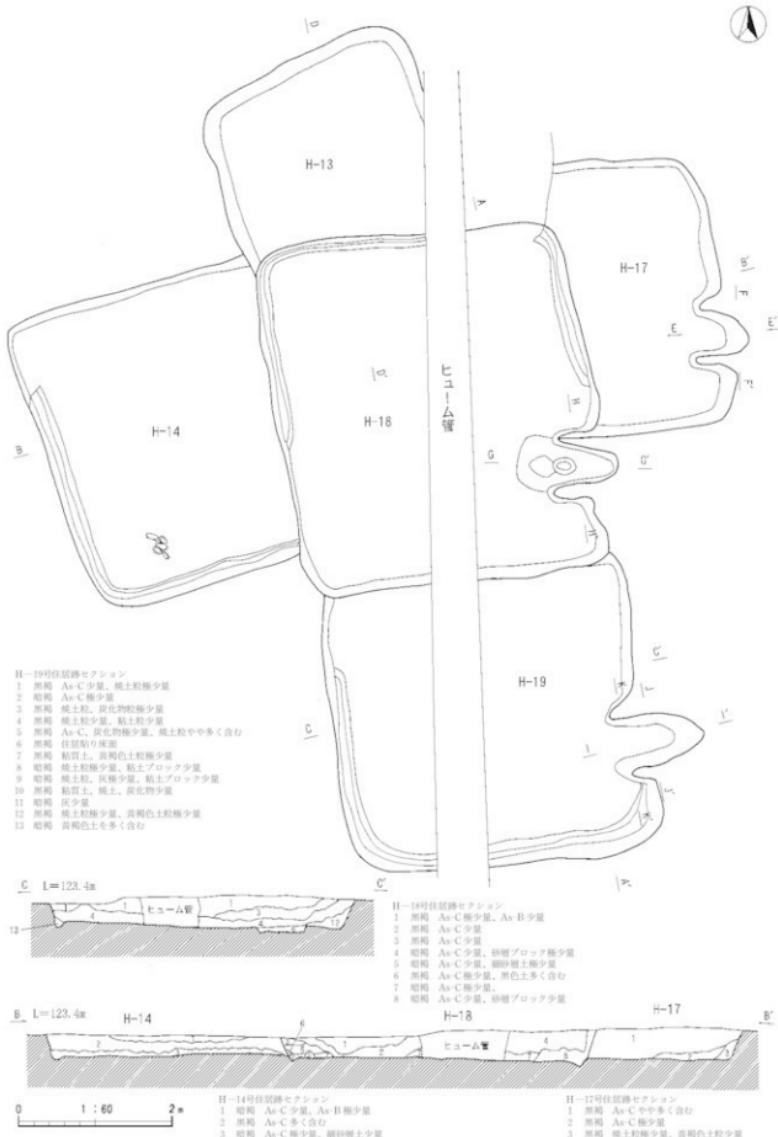


Fig. 12 (41) H-13・14・17・18・19号住居跡

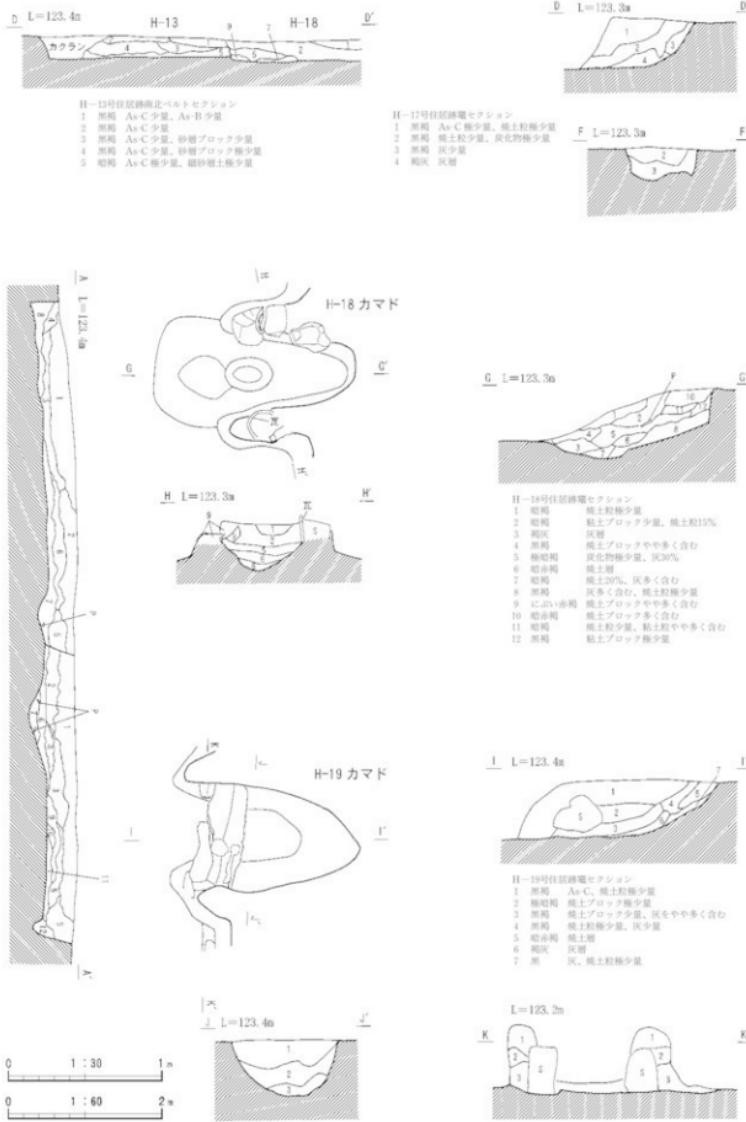


Fig. 13 (41) H-13・17・18・19号住居路

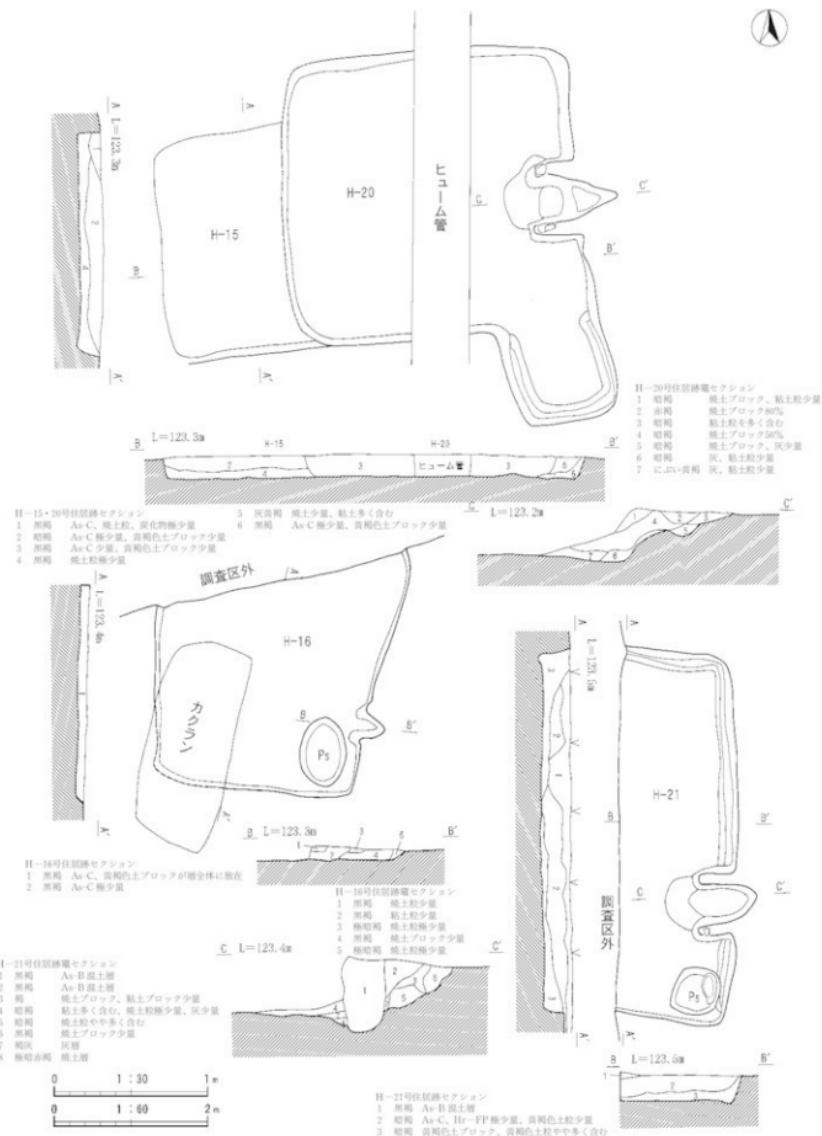
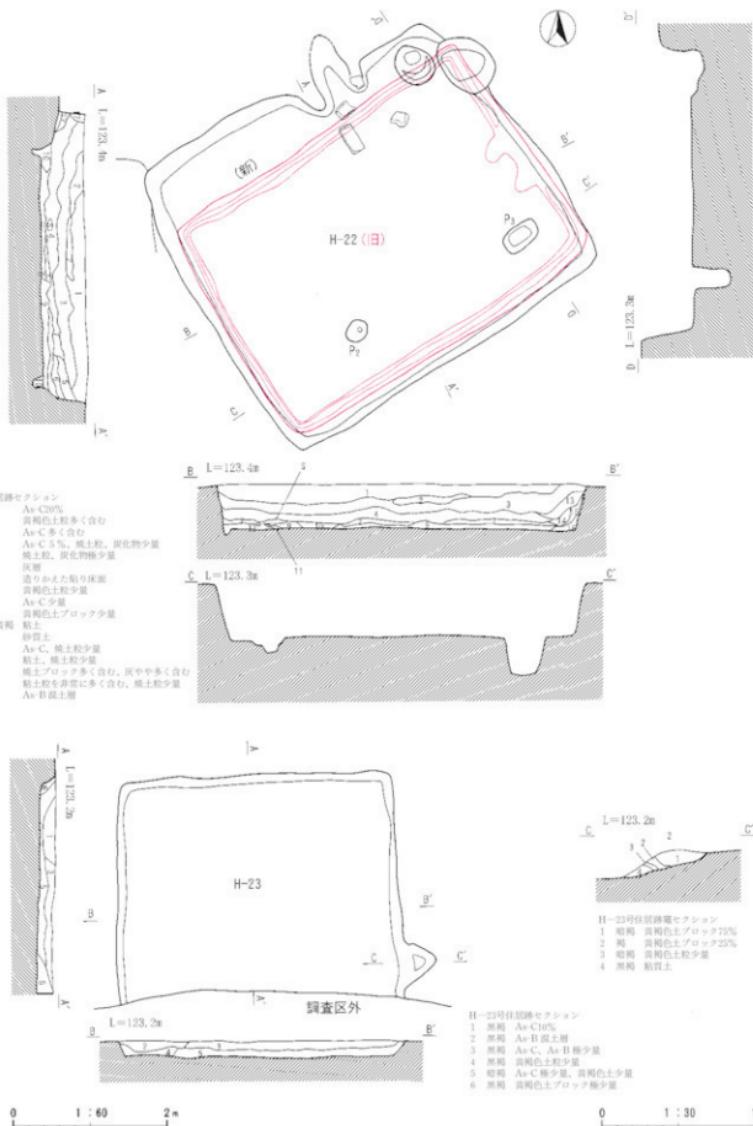


Fig. 14 (41) H-15·16·20·21号住居跡



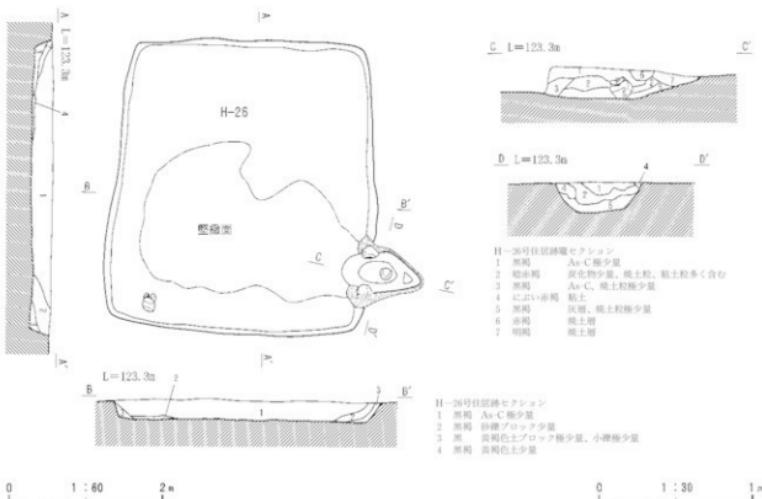
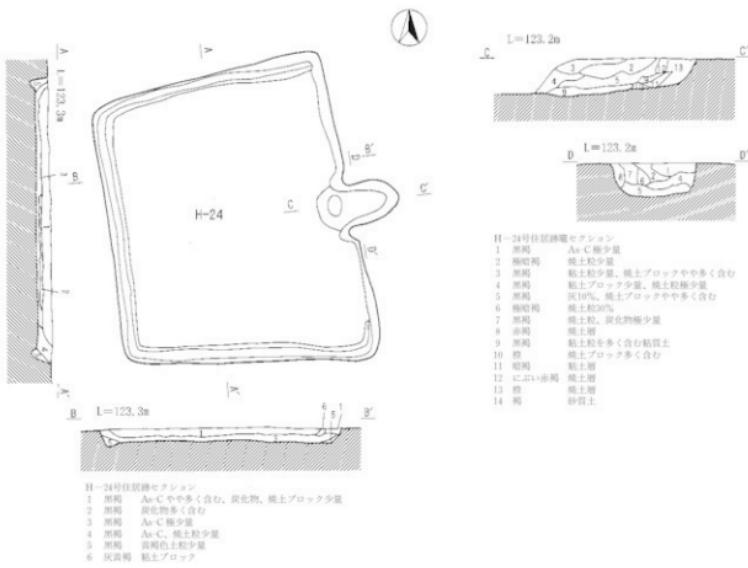


Fig. 16 (41) H-24・26号住居跡

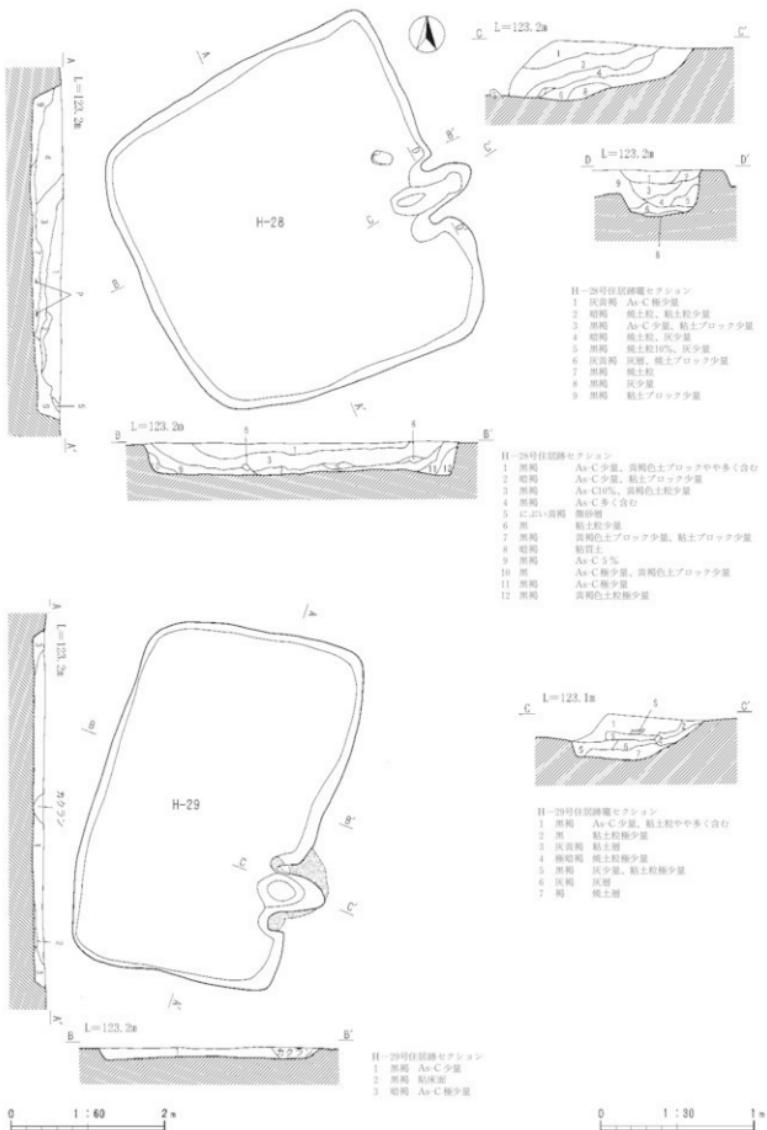


Fig. 17 (41) H-28・29号住居跡

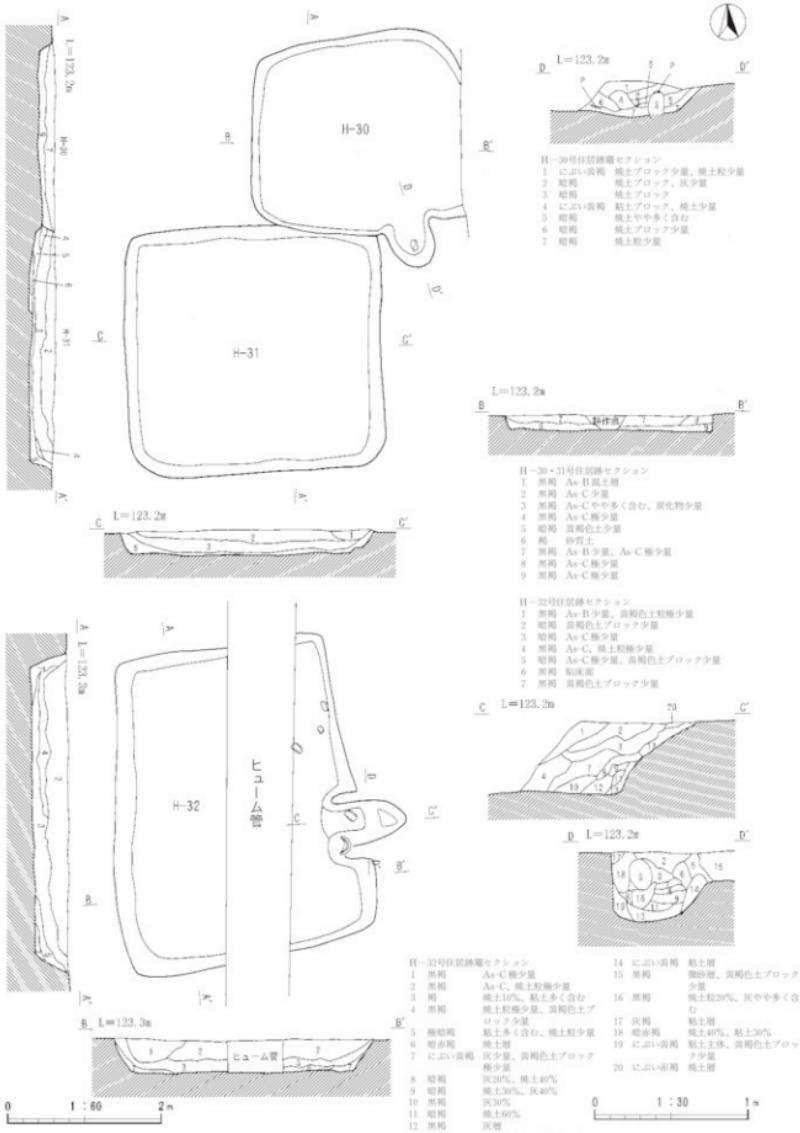


Fig. 18. (41) H=30, 31, 32号住居跡

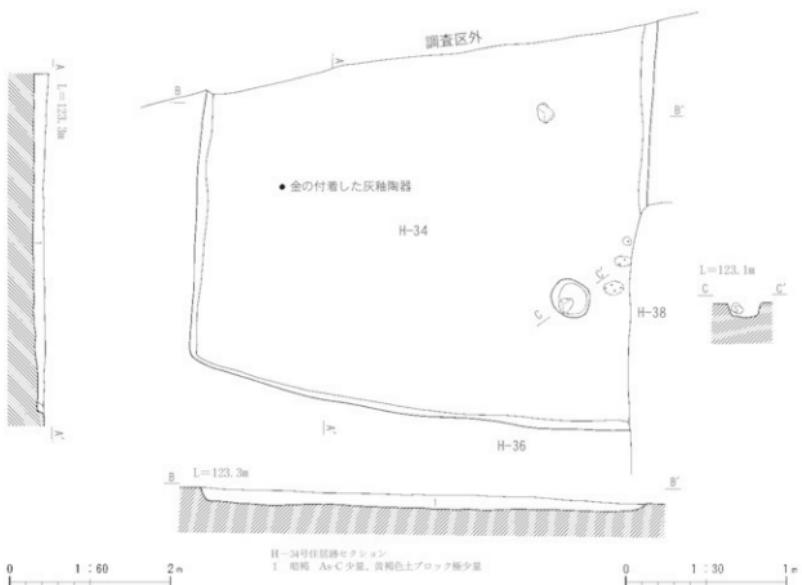
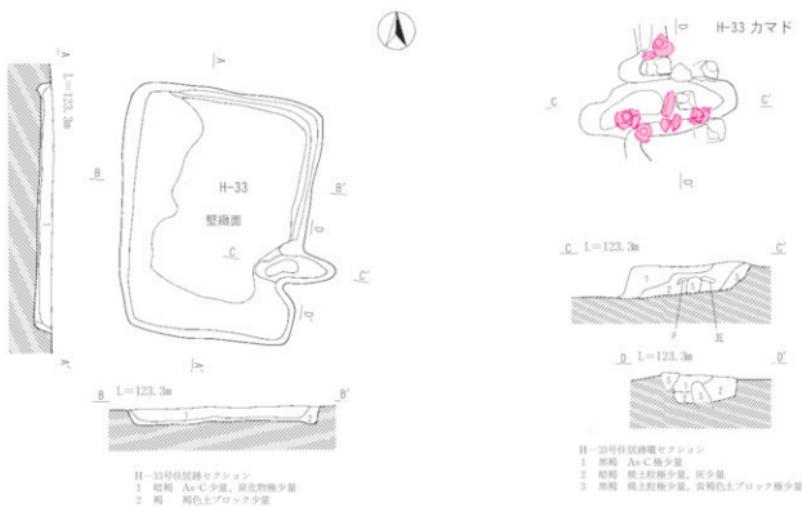


Fig. 19 (41) H-33・34号住居跡

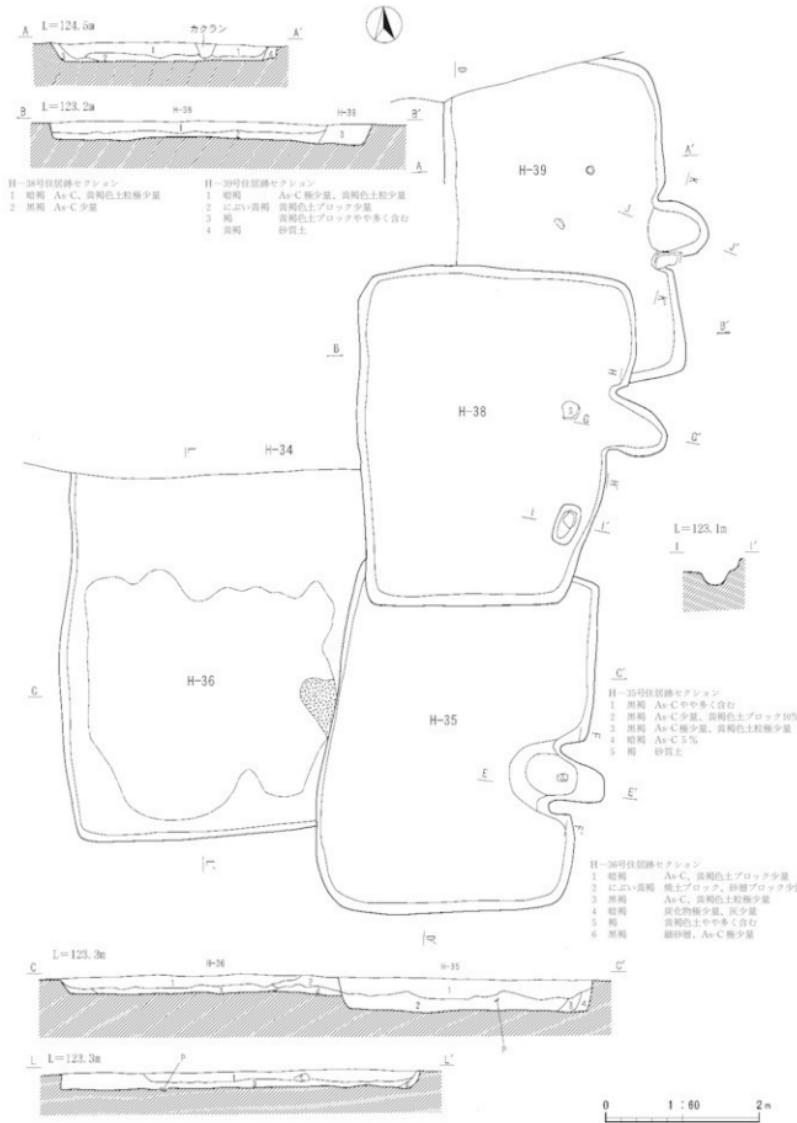


Fig. 20 (41) H-35・36・38・39号住居跡

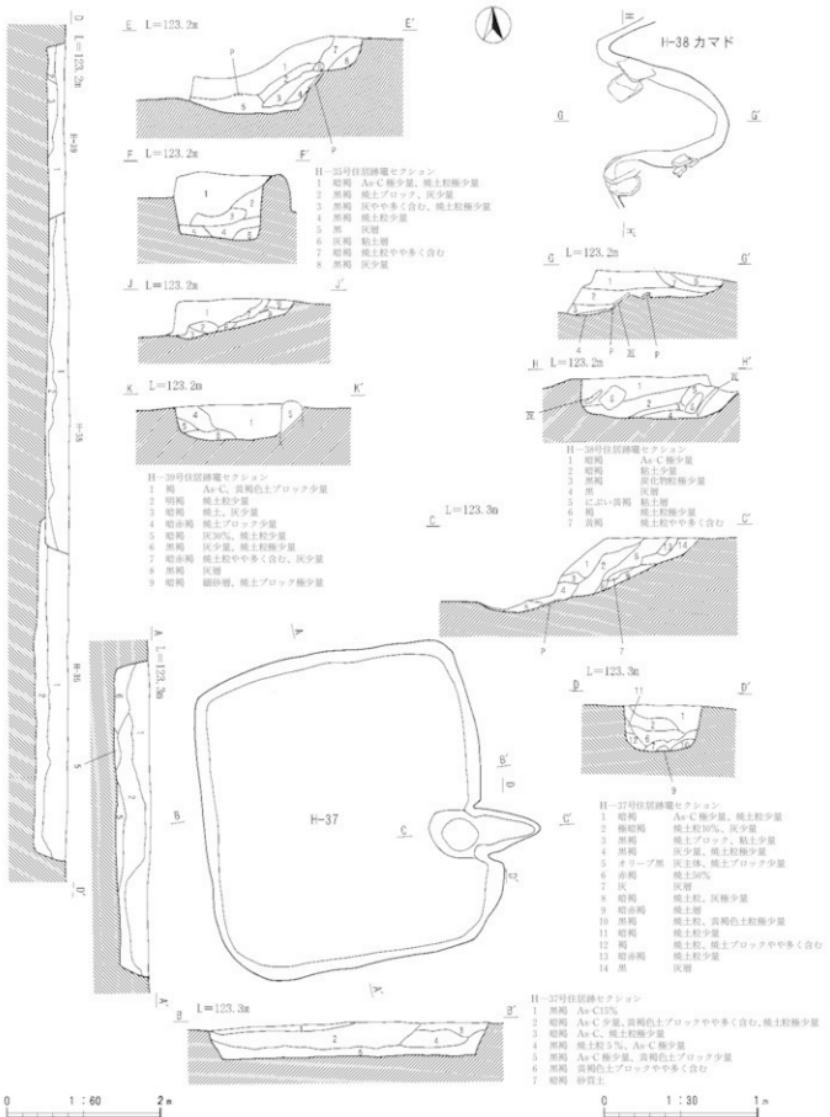


Fig. 21 (41) H-35・37・38・39号住居跡

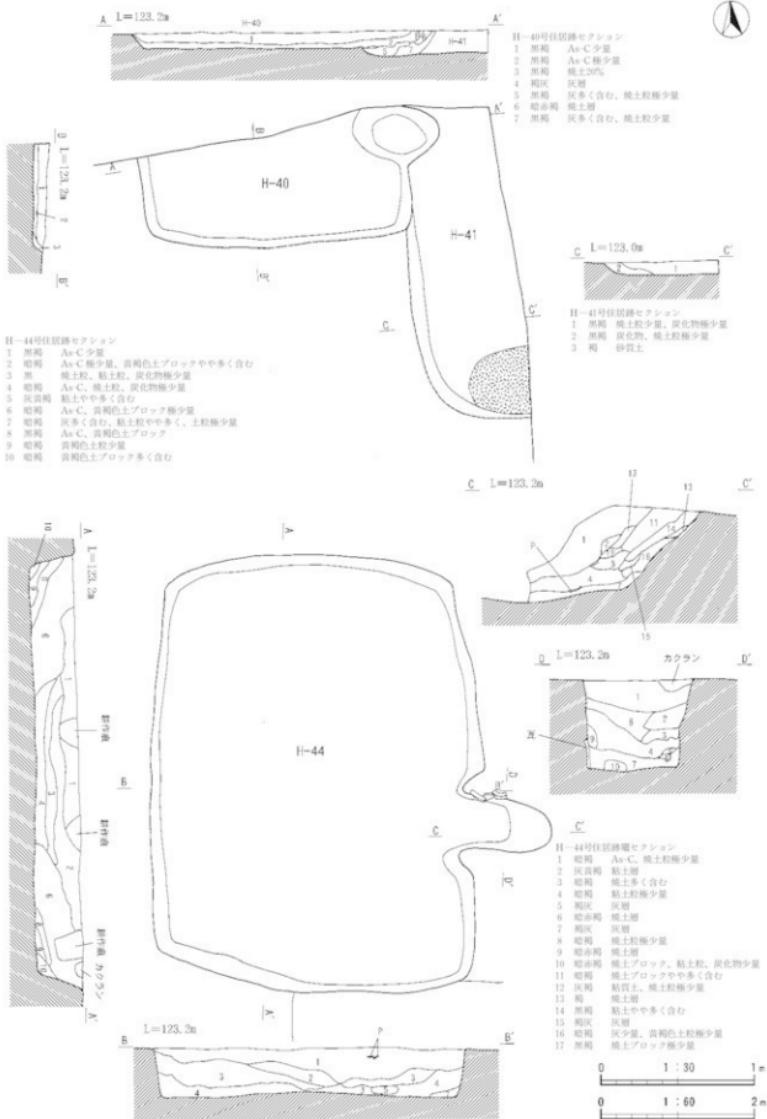


Fig. 22 (41) H-40・41・44号住居跡

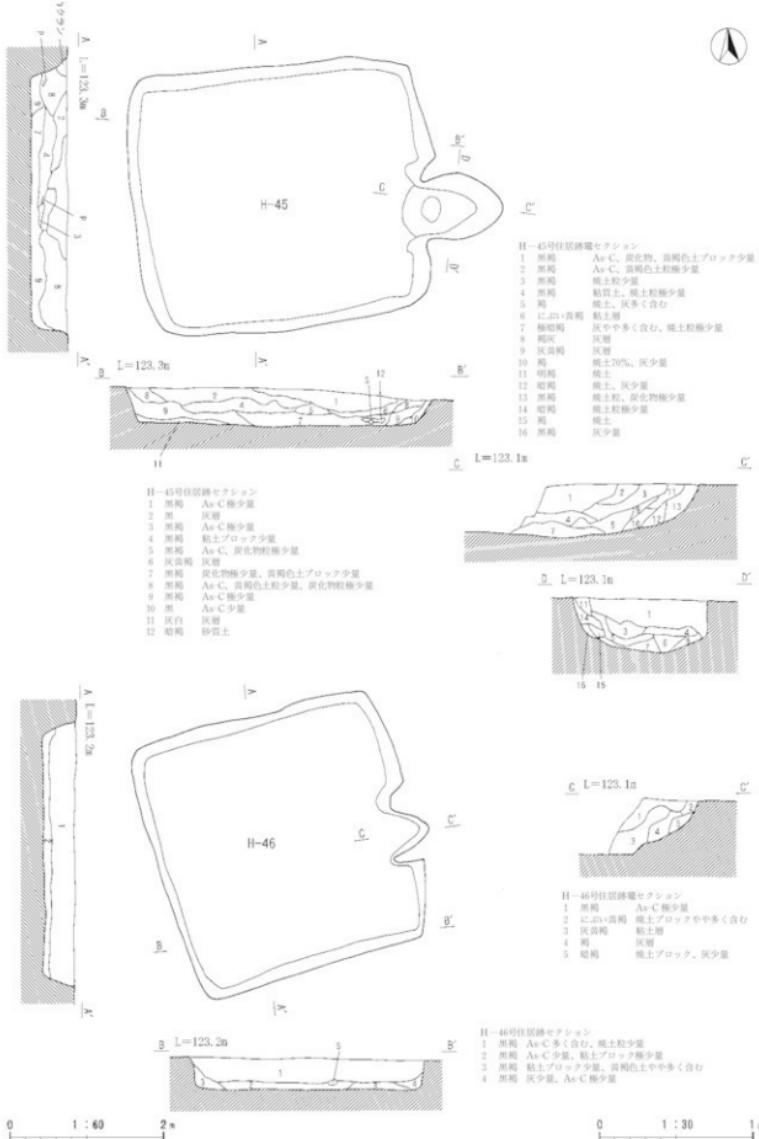


Fig. 23 (41) H-45・46号住居跡

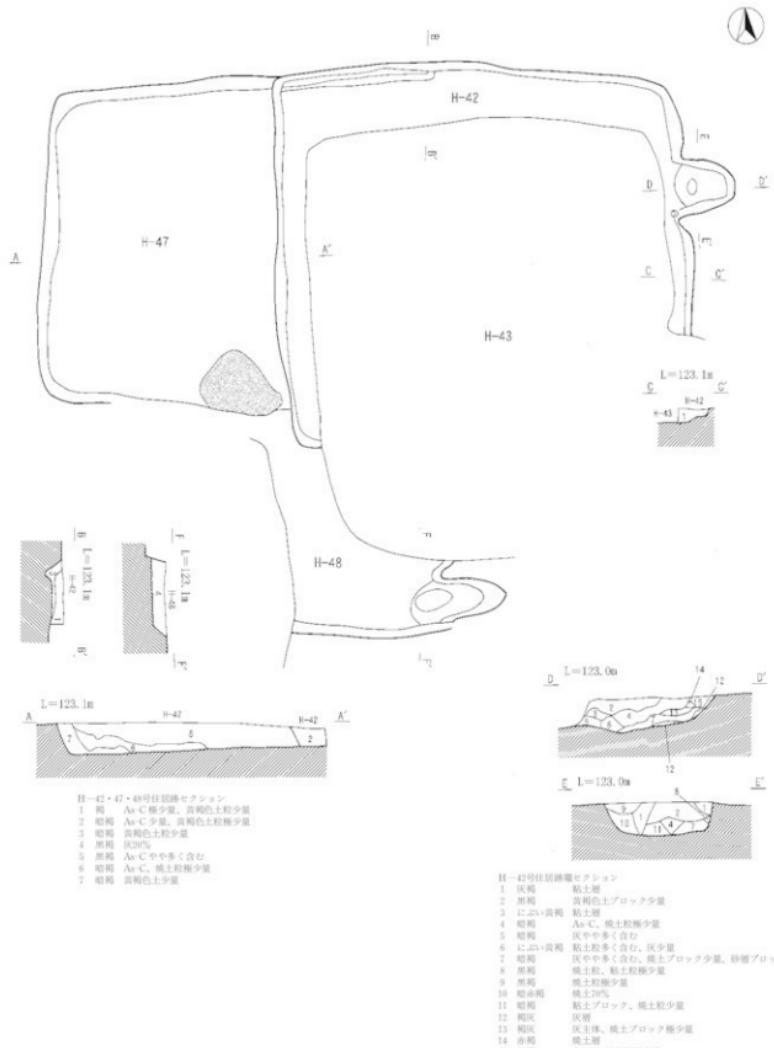


Fig. 24 (41) H-42・47・48号住居跡

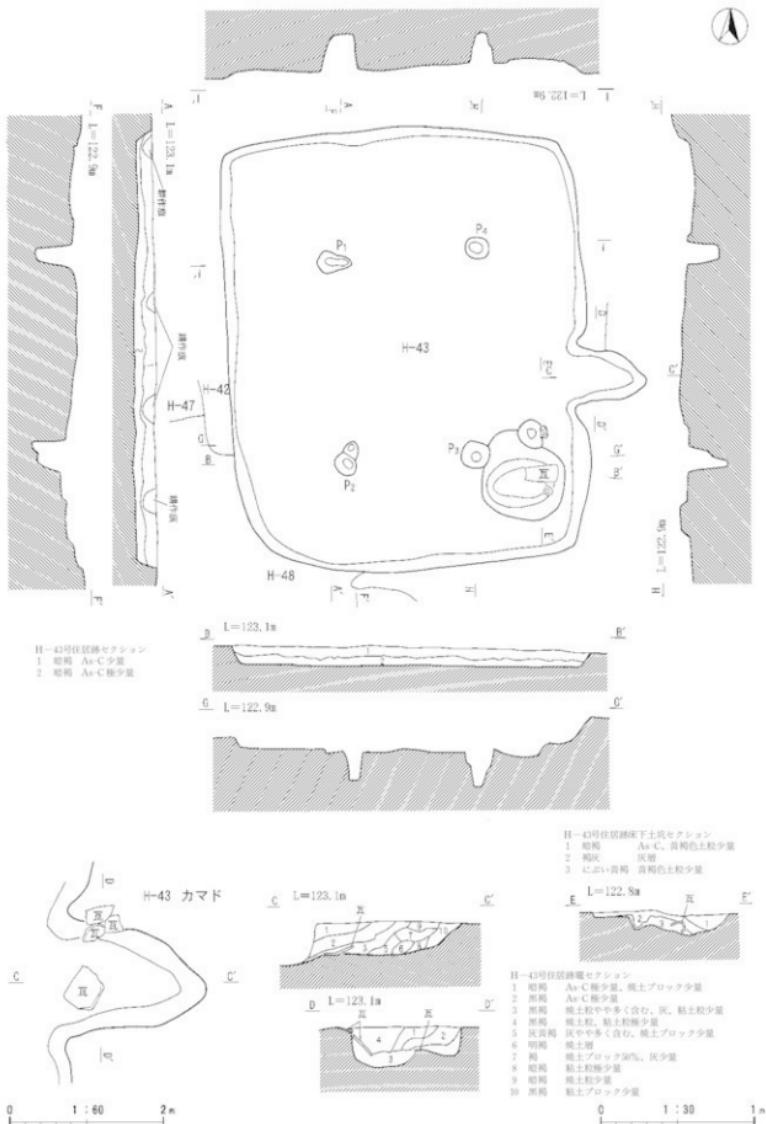


Fig. 25 (41) H-43号住居跡

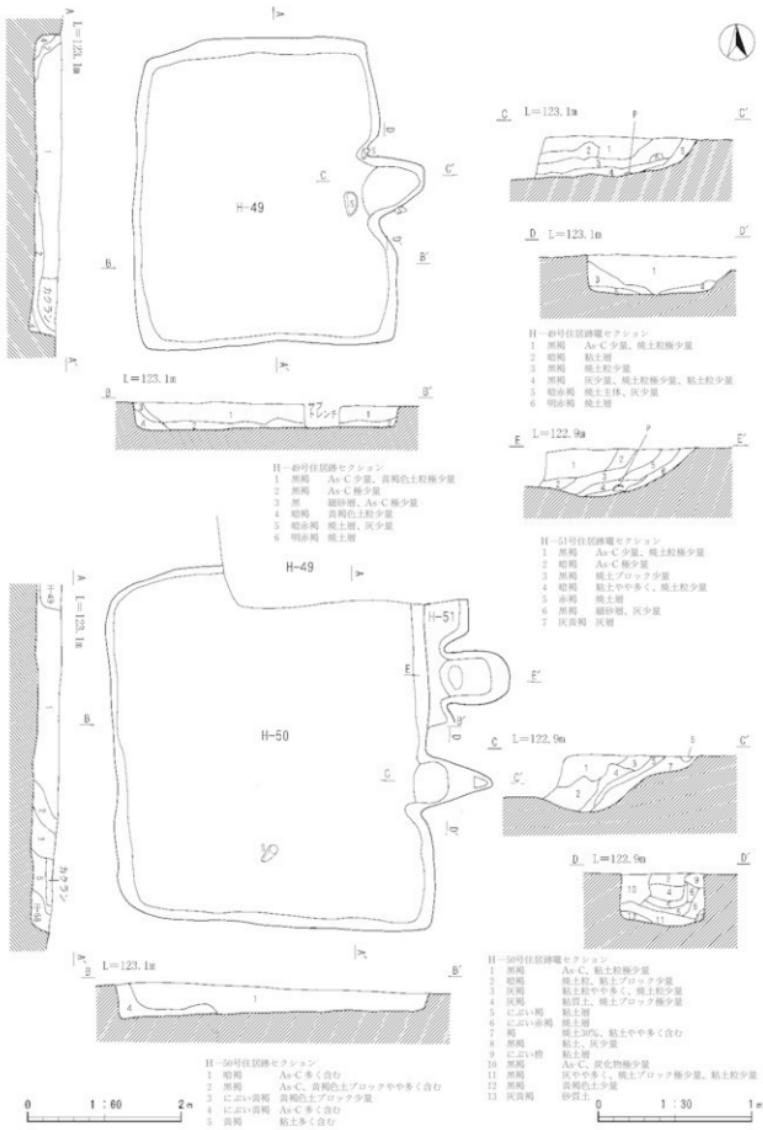


Fig. 26 (41) H-49・50・51号住居跡

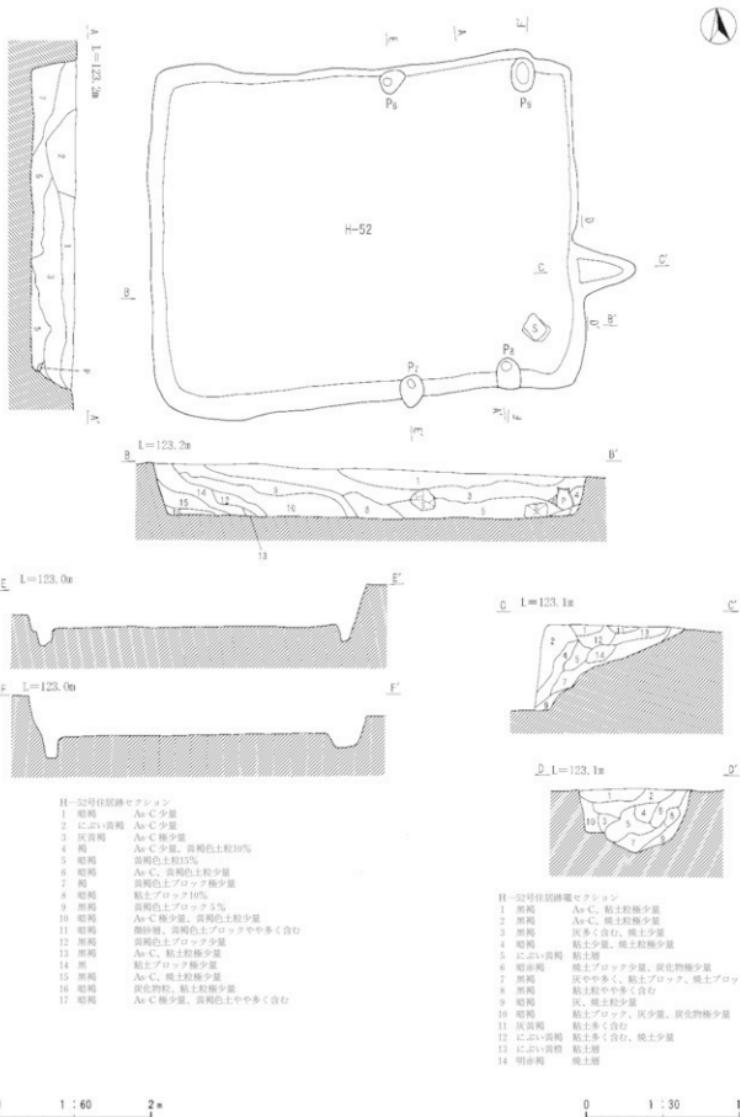


Fig. 27 (41) H-52号住居跡

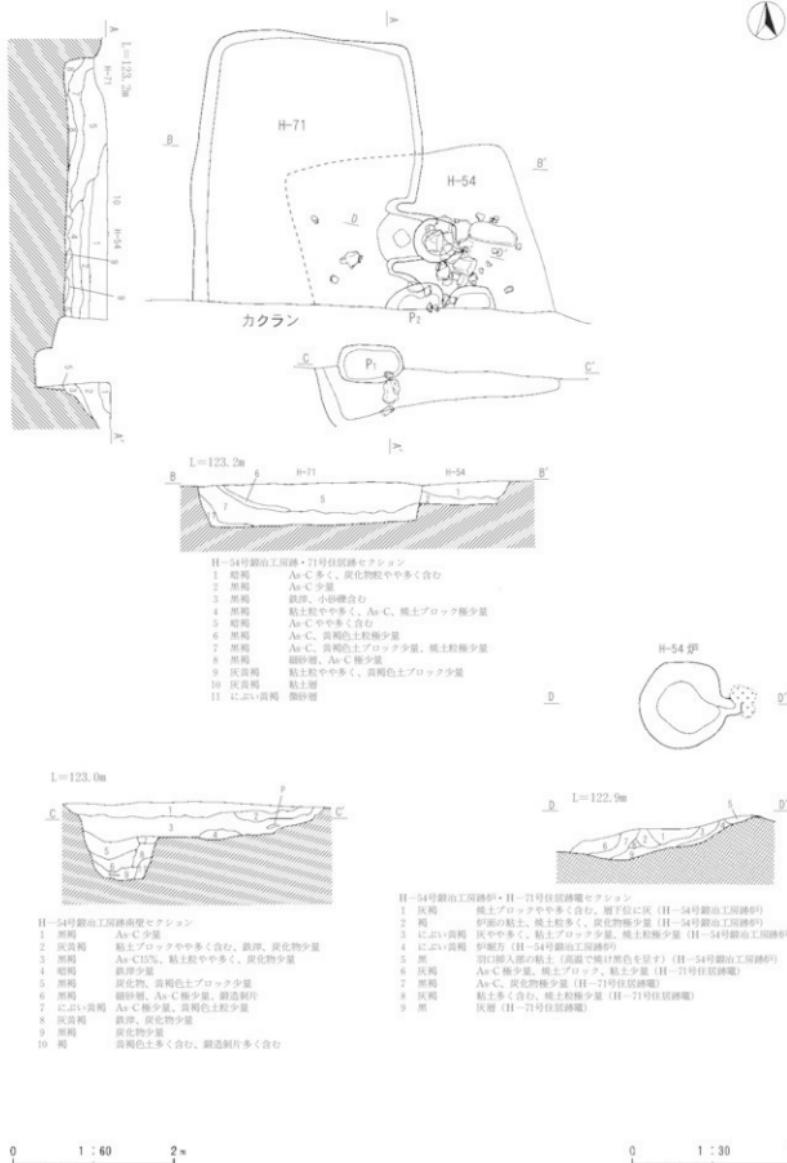


Fig. 28 (41) H-54号鍛冶工房跡、H-71号住居跡

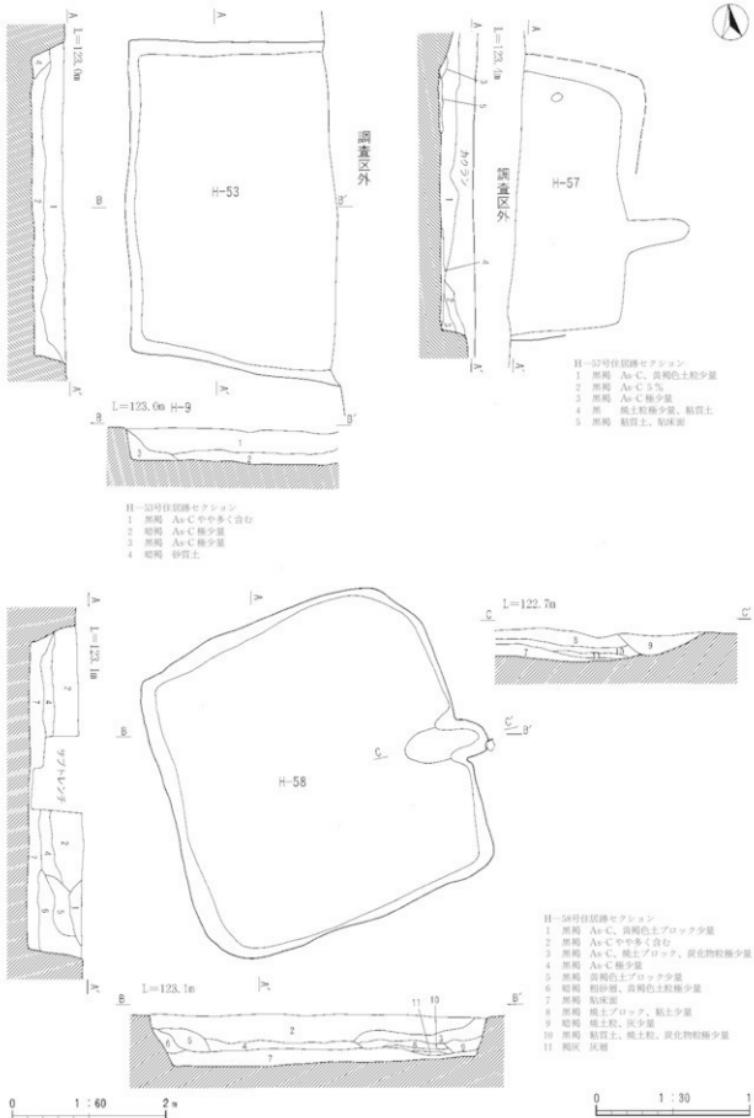


Fig. 29 (41) H-53・57・58号住居跡

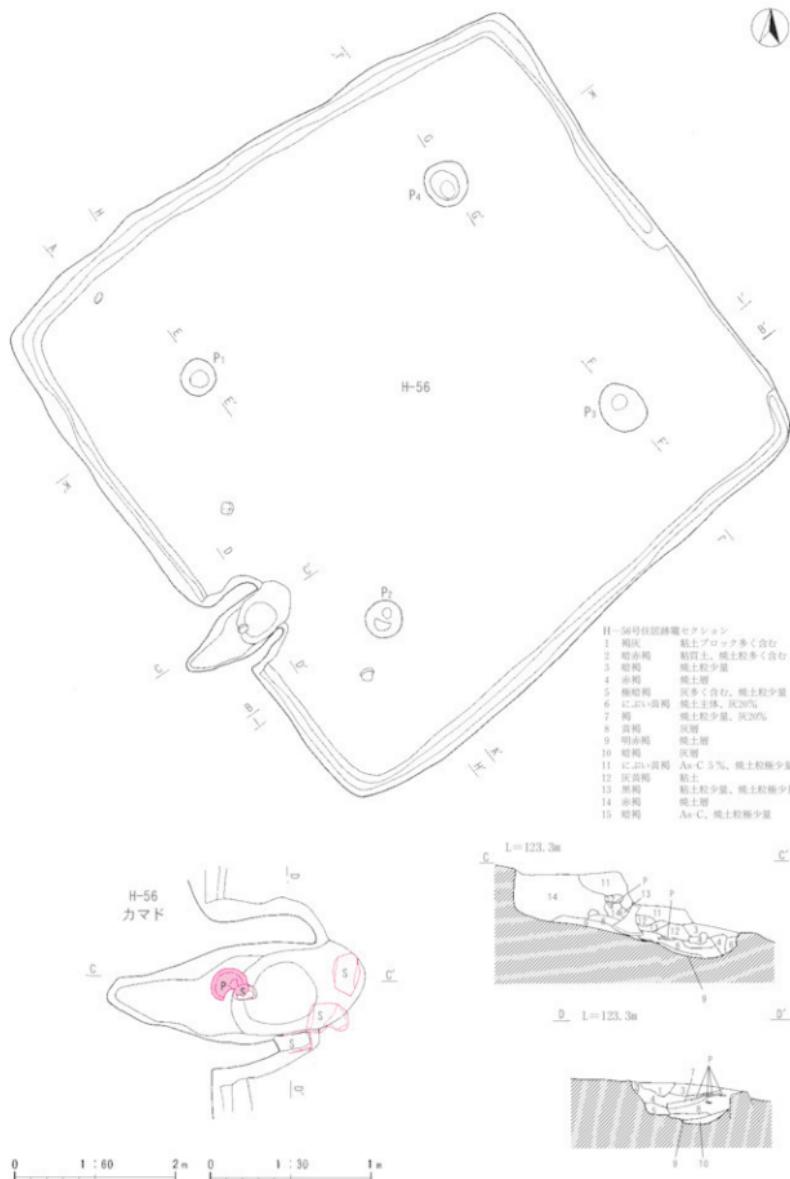


Fig. 30 (41) H-56号住居跡

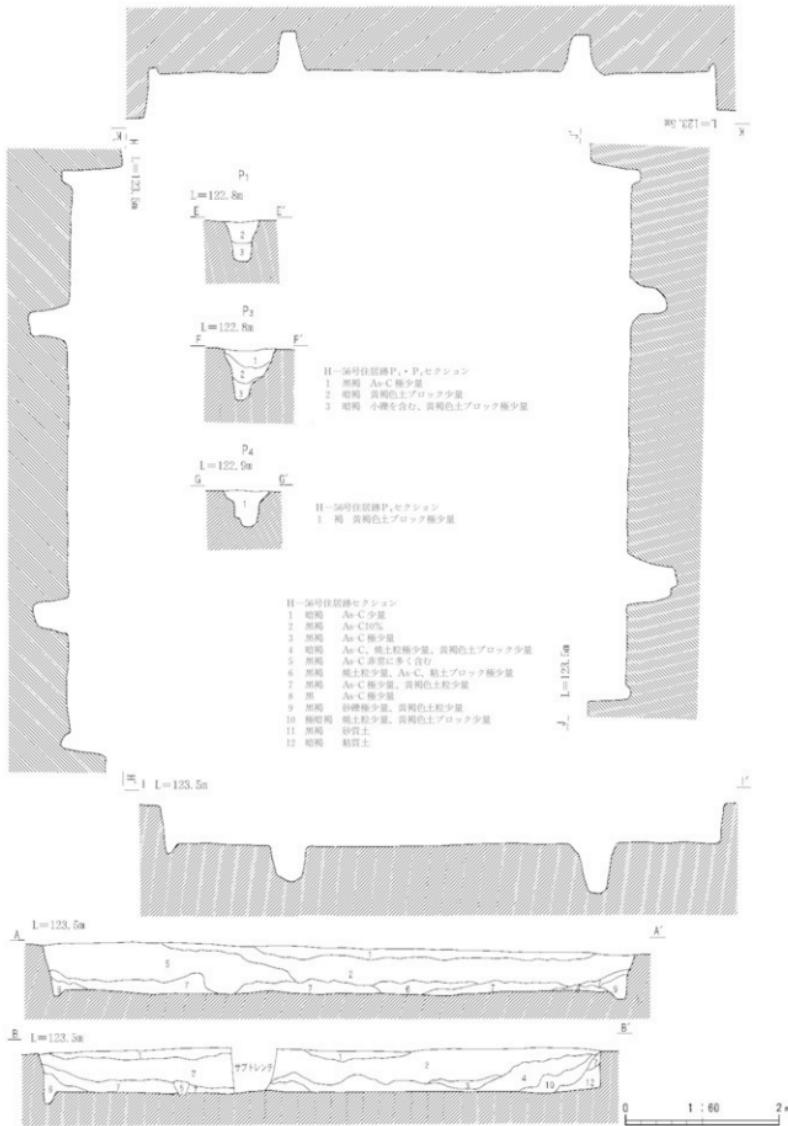


Fig. 31 (41) H-56号住居跡

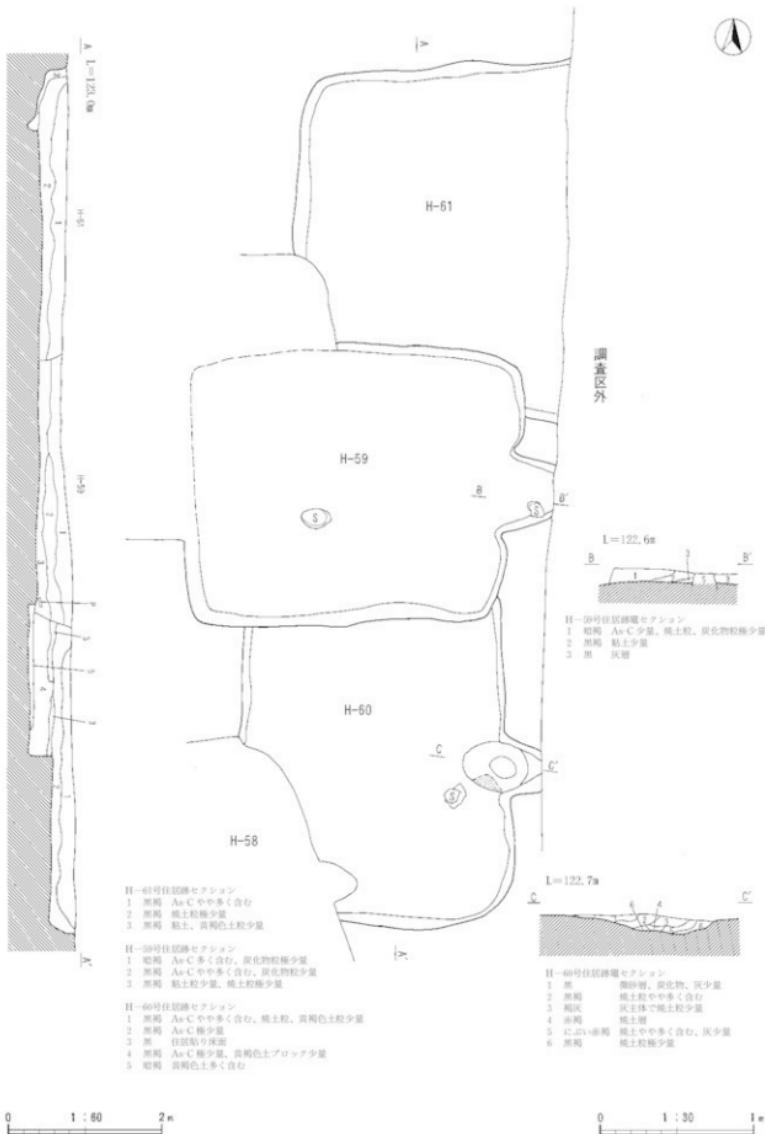


Fig. 32 (41) H-59・60・61号住居跡

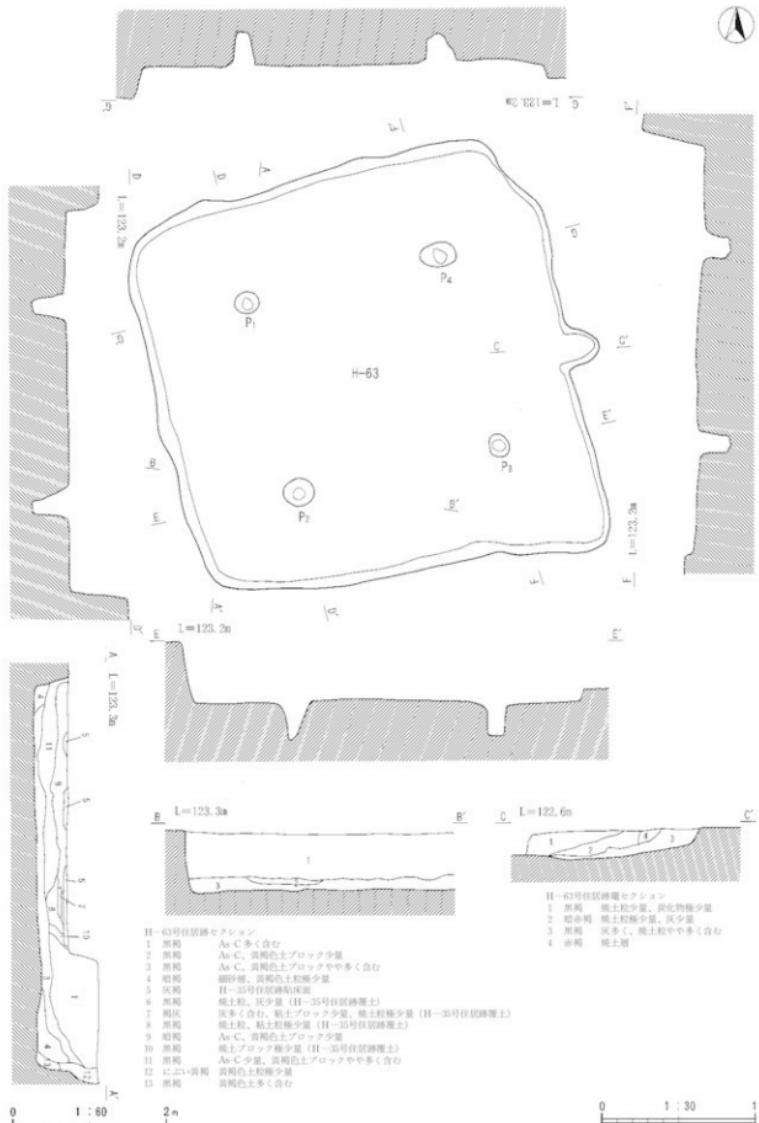
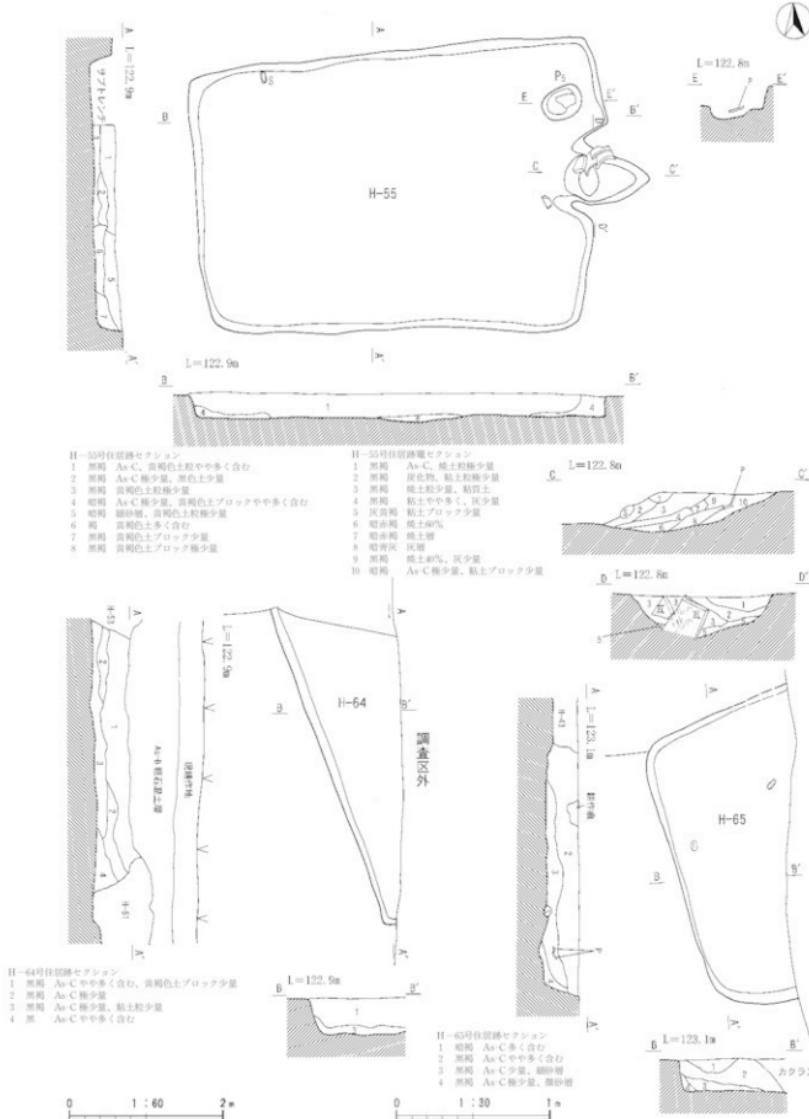


Fig. 33 (41) H-63号住居跡



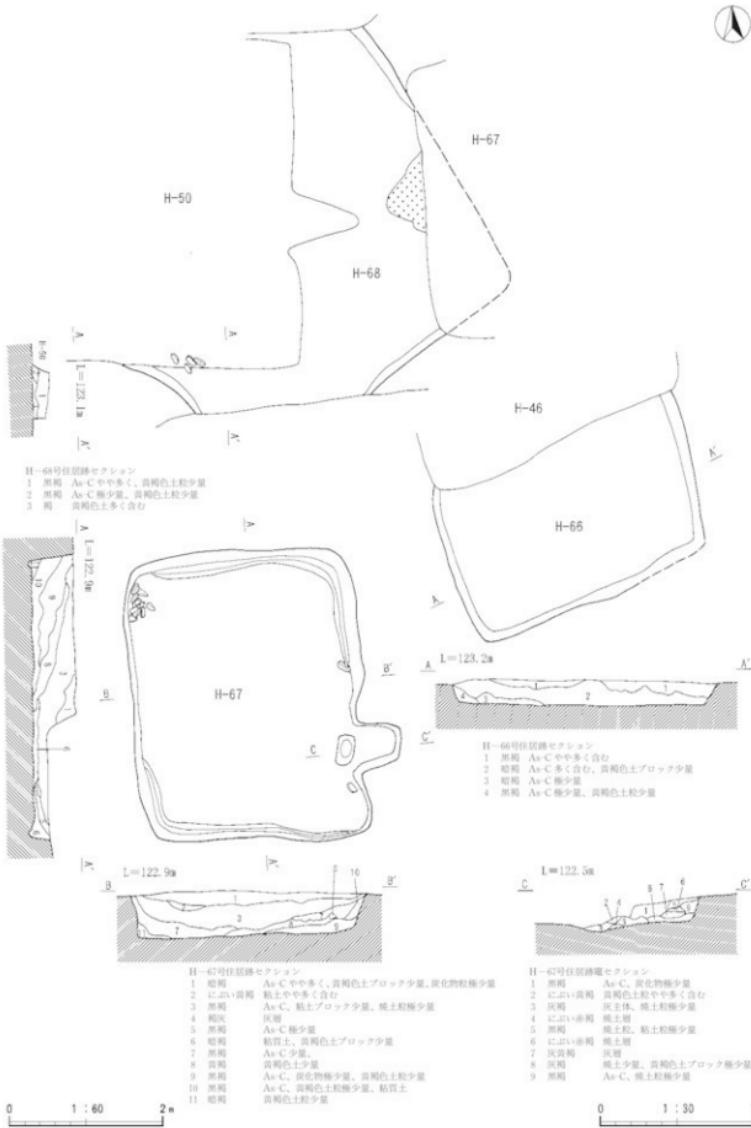


Fig. 35 (41) H-66・67・68号住居跡

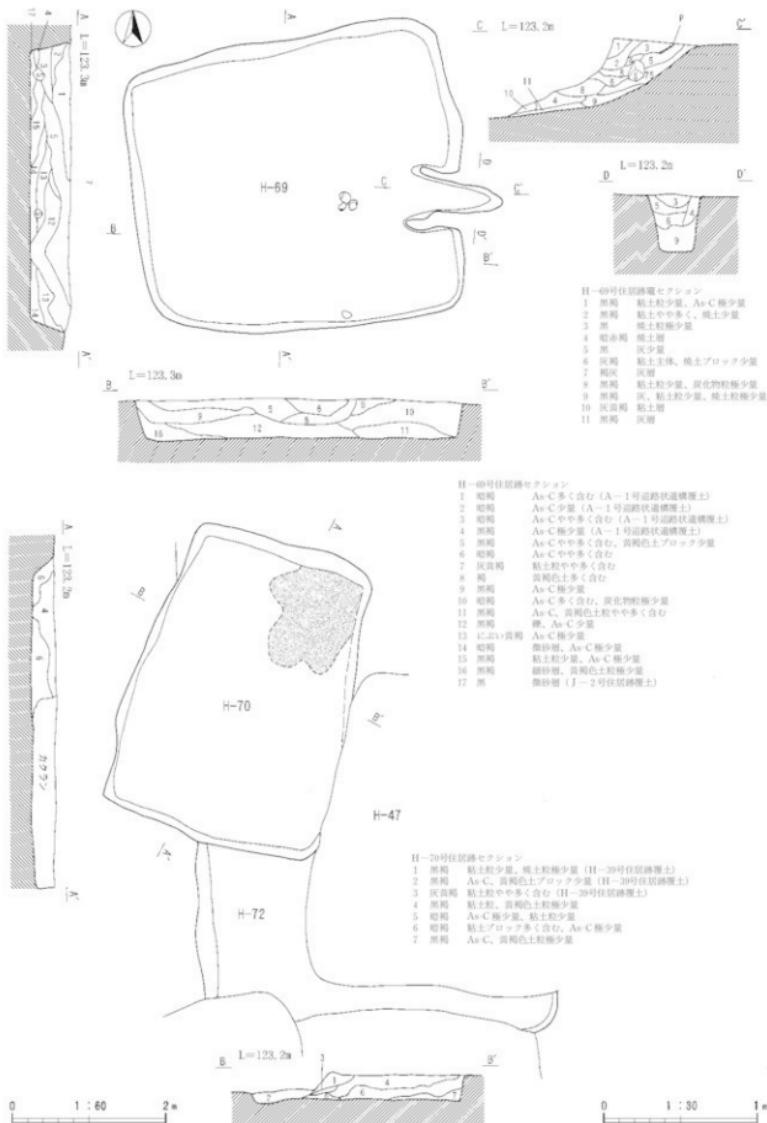


Fig. 36 (41) H-69・70・72号住居跡

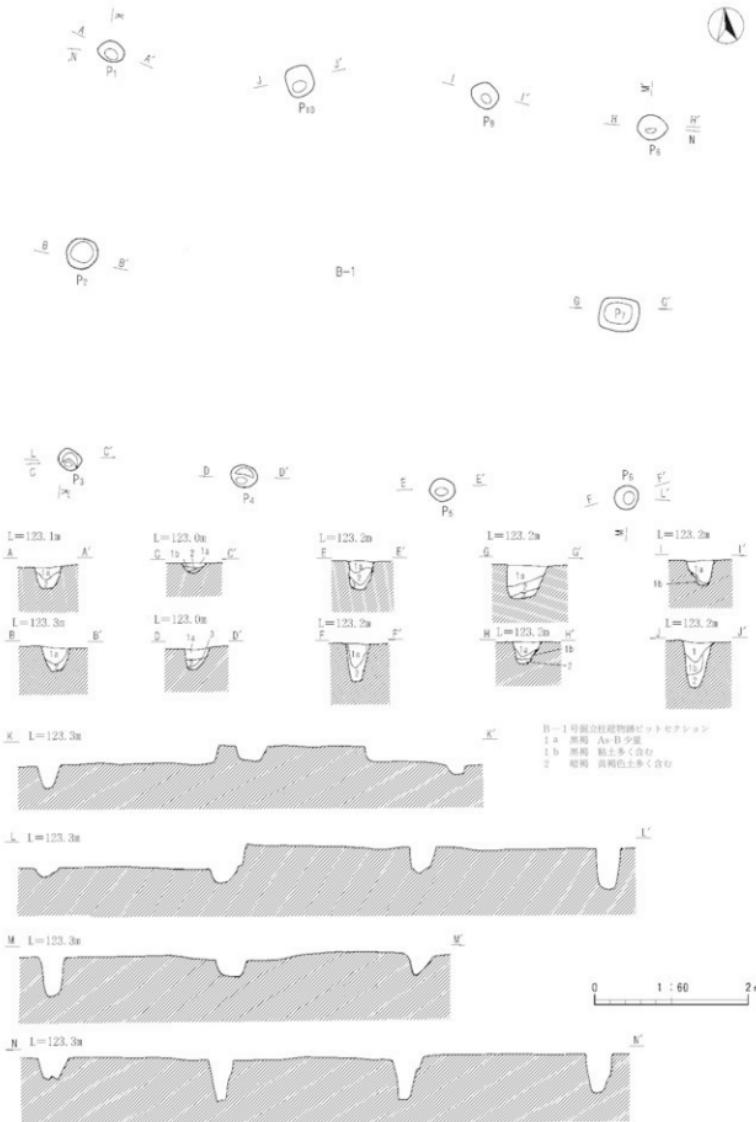


Fig. 37 (41) B-1号掘立柱建物跡

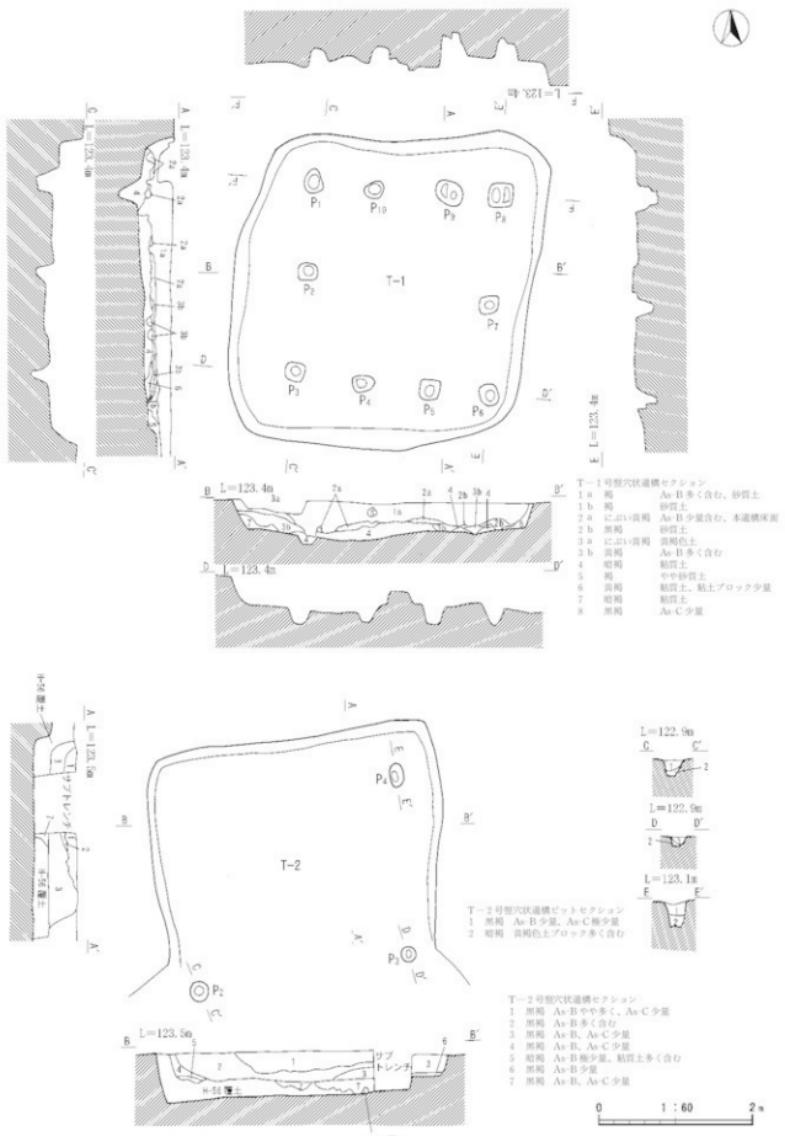


Fig. 38 (41) T-1・2号空状造構

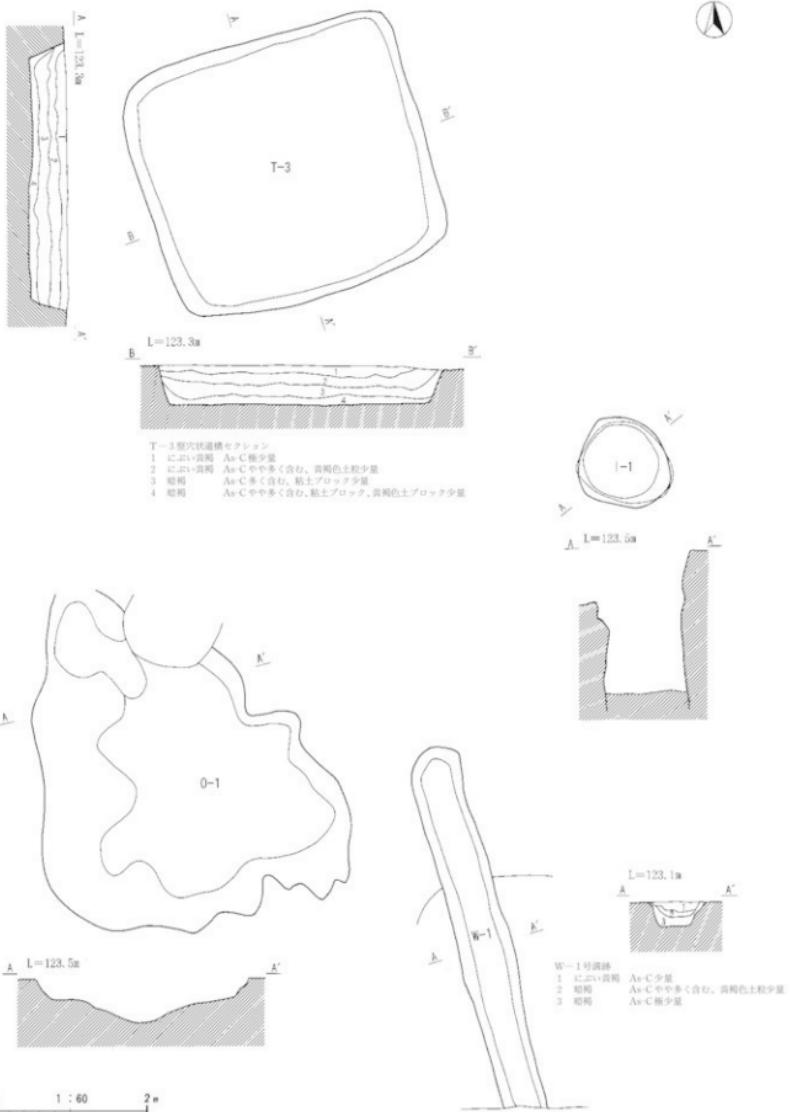


Fig. 39 (41) T-3号穴状遺構 I-1号井戸跡、O-1号風倒木跡、W-1号溝跡

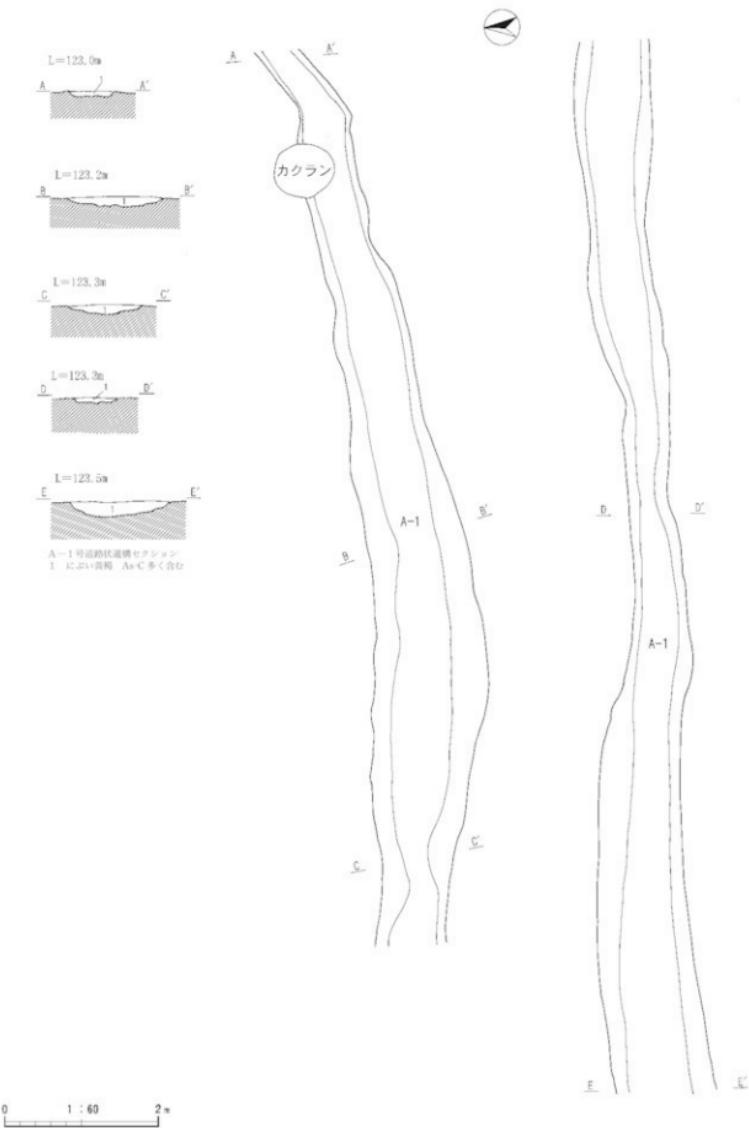
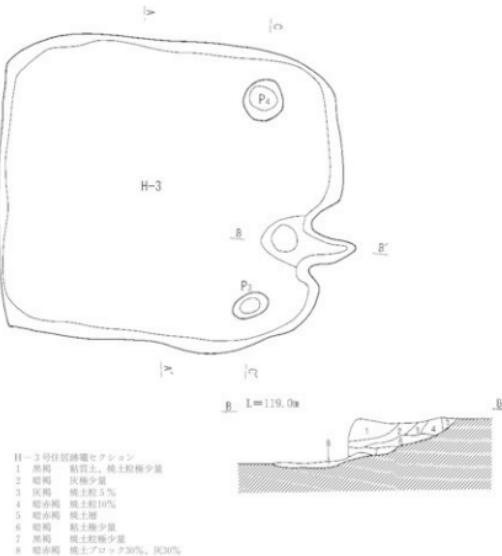
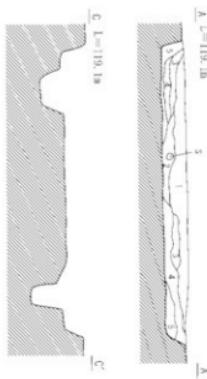
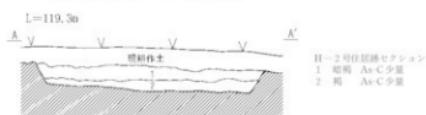
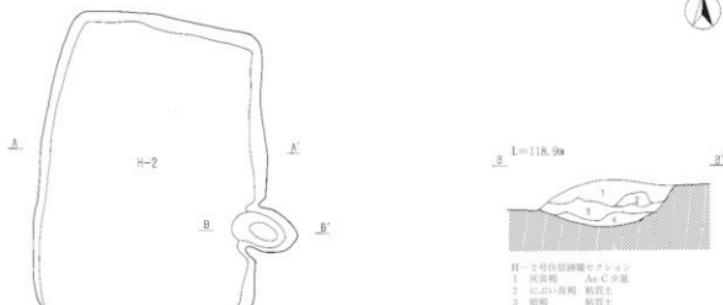


Fig. 40 (41) A-1号道路状道構



0 1 : 60 2m

0 1 : 30 1m

Fig. 41 (43) H-2・3号住居跡

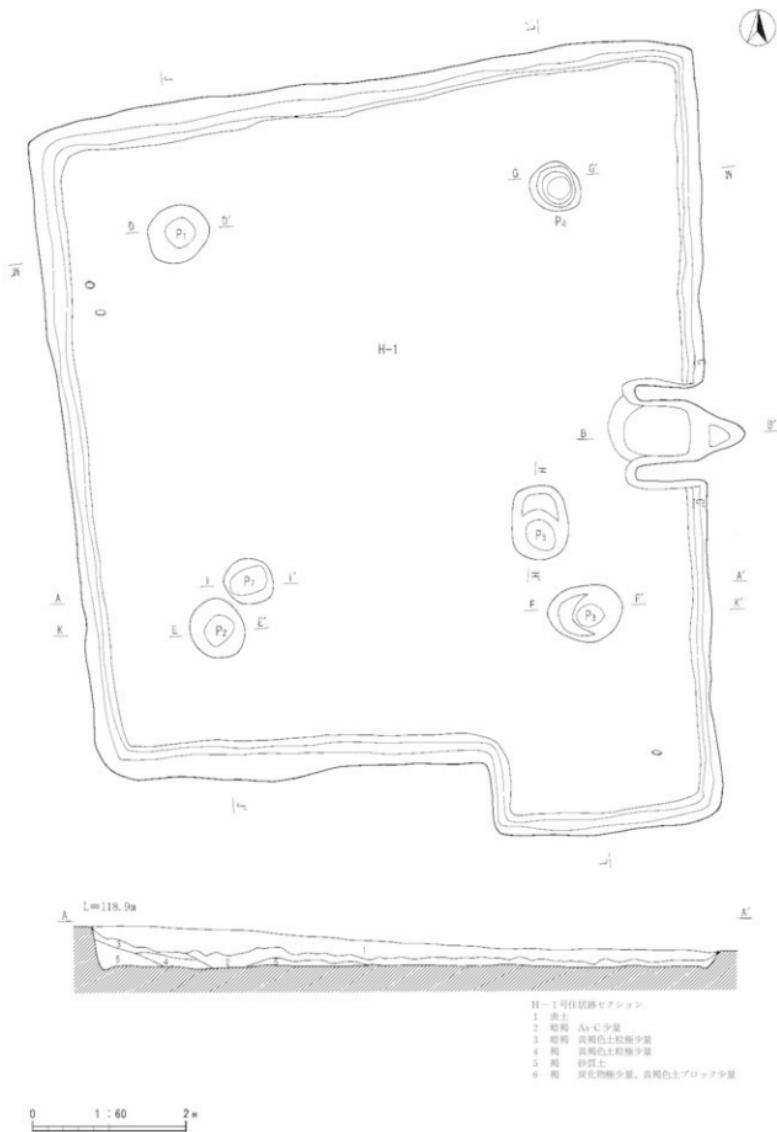


Fig. 42 (43) H-1号住居跡

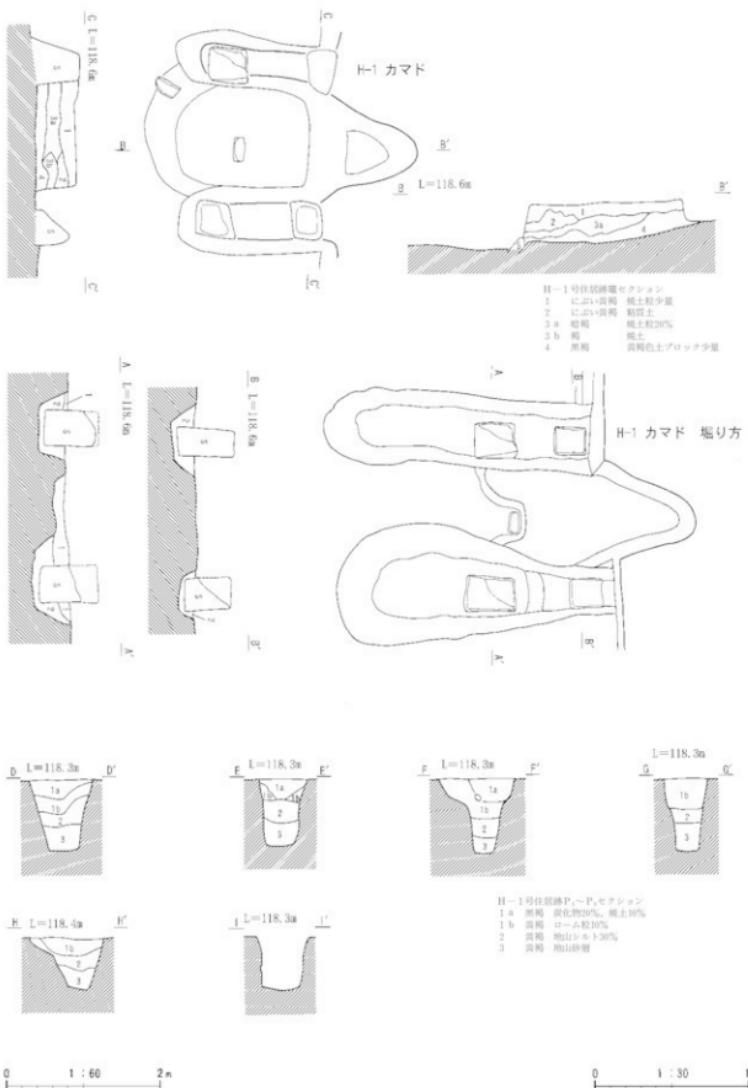


Fig. 43 (43) H-1号住居跡

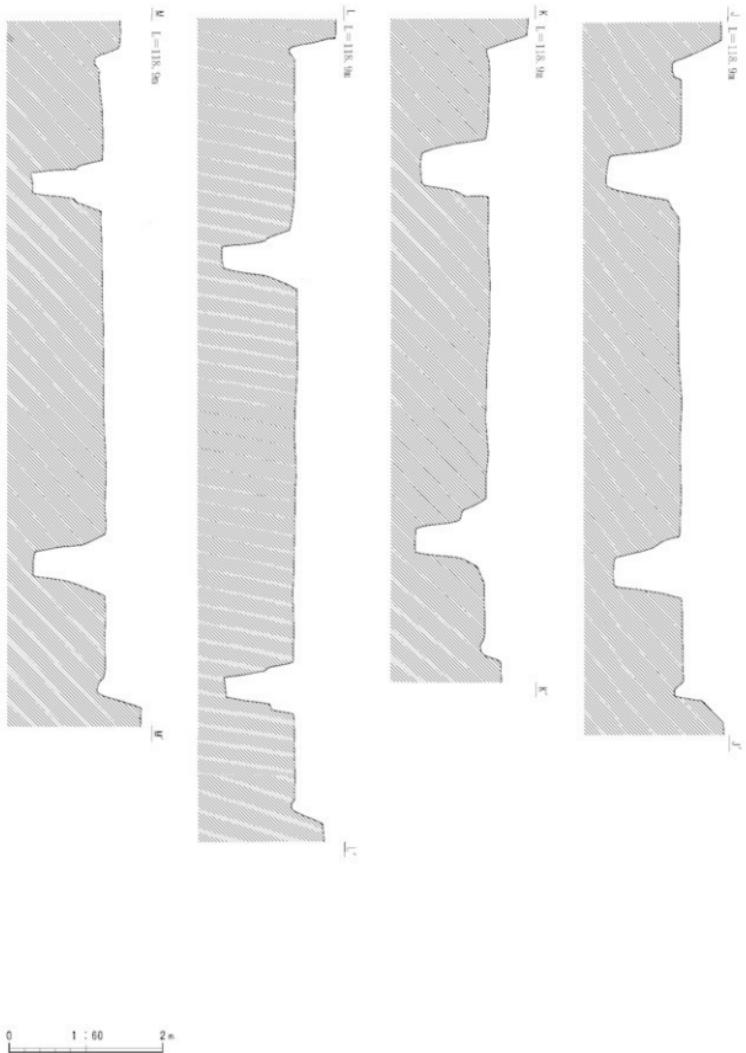


Fig. 44 (43) H-1号住居跡

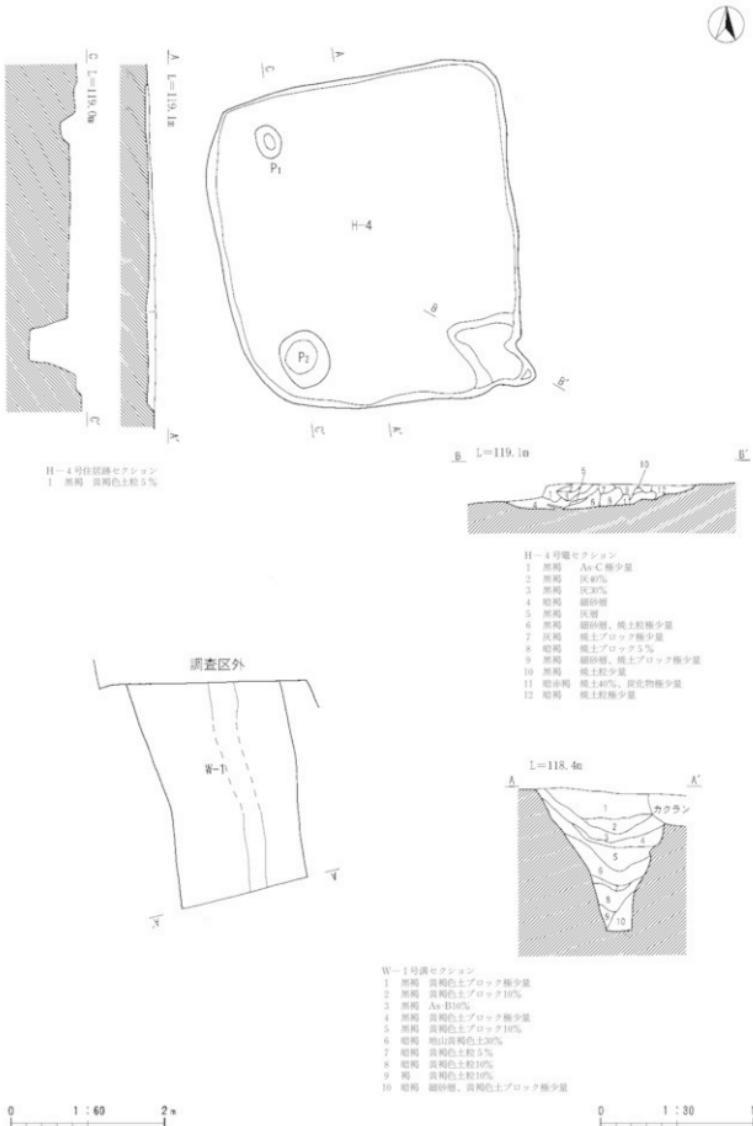


Fig. 45 (43) H-4号住居跡、W-1号溝跡

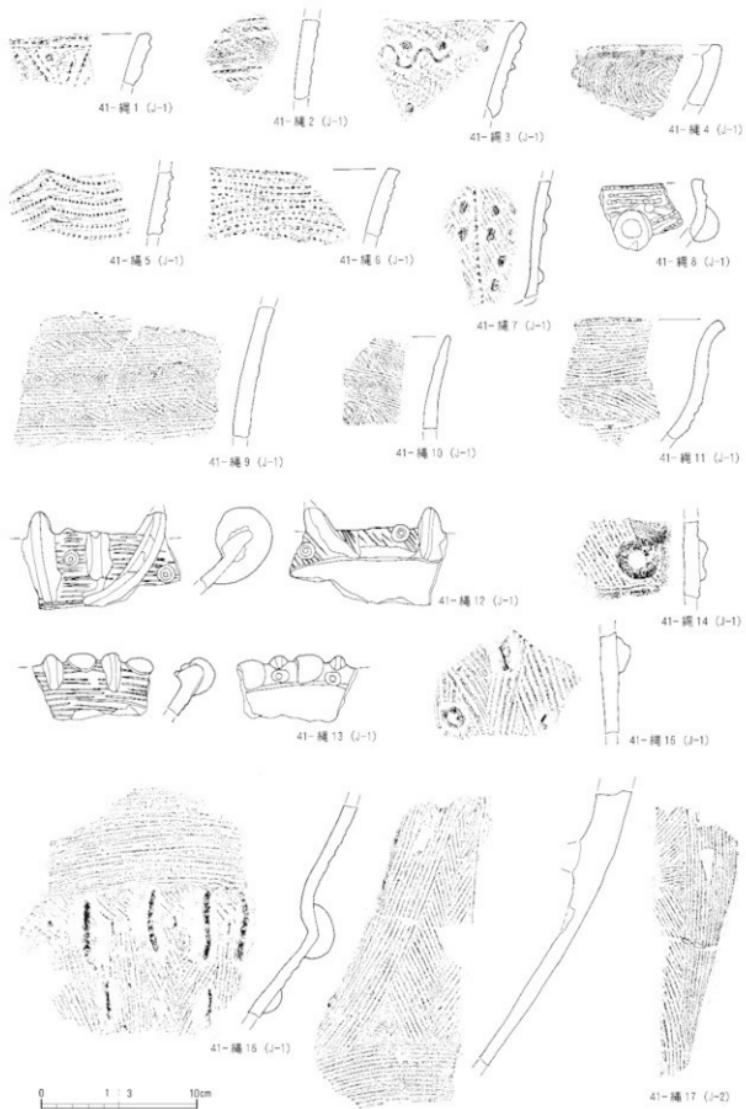


Fig. 46 (41) J - 1 号住居跡出土遺物

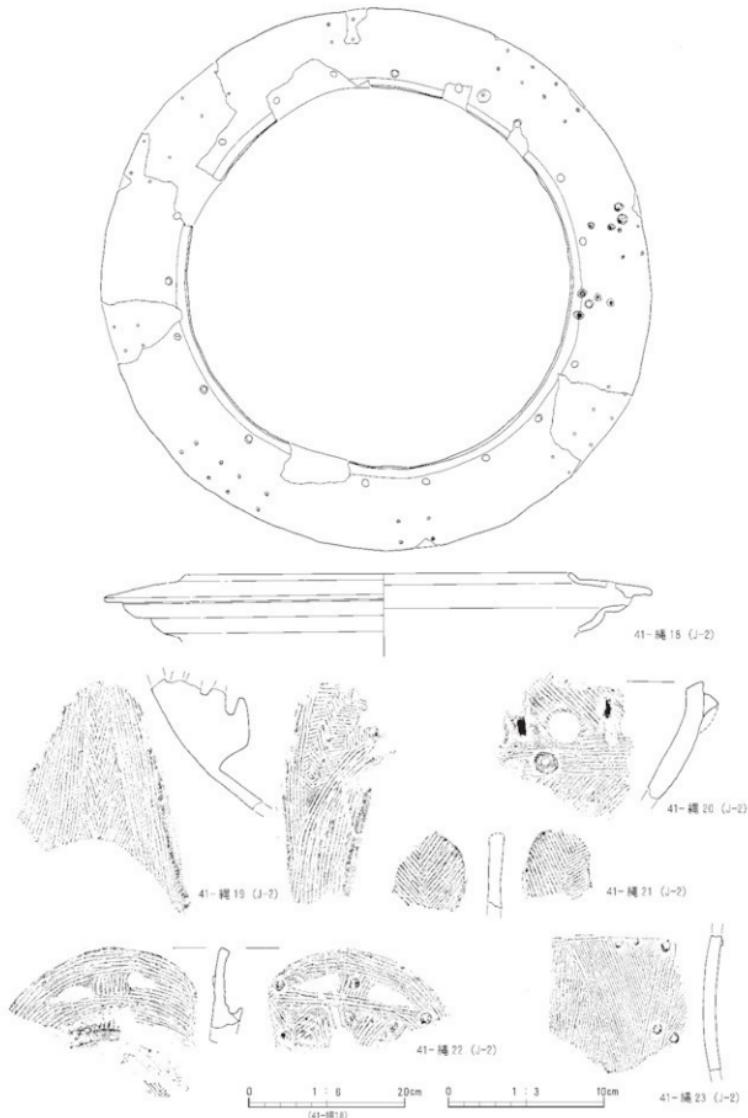


Fig. 47 (41) J-2号住居跡出土遺物



Fig. 48 (41) J—2号住居跡、グリッド等出土物

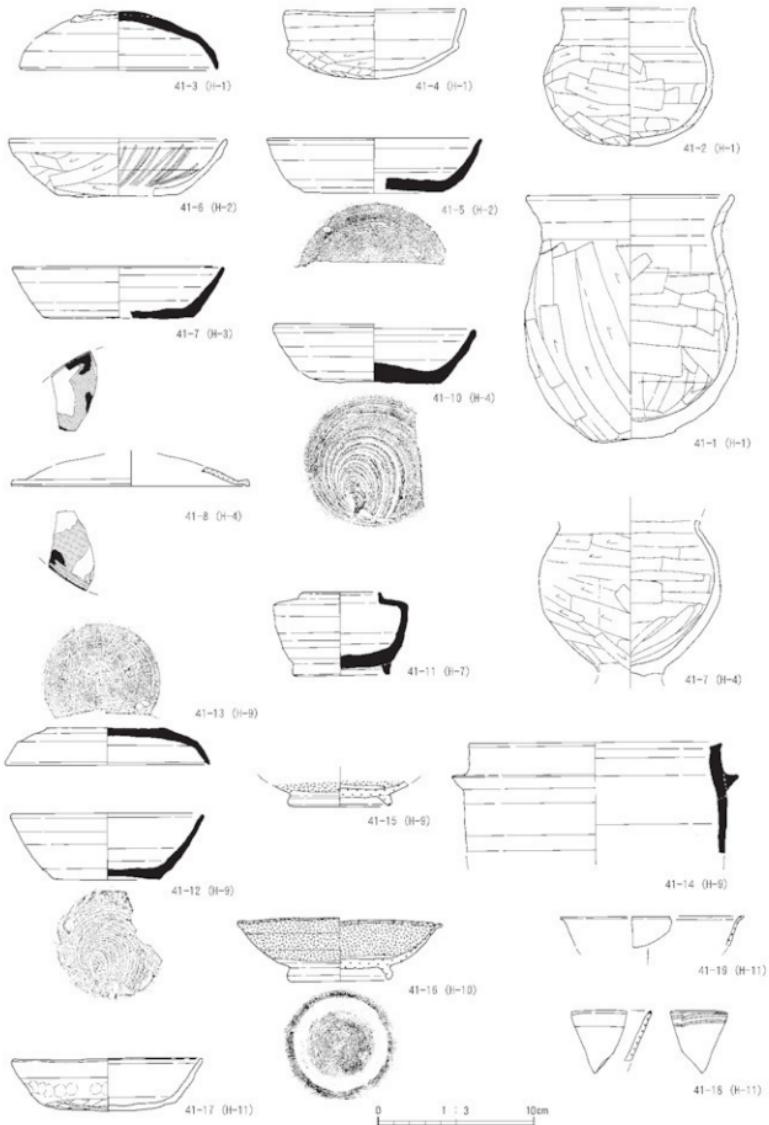


Fig. 49 (41) H—1 • 2 • 3 • 4 • 7 • 9 • 10 • 11号住居跡出土遺物

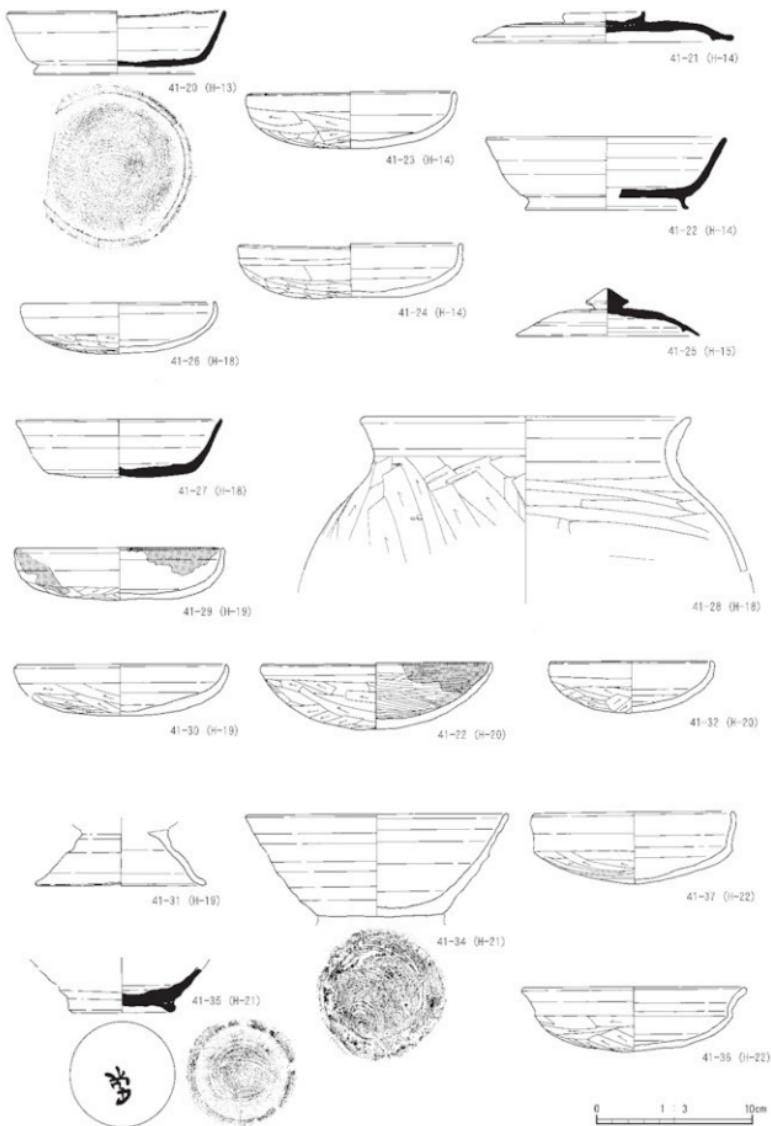


Fig. 50 (41) H—13 • 14 • 15 • 18 • 19 • 20 • 21 • 22号住居出土遺物

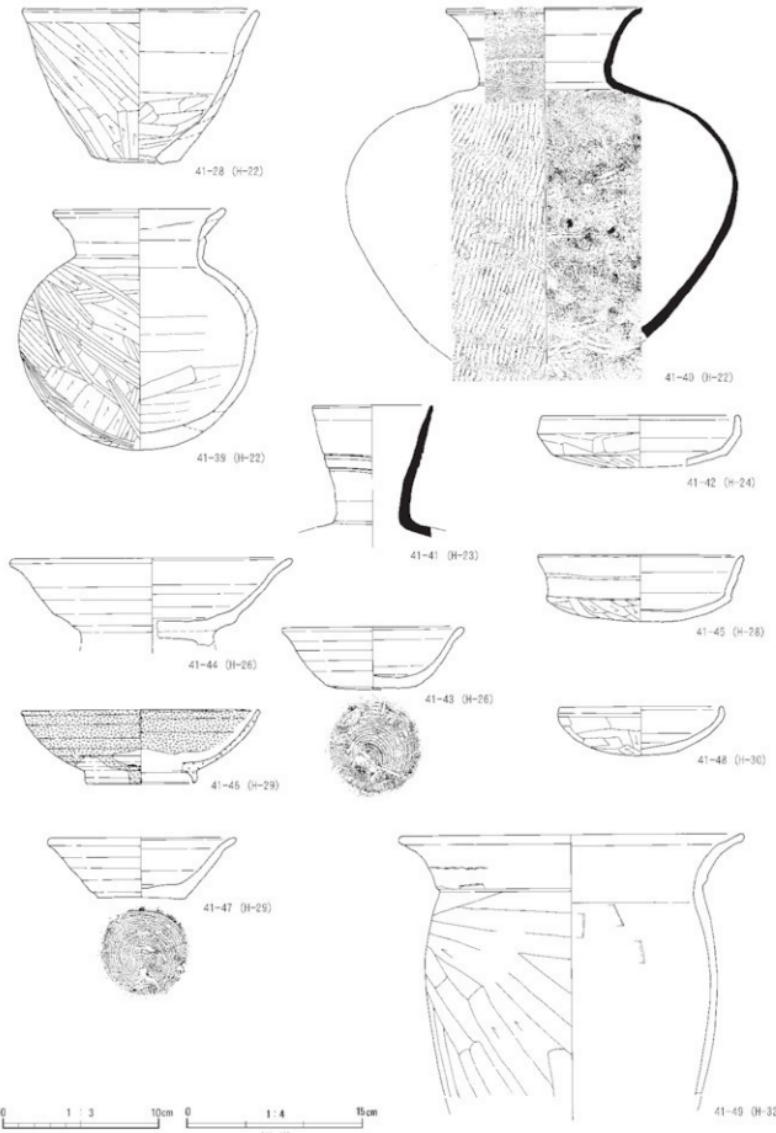


Fig. 51 (41) H—22•23•24•26•28•29•30•32号住居跡出土遺物

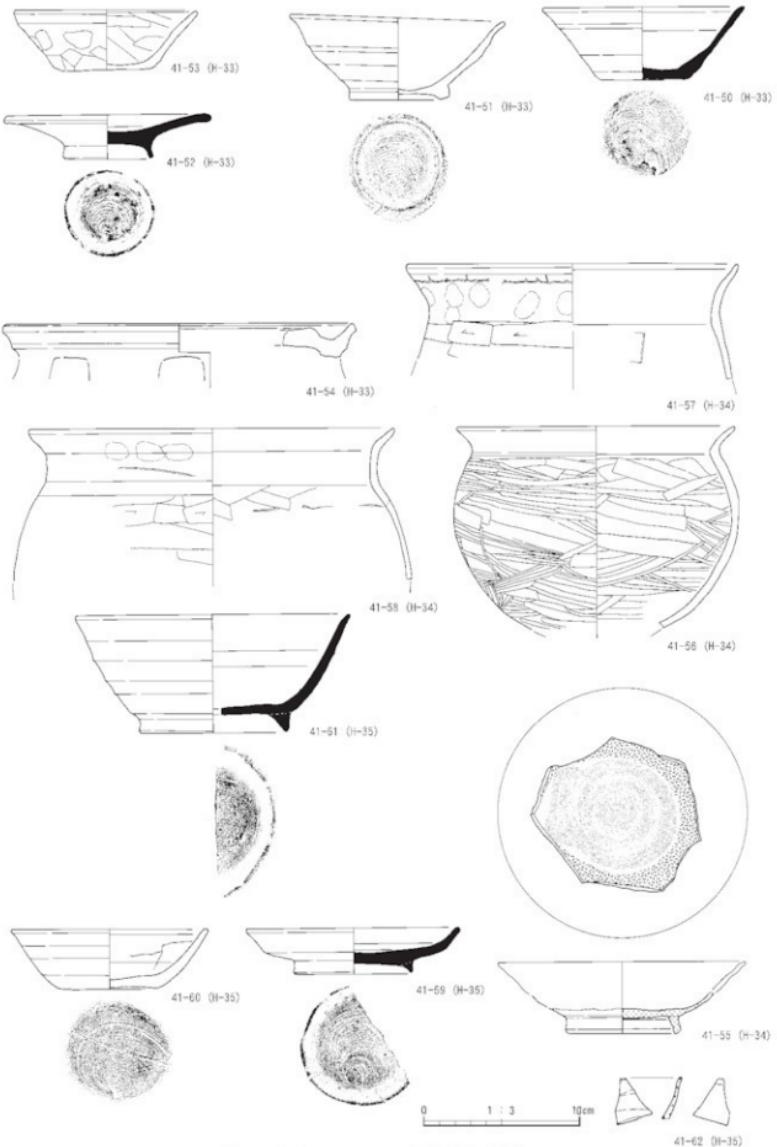


Fig. 52 (41) H-33 • 34 • 35号住居跡出土遺物

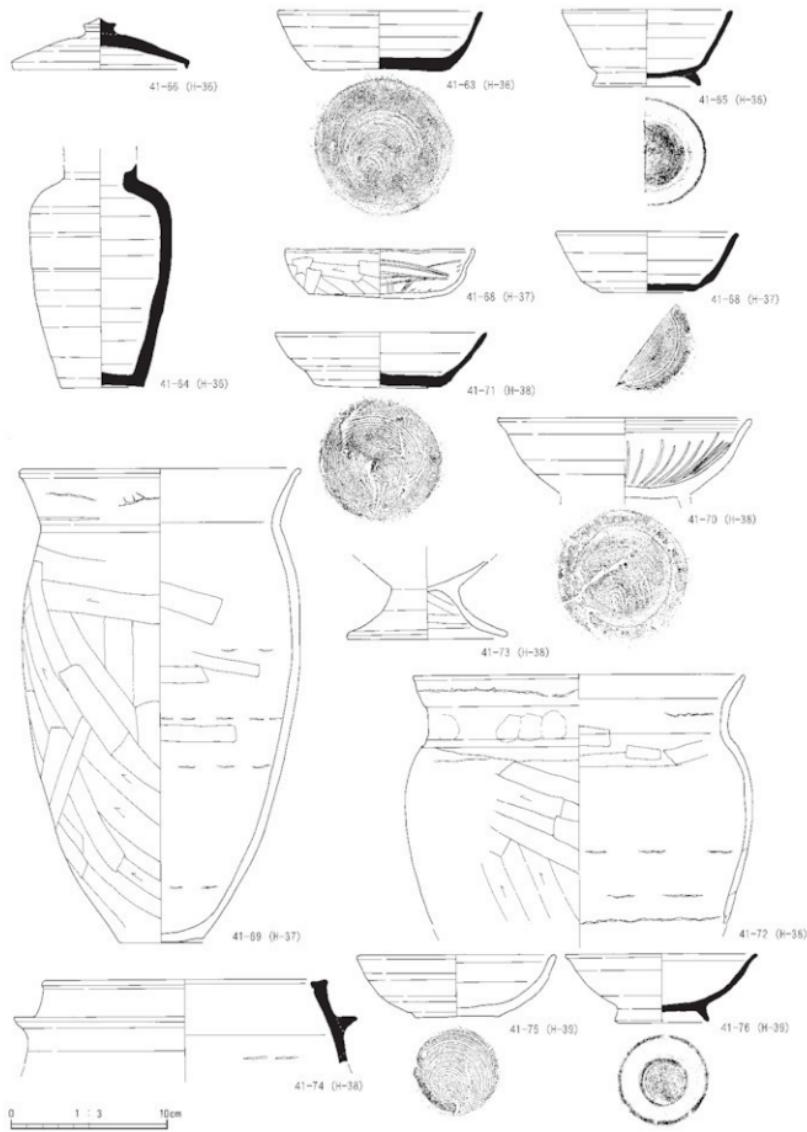


Fig. 53 (41) H—36 • 37 • 38 • 39号住居跡出土遺物

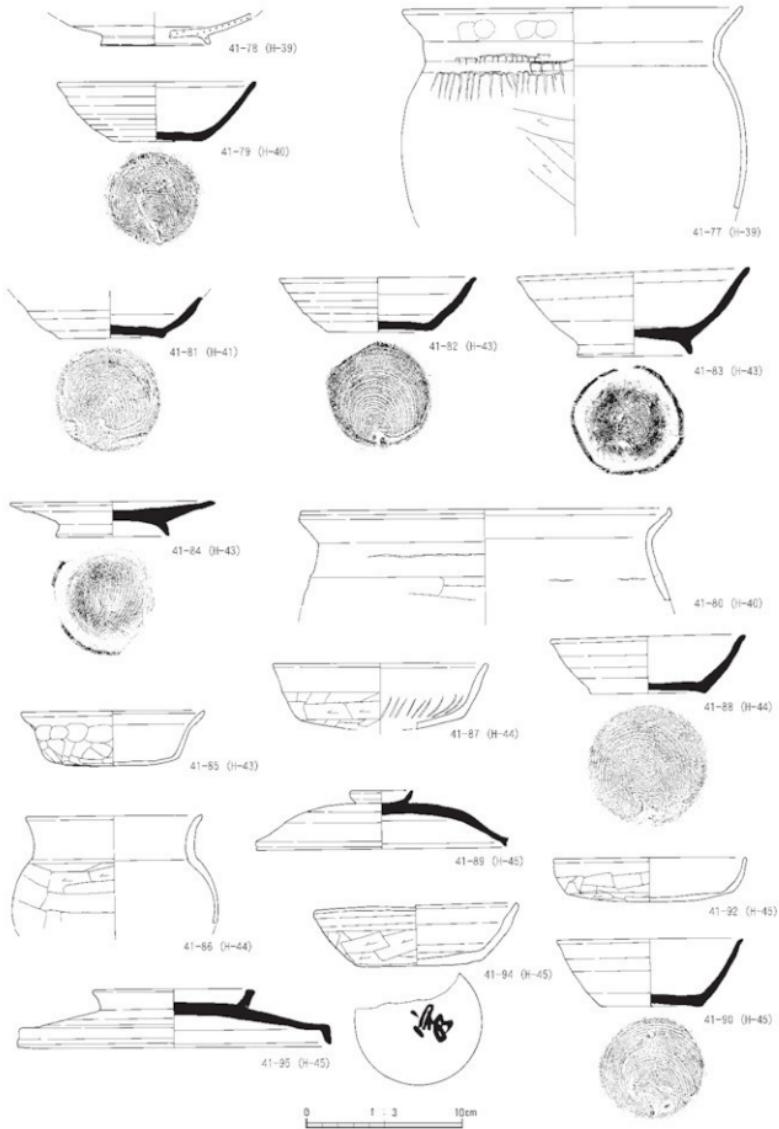


Fig. 54 (41) H-39 • 40 • 41 • 43 • 44 • 45号住居跡出土遺物

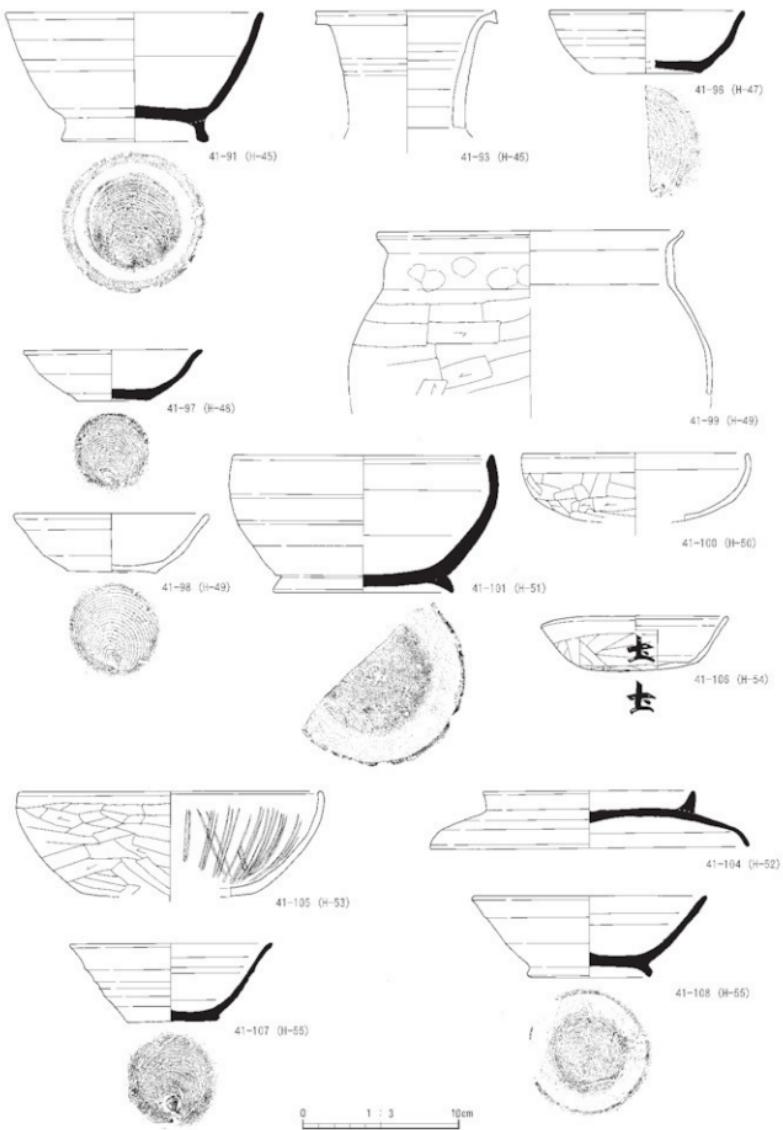


Fig. 55 (41) H—45•47•48•49•50•51•52•53•54•55号住居跡出土遺物

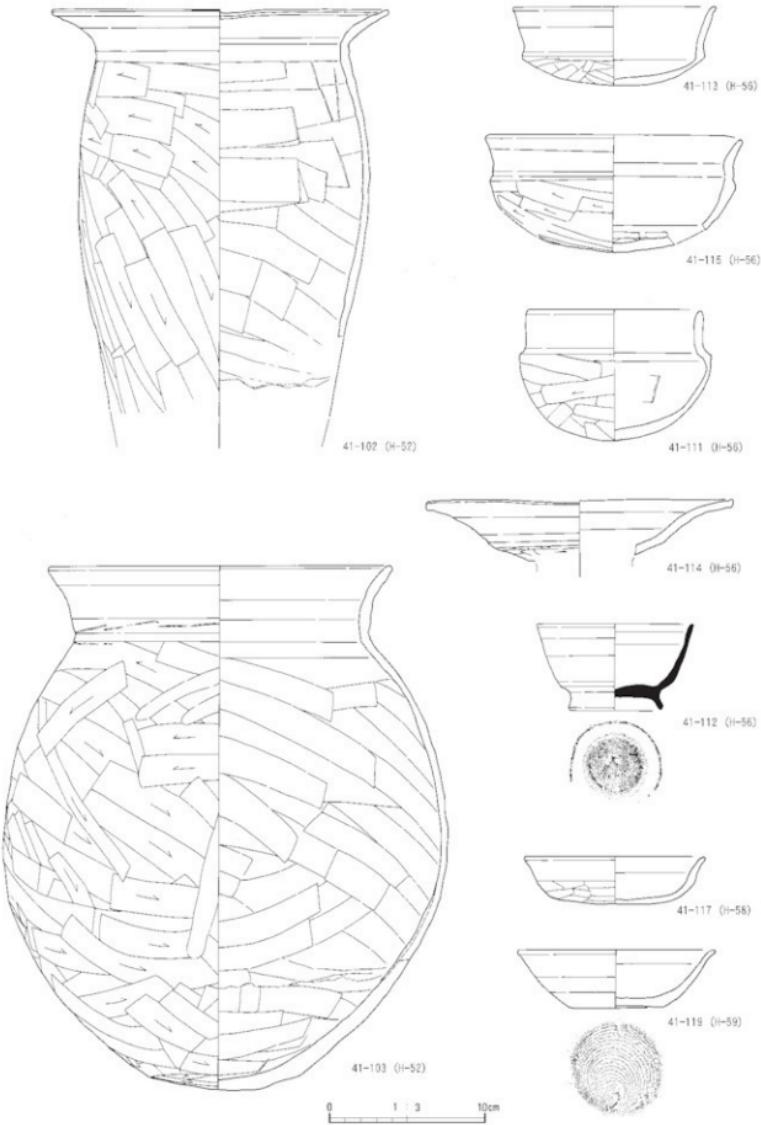
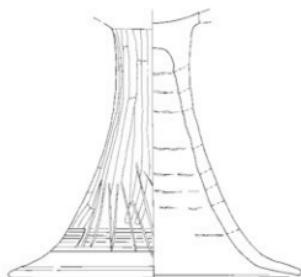


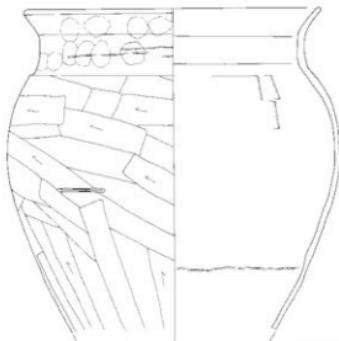
Fig. 56 (41) H—52 • 56 • 58 • 59号住居跡出土遺物



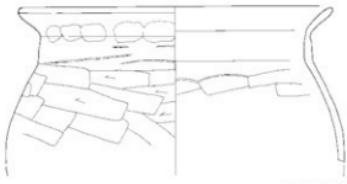
41-109 (H-56)



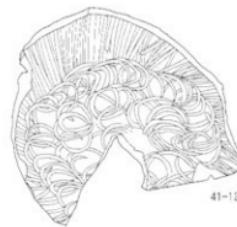
41-110 (H-56)



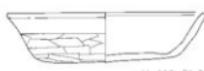
41-115 (H-58)



41-122 (H-61)



41-123 (H-51)



41-118 (H-59)



41-121 (H-60)



41-123 (H-51)



41-120 (H-59)



41-124 (H-63)

0 10cm

Fig. 57 (41) H-56 • 58 • 59 • 60 • 61 • 63号住居跡出土遺物

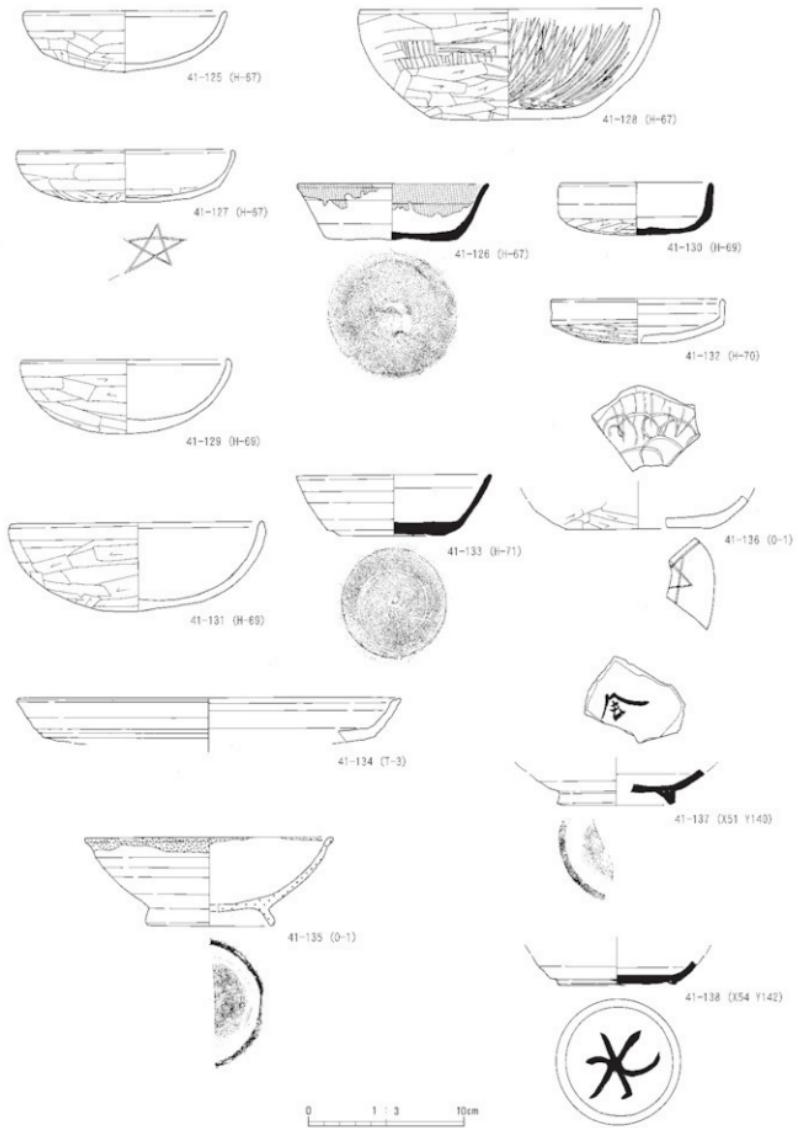


Fig. 58 (41) H—67・69・70・71号住居跡、T—3号竪穴状遺構、O—1号風車木跡、グリッド等出土遺物

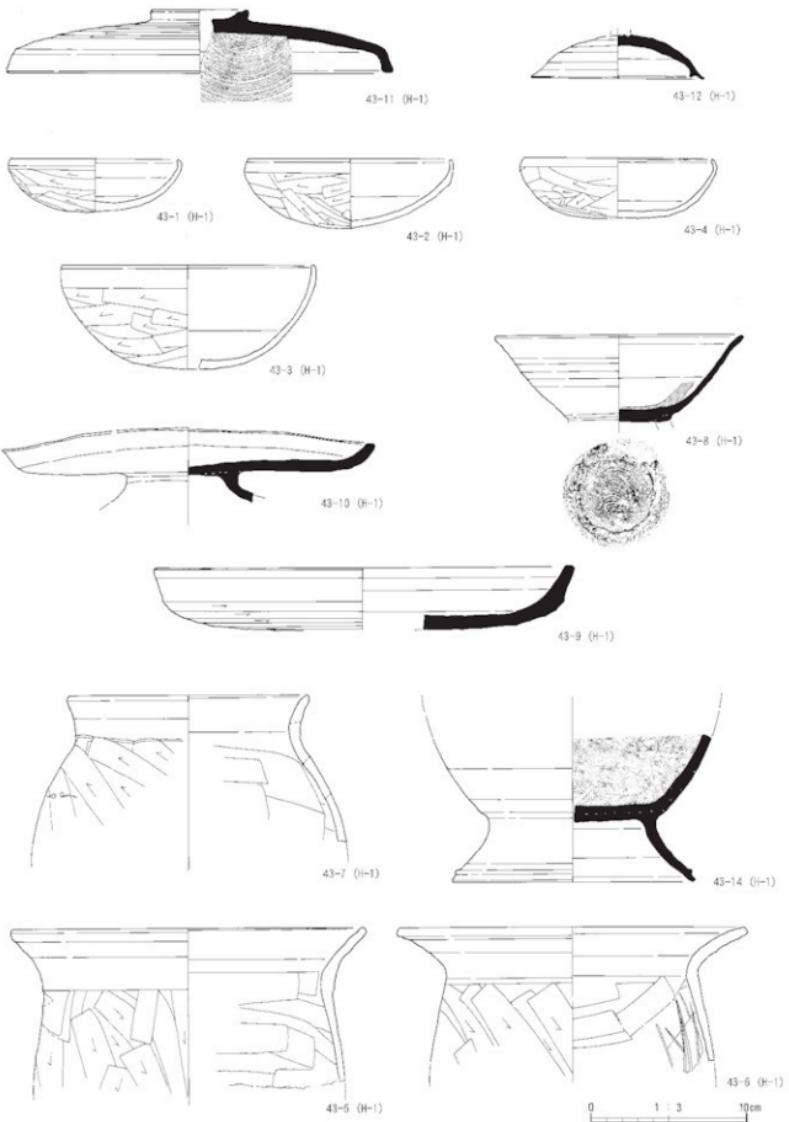


Fig. 59 (43) H-1号住居跡出土遺物

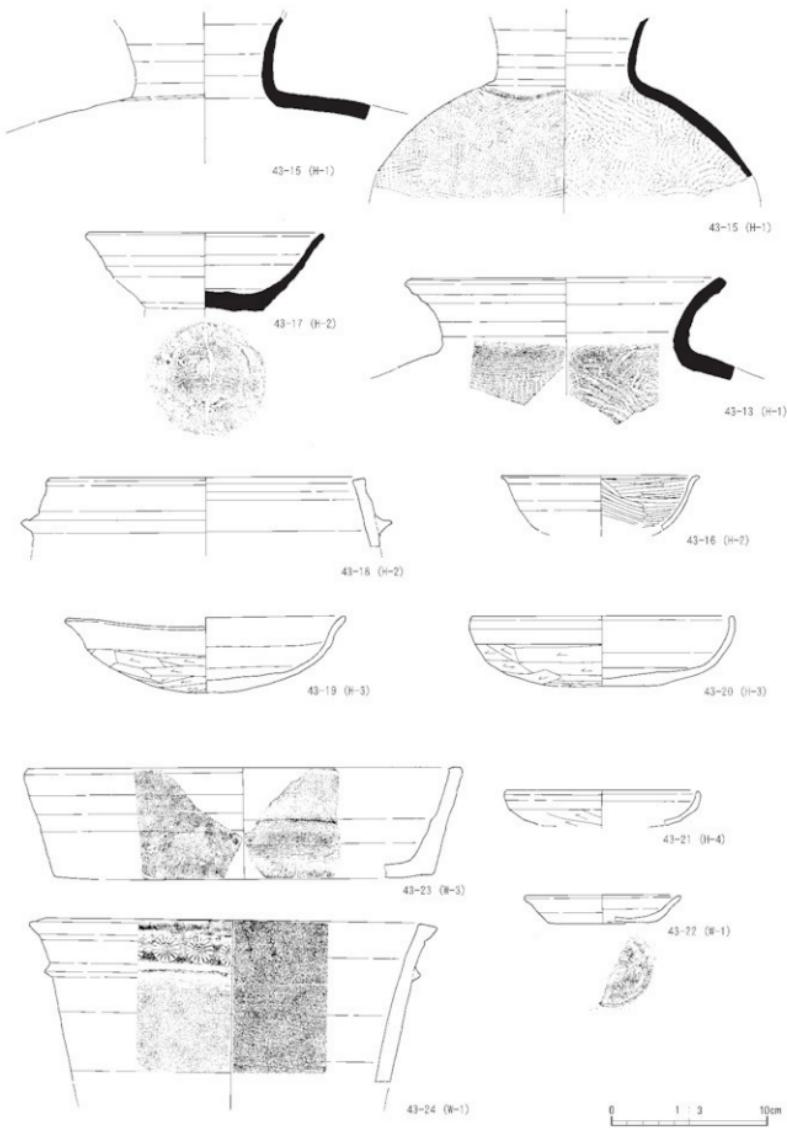


Fig. 60 (43) H-1 ~ 4号住居跡、W-1号溝跡出土遺物

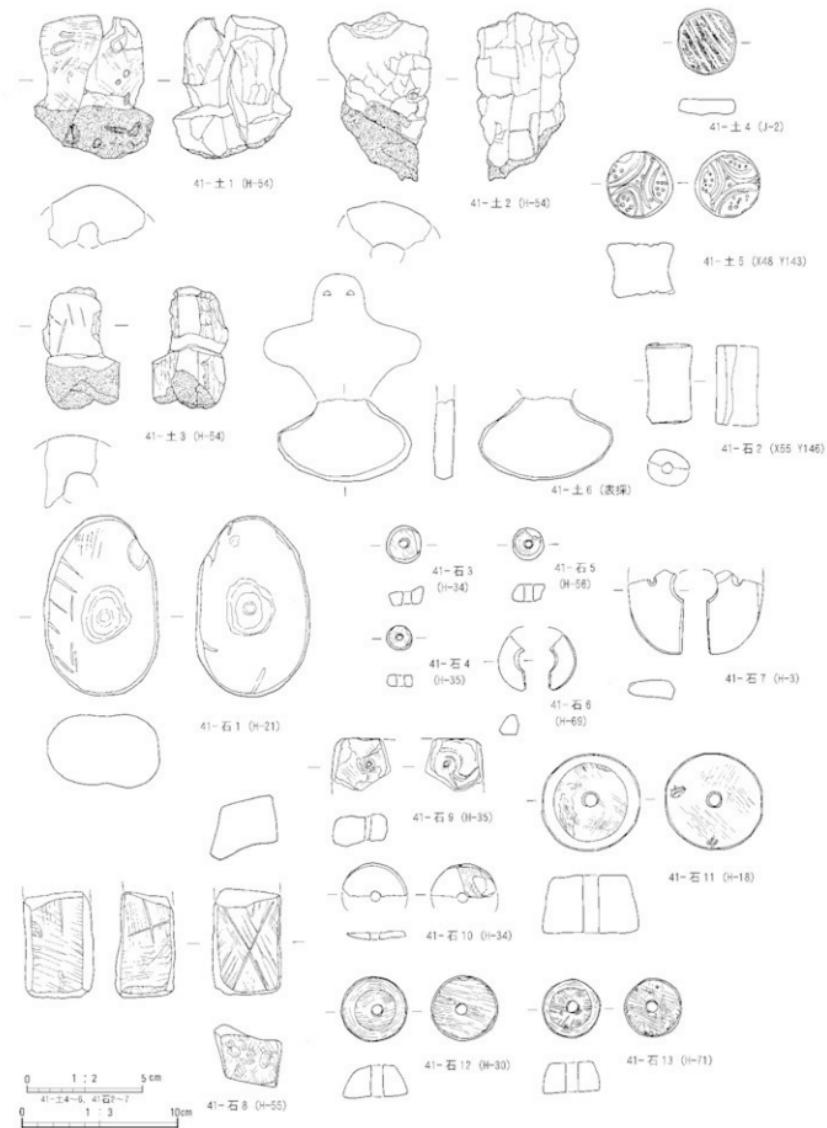


Fig. 61 (41) 土製品、石製品

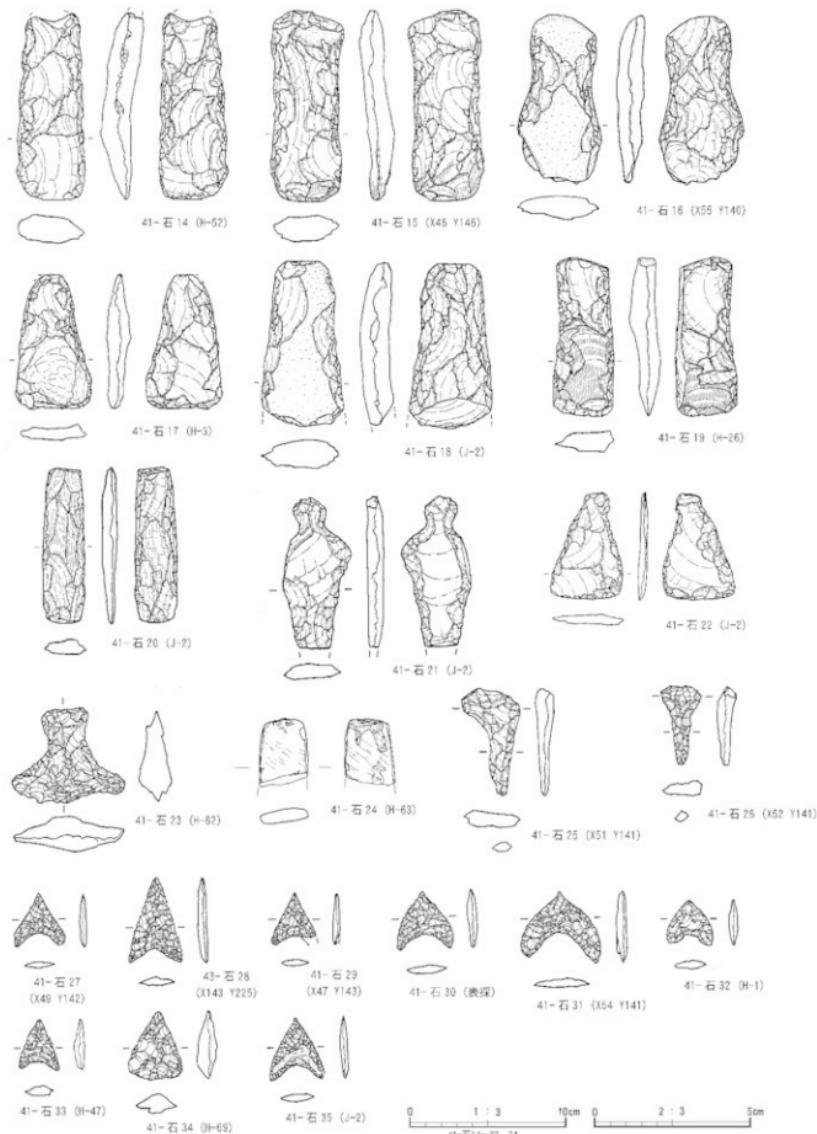


Fig. 62 (41) (43) 石製品

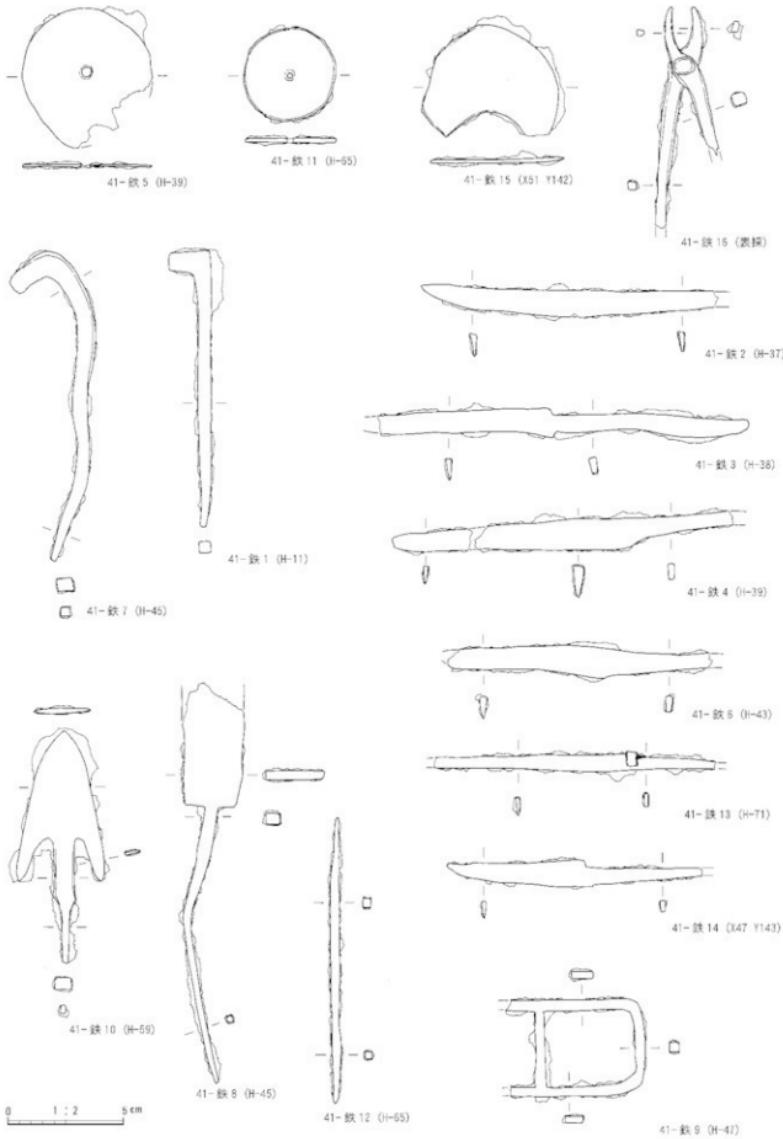


Fig. 63 (41) 鉄製品

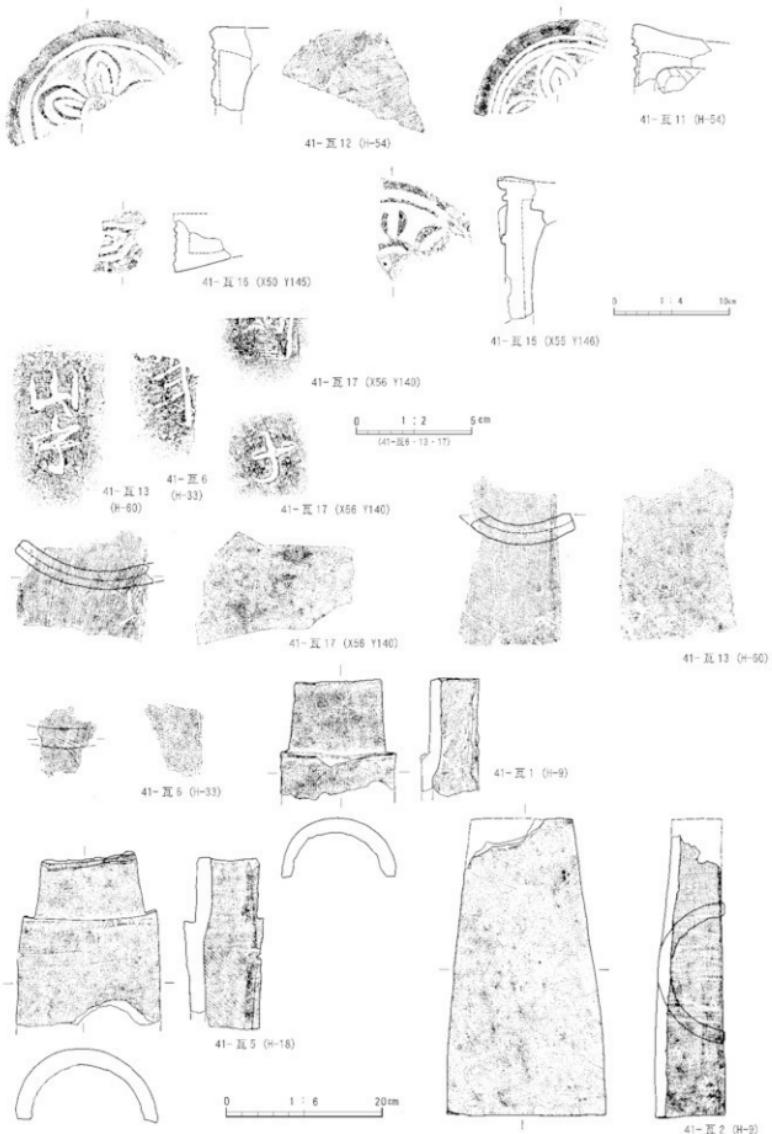


Fig. 64 (41) II



Fig. 65 (41) II

VII 付 編（金付着灰釉陶器分析）

1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製 JSX-3200）で行なった。



この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法 (FP 法) による自動定量計算システムが採用されており、 $_{\text{C}} \sim _{\text{U}}$ までの元素分析が可能で、ハイパワーX線源(最大30kV、4mA)の採用で微量試料へ最大 $290\text{mm}\phi \times 80\text{mmH}$ までの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルク FP 法でおこなった。FP 法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

分析にあたっては、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料をX線照射範囲が約 $15\text{mm}\phi$ の試料台に直接のせ分析した。実験条件はバルク FP 法 (スタンダードレス方式)、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30kV、管電流=自動制御、分析時間=200秒 (有効分析時間) である。また、分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

分析対象元素は金 (Au)、水銀 (Hg) の 2 元素、分析値は含水量 = 0 と仮定し、元素の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下 2 桁で表示することになっているが、微量元素の Rb, Sr, Y, Zr は重量%では小数点以下 3 ~ 4 桁の微量となり、小数点以下 2 桁では 0 と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下 4 桁を用いて化学分析結果を表示した。

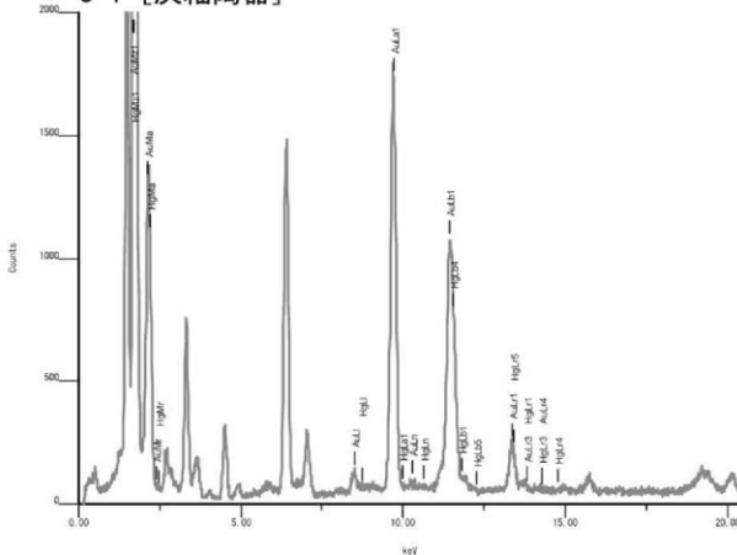
2 分析結果

分析対象は灰釉陶器の内面に付着している金属の分析である。金、水銀、鉄、銅などの元素の存在を検討したが金以外の元素は検出されなかった。

〔参考文献〕

井上 嶽 2008 関東地方の古窯跡データ集

S-1 [灰釉陶器]



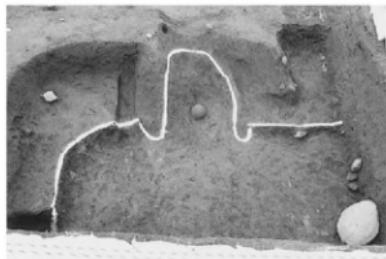
测定条件：電圧：30.0kV 電流：0.880mA ライフタイム：200.00sec パス：Vac
分析元素：Au, Hg

Num	元素/ 化学式	wt (%)	at/mole (%)	测定强度比	积分强度	標準偏差
*	1 79 Au	100.0000	100.0000	0.0930588	72917	14.3904
*	2 80 Hg	nd				

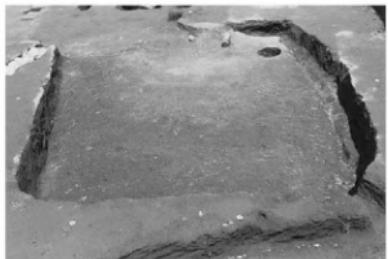
図 版



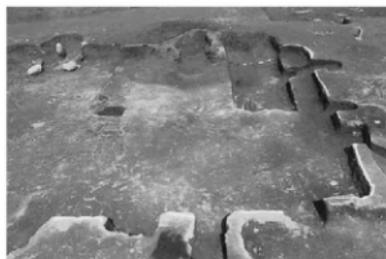
元總社舊海遺跡群(41)全景（下が北）



H-1号住居跡全景 西から



H-2号住居跡全景 西から



H-3号住居跡全景 西から



H-4号住居跡全景 西から



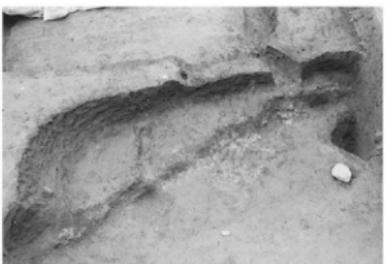
H-5号住居跡全景 西から



H-6号住居跡全景 南東から



H-7号住居跡（手前）全景 西から



H-8号住居跡全景 西から



H-9号住居跡全景 西から



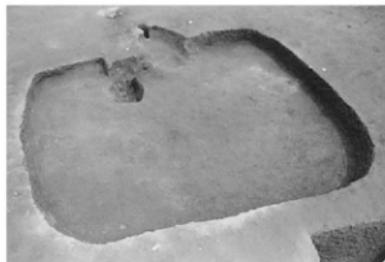
H-9号住居跡遺全景 西から



H-10号住居跡全景 西から



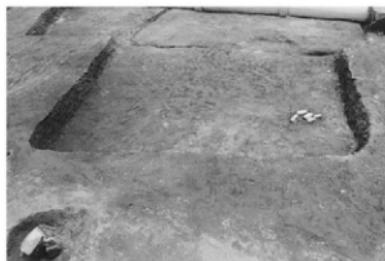
H-11号住居跡全景 西から



H-12号住居跡全景 南西から



H-13号住居跡全景 西から



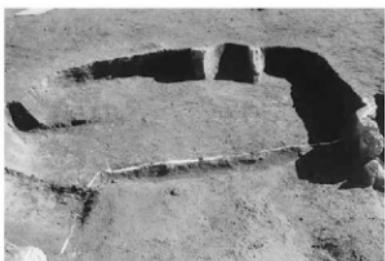
H-14号住居跡全景 西から



H-15号住居跡(手前)・H-20号住居跡(奥)全景 西から



H-16号住居跡全景 西から



H-17号住居跡全景 西から



H-18号住居跡全景 西から



H-18号住居跡遺構全景 西から



H-19号住居跡全景 西から



H-19号住居跡遺全景 西から



H-21号住居跡全景 北から



H-23号住居跡全景 西から



H-24号住居跡全景 西から



H-26号住居跡全景 西から



H-28号住居跡全景 西から



H-28号住居跡出土遺物 西から



H-22号住居跡全景（新床面）東から



H-22号住居跡全景（旧床面）東から



H-22号住居跡出土遺物 南東から



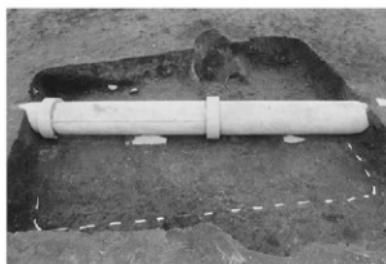
H-29号住居跡全景 西から



H-30号住居跡全景 北から



H-31号住居跡全景 西から



H-32号住居跡全景 西から



H-33号住居跡全景 西から



H-33号住居跡内出土遺物 西から



H-33号住居跡全景 西から



H-34号住居跡全景 西から



H-34号住居跡出土遺物 北から



H-35号住居跡全景 西から



H-36号住居跡全景 西から



H-36号住居跡出土遺物 西から



H-37号住居跡全景 西から



H-38号住居跡全景 西から



H-39号住居跡全景 西から



H-40号住居跡全景 西から



H-41号住居跡全景 西から



H-42・43・47・48号住居跡重複関係 西から



H-43号住居跡全景 西から



H-43号住居跡床下土坑出土遺物 西から



H-44号住居跡全景 西から



H-44号住居跡全景 西から



H-45号住居跡全景 西から



H-45号住居跡刀子出土状況 東から



H-46号住居跡全景 西から



H-49号住居跡全景 西から



H-50号住居跡全景 西から



H-53号住居跡全景 西から



H-54号住居跡(奥)・71号住居跡(手前)全景 西から



H-54号住居跡 P1 全景 西から



H-71号住居跡・H-54号鍛冶工房跡セクション 南から



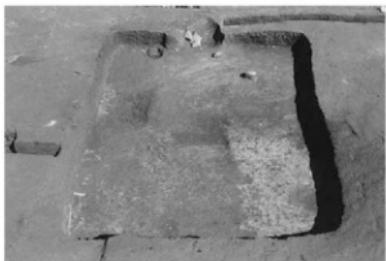
H-52号住居跡全景 西から



H-52号住居跡出土遺物① 西から



H-52号住居跡出土遺物② 西から



H-55号住居跡全景 西から



H-57号住居跡全景 南西から



H-56号住居跡全景 北東から



H-56号住居跡竪内出土遺物 東から



H-56号住居跡全景 東から



H-58号住居跡全景 南西から



H-59号住居跡全景 西から



H-59号住居跡鉄鎌出土状況 南から



H-60号住居跡全景 西から



H-61号住居跡全景 西から



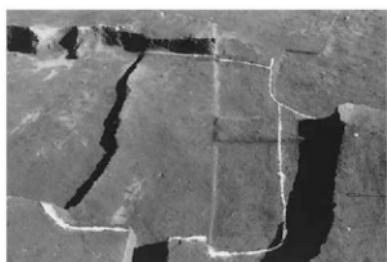
H-63号住居跡全景 西から



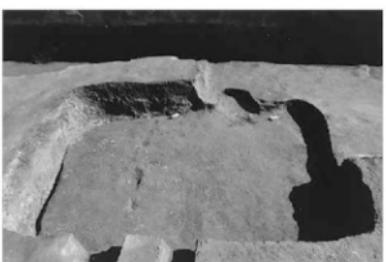
H-64号住居跡全景 北から



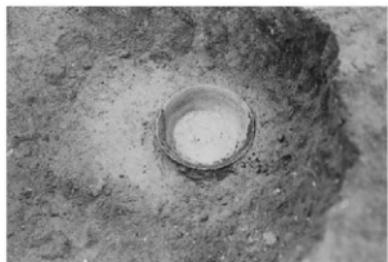
H-65号住居跡全景 北から



H-66号住居跡全景 西から



H-67号住居跡全景 西から



H-67号住居跡出土遺物 南西から



H-70号住居跡(左手前)全景 西から



H-69号住居跡全景 西から



H-68号住居跡出土遺物 西から



T-1号堅穴状遺構全景 西から



T-2号堅穴状遺構全景 西から



T-3号堅穴状遺構全景 西から



B-1号堀立柱建物跡全景 西から



J-1号住居跡全景 西から



J-1号住居跡出土遺物 西から



J-2号住居跡全景 西から



J-2号住居跡出土遺物 東から



JD-1号土坑全景 西から



H-1号住居跡全景 西から



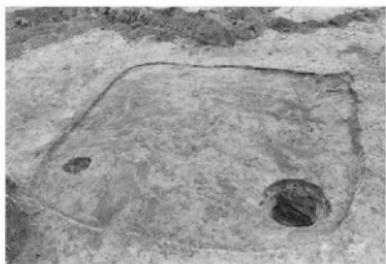
H-1号住居跡竪掘り方 西から



H-2号住居跡全景 西から



H-3号住居跡全景 西から



H-4号住居跡全景 西から



41-龜-3



41-龜-16



41-龜-26



41-龜-22



41-龜-28



41-龜-25



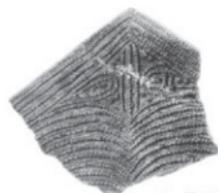
41-龜-35



41-龜-38



41-龜-19



41-龜-34



41-龜-39



41-土-4



41-龜-29



41-3



41-4



41-2



41-1



41-5



41-10



41-9



41-11



41-12



41-13



41-15



41-16



41-17



41-20



41-23



41-22



41-21



41-25



41-26



41-27



41-29



41-33



41-34



41-35



41-36



41-37



41-38



41-40



41-43



41-41





41-64



41-70



41-73



41-69



41-74



41-72



41-75



41-79



41-85



41-82



41-84



41-83



41-87



41-86



41-89





41-112



41-111



41-117



41-118



41-119



41-121



41-103



41-102



41-124



41-125



41-126



41-127



41-130



41-129



41-131



41-133



41-135



41-134



41-136



41-137



41-138



43-1



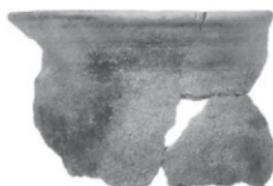
43-2



43-12



43-14



43-5



43-7



43-15



43-10



43-17



43-20



43-19



41-137



41-106



41-94



41-35



41-138

墨书土器

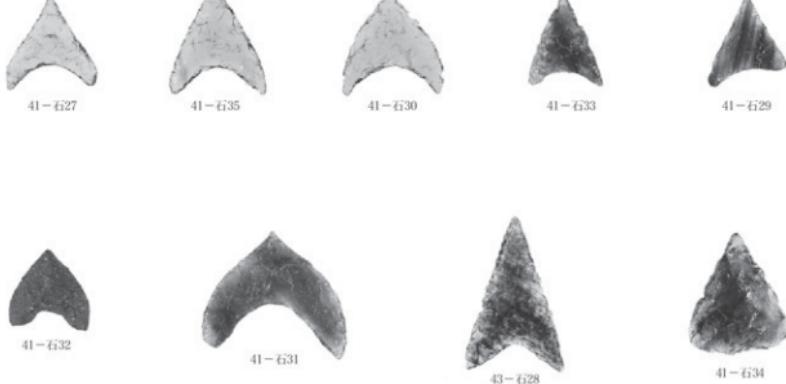
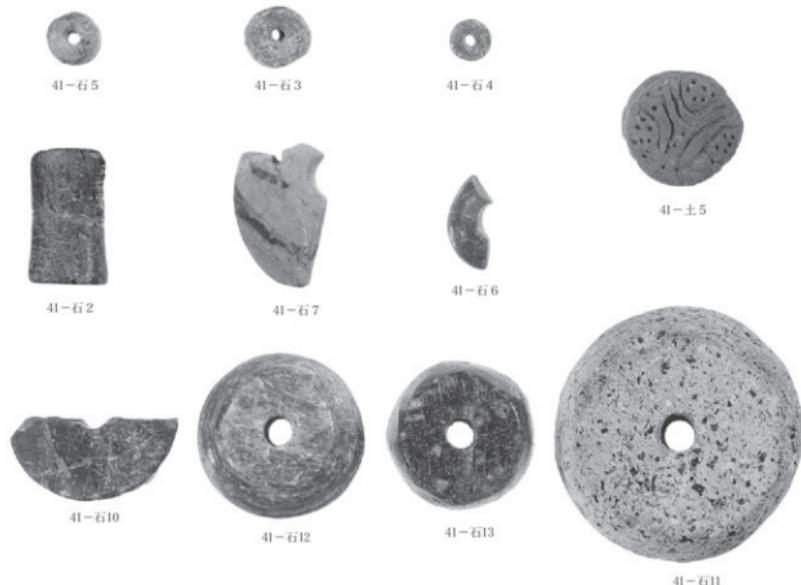


41-127



41-136

刻书土器





41-G16



41-G18



41-G14



41-G15



41-G17



41-G20



41-G19



41-G22



41-G23



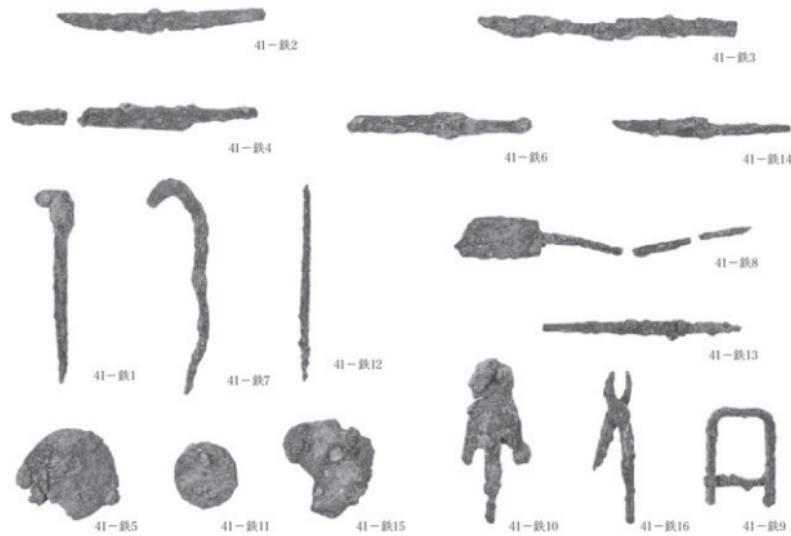
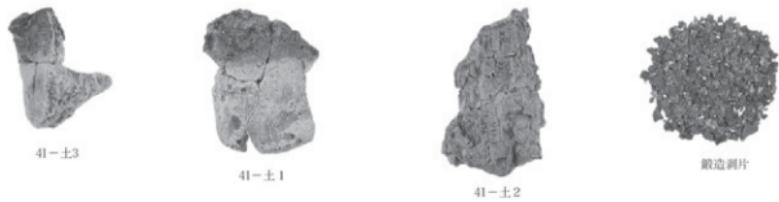
41-G21



41-G25



41-G26





41-JU1



41-JU3



41-JU4



41-JU5



41-JU6



41-JU11



41-JU6



41-JU13



41-JU15



41-JU12



41-JU17

抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン
書名	元總社蒼海遺跡群 (41)、(42)、(43)
副書名	前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小峰 篤・瀧澤重雄
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2013年3月22日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
元總社蒼海遺跡群 (41)	前橋市元總社町1608他	10201	24A130-41	36°23'19"	139°01'50"	20120510 ↓ 20121221	1,943m ²	前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業
元總社蒼海遺跡群 (42)	前橋市總社町3054-2	10201	24A130-42	36°23'29"	139°02'21"	20120518	8 m ²	
元總社蒼海遺跡群 (43)	前橋市元總社町1445-25他	1020	24A130-43	36°23'08"	139°02'05"	20120518 ↓ 20120607	280m ²	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元總社蒼海遺跡群 (41)	集落跡	繩文時代	竪穴住居跡 2軒、土坑 1基	縄文土器、石製品	奈良三彩
		古墳時代	竪穴住居跡12軒	土師器、須恵器	綠釉陶器
		奈良・平安時代	竪穴住居跡53軒	土師器、須恵器、灰釉陶器、 鉄製品、石製品、瓦	青磁
		中世	竪穴状遺構 3軒 鍛冶工房跡 1軒 掘立柱建物跡 1軒、溝跡 1条、 井戸跡 1基、風到本跡 1箇所、 道路状遺構 1条	土師器、須恵器	金付着灰釉陶器
元總社蒼海遺跡群 (42)			遺構なし		
元總社蒼海遺跡群 (43)	集落跡	奈良・平安時代	竪穴住居跡 4軒 溝跡 1条	土師器、須恵器、石製品、瓦	須恵器盤

元総社蒼海遺跡群（41）
元総社蒼海遺跡群（42）
元総社蒼海遺跡群（43）

2013年3月18日 印刷
2013年3月22日 発行

発行・編集 前橋市教育委員会
前橋市三俣町二丁目10-2
印 刷 朝日印刷工業株式会社
